

## II 調查結果

### 2 個別分析

## 2 個別分析

(1) 高齢者一般調査	
①調査結果の概要	77
②調査結果	78
【高齢者一般】	78
【特定高齢者（利用・未利用）】	101
(2) これから高齢期を迎える方の調査	
①調査結果の概要	107
②調査結果	108
(3) 介護サービス利用者調査	
①調査結果の概要	125
②調査結果	126
(4) これから高齢期を迎える方の調査（介護サービス利用者）	
①調査結果の概要	150
②調査結果	151
(5) 介護サービス未利用者調査（要介護認定者）	
①調査結果の概要	163
②調査結果	164
(6) 介護サービス事業所調査	
①調査結果の概要	170
②調査結果	171

※個別分析は、各調査の回答を抜粋して性・年齢層別、要介護度別等のクロス集計をしたものである。

※全設問の結果については、資料参照。

※回答の全体数は、「高齢者一般調査」のように調査名として記載しているほか、横帯グラフの右端に「サンプル数」、または「n=〇〇〇」のように項目別に示している。

※「前期高齢者」は「65～74歳」、「後期高齢者」は「75歳以上」の年齢層である。

※特定高齢者とは、65歳以上の方を対象とする「生活機能評価」の結果、要支援・要介護状態になるおそれがあると評価された方を指す。

## (1) 高齢者一般調査

### ①調査結果の概要

#### 【高齢者一般】

##### 《回答者（高齢者一般）の状況について》

- ◆ 世帯構成については、単身（ひとりぐらし）世帯が16.5%、夫婦のみの世帯が40.3%、その他の世帯が41.5%である。
- ◆ 平日の昼間の時間帯に「自分ひとりである・自分のひとりのことが多い」とする回答が、夫婦のみの世帯で14.3%、その他の世帯では25.6%である。

##### 《健康・日常生活について》

- ◆ 健康面では、「食事や栄養に気をつけている」「定期的に健康診断などを受けている」とする回答が、男女とも7割～8割みられる。また、健康診査は、過去1年間に「受けた」が85.8%である。
- ◆ ふだんの外出頻度は、「ほぼ毎日外出している」は5割、「週2～3日程度」は3割みられる。
- ◆ 自分の生活習慣についての考え方は、「生活習慣に特に問題はない」が45.0%であった。「改善が必要だとは思うが、容易には変えられない」が22.0%である一方、「改善が必要だと思い具体的に組みたいと考えている」は12.0%、「改善が必要だと思い、取り組み・行動を始めている」は11.2%と改善への意向も2割ほどみられる。

##### 《就労状況、生活の満足度について》

- ◆ 就労状況は、性・年齢層別で違いがみられ、「仕事についている」のは、男性の前期高齢者51.3%に対し、女性は24.4%、男性の後期高齢者は16.3%、女性は7.1%である。
- ◆ 現在の生活の満足度をみると、性別・年齢層別に関わらず、「とても満足している」「満足している」を合わせた回答は、6割を超えている。一方、「あまり満足していない」「満足していない」を合わせた回答は、3割程度みられる。

#### 【特定高齢者（利用・未利用）】

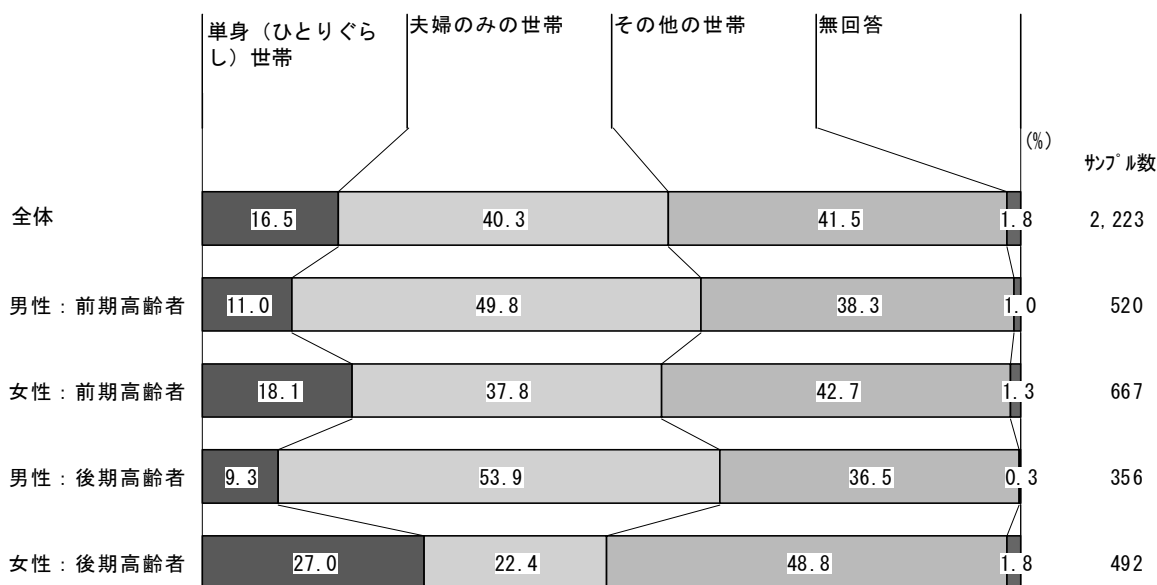
- ◆ 特定高齢者の性・年齢層分布をみると、介護予防事業の利用者は、男性が24.4%、女性が67.2%である。また、後期高齢者が介護予防事業利用者では60.6%、介護予防事業未利用者は64.9%と、約6割を占めている。
- ◆ 介護予防事業の利用状況をみると、「高齢者筋力トレーニング」（38.7%）、「転倒予防のための体力づくり教室」（35.3%）の2つの事業の利用者が多い。
- ◆ 介護予防事業の利用のきっかけは、「自分で必要と判断したため」が前期高齢者・後期高齢者ともに高い割合であるが、前期高齢者では、「医師等の専門家からの指導や助言」が最も高い割合である。
- ◆ 介護予防事業の未利用の理由をみると、「自分で健康管理をこころがけている」が48.7%で最も高く、次いで「利用するほど悪いとは思わない」が38.5%である。

## ②調査結果

### 【高齢者一般】

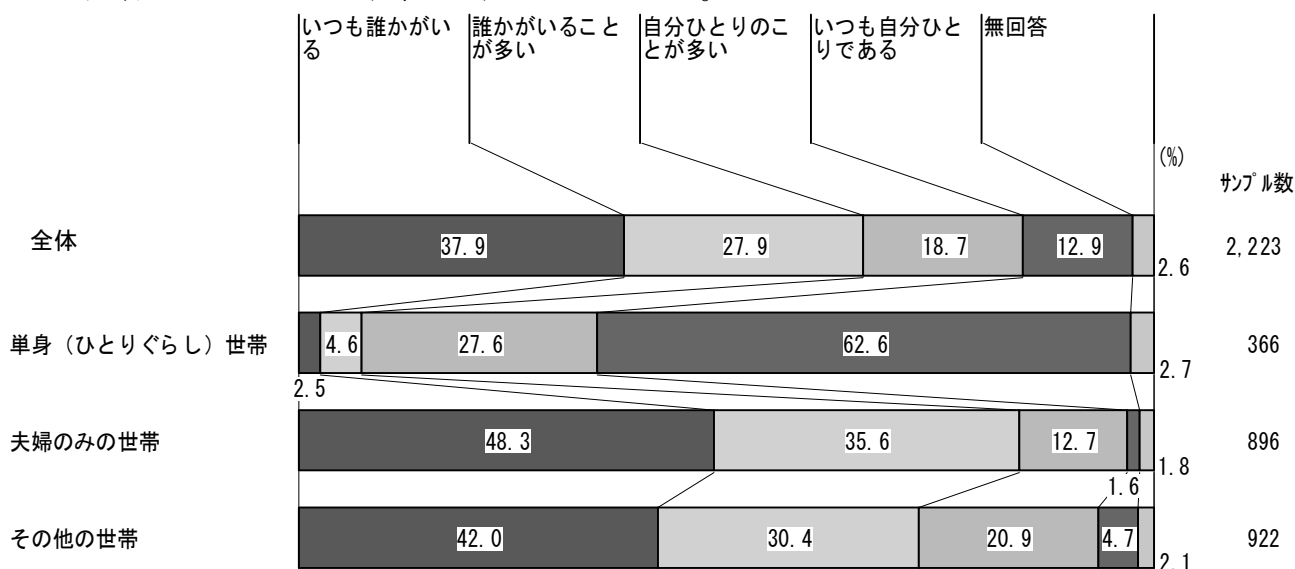
#### <ア 世帯構成>

世帯構成について性・年齢層別にみると、女性は、男性より前期高齢者、後期高齢者ともに「単身（ひとりぐらし）世帯」の割合が高い。なお、男性は、前期高齢者の方が後期高齢者より「単身（ひとりぐらし）世帯」の割合が高い。



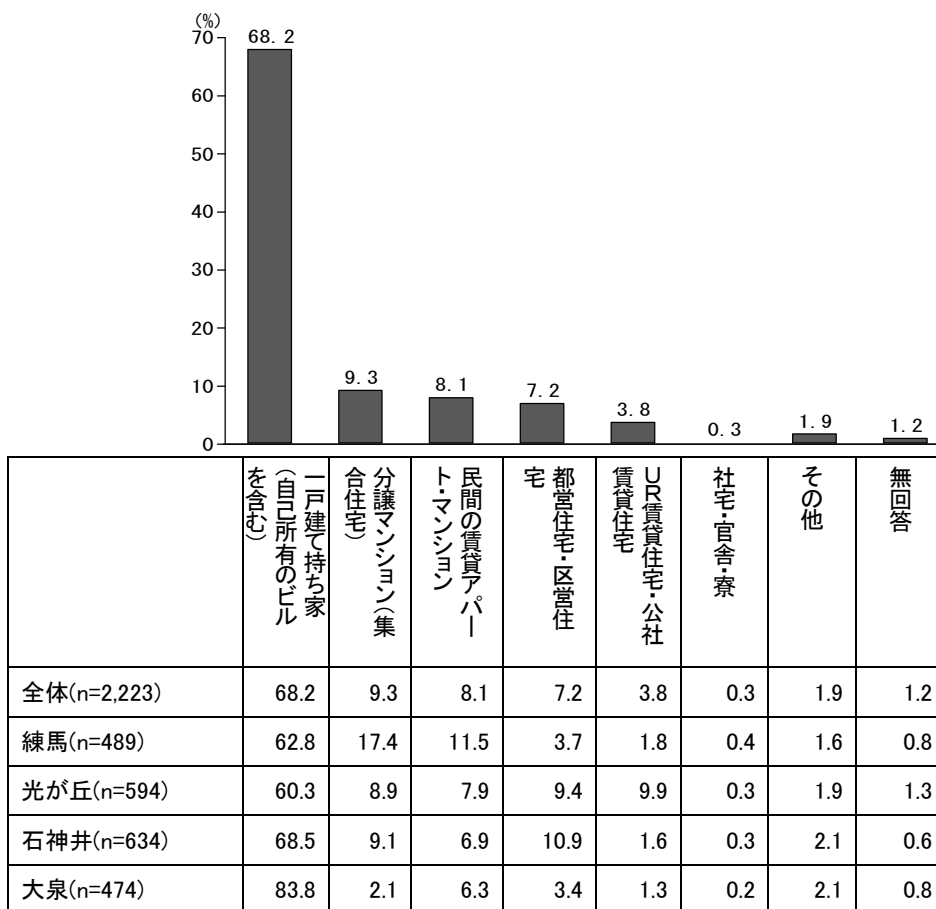
#### <イ 平日の昼間の在宅者>

平日の昼間の在宅者について世帯構成別にみると、「単身（ひとりぐらし）世帯」ではない「夫婦のみの世帯」「その他の世帯」でも平日の昼間は「いつも自分ひとりである」との回答がそれぞれ1.6%、4.7%となっている。



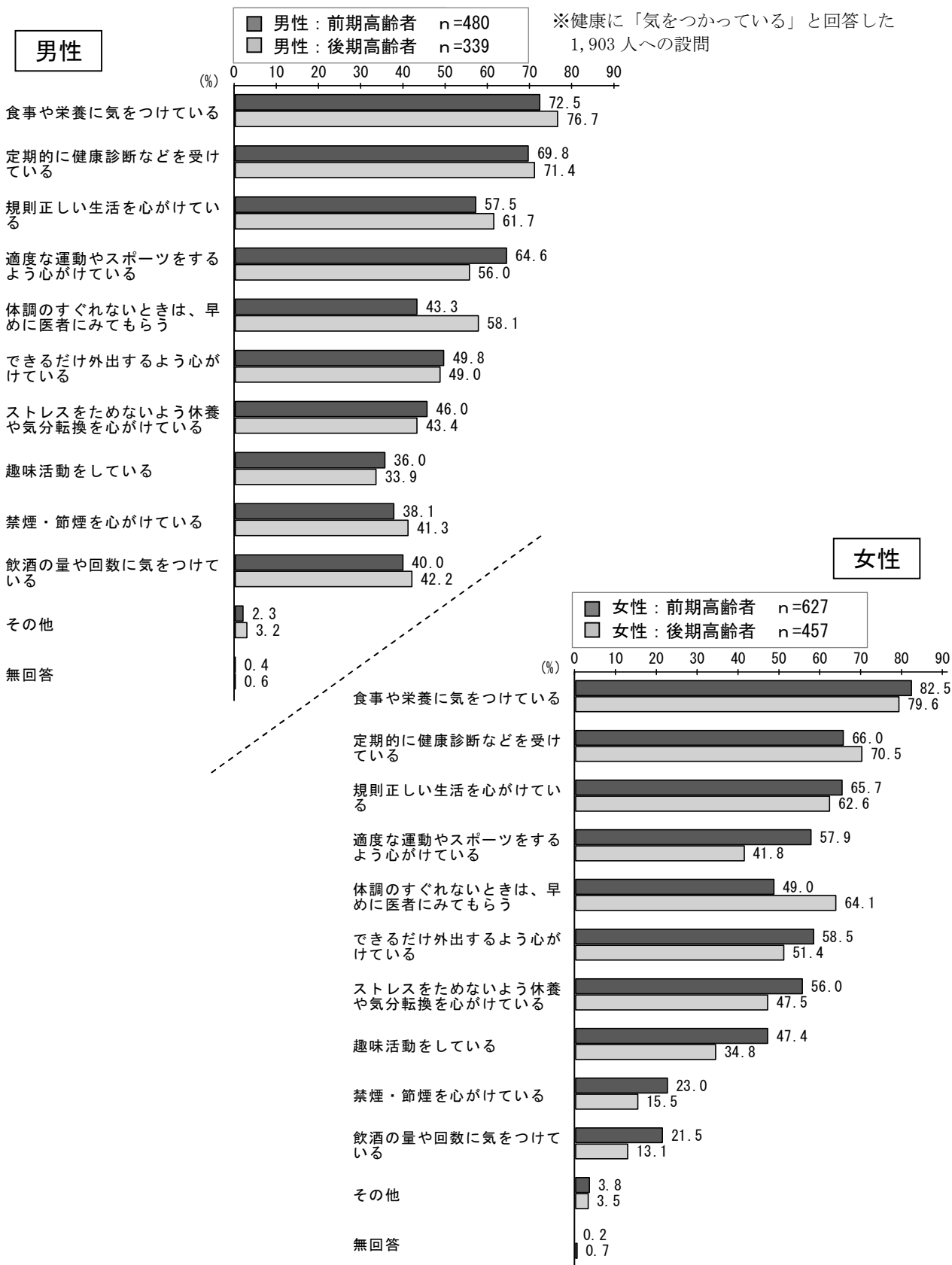
## <ウ 住居形態>

住居形態について居住地区別にみると、「一戸建て持ち家」に居住する割合は、「大泉地区」で83.8%であり最も高い。また、「分譲マンション（集合住宅）」「民間の賃貸アパート・マンション」に居住する割合は、「練馬地区」で17.4%、11.5%とそれぞれ1割を超えている。「都営住宅・区営住宅」に居住する割合は、「石神井地区」で10.9%、「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」に居住する割合は、「光が丘地区」で9.9%であり、ほかの地域に比べて高くなっている。



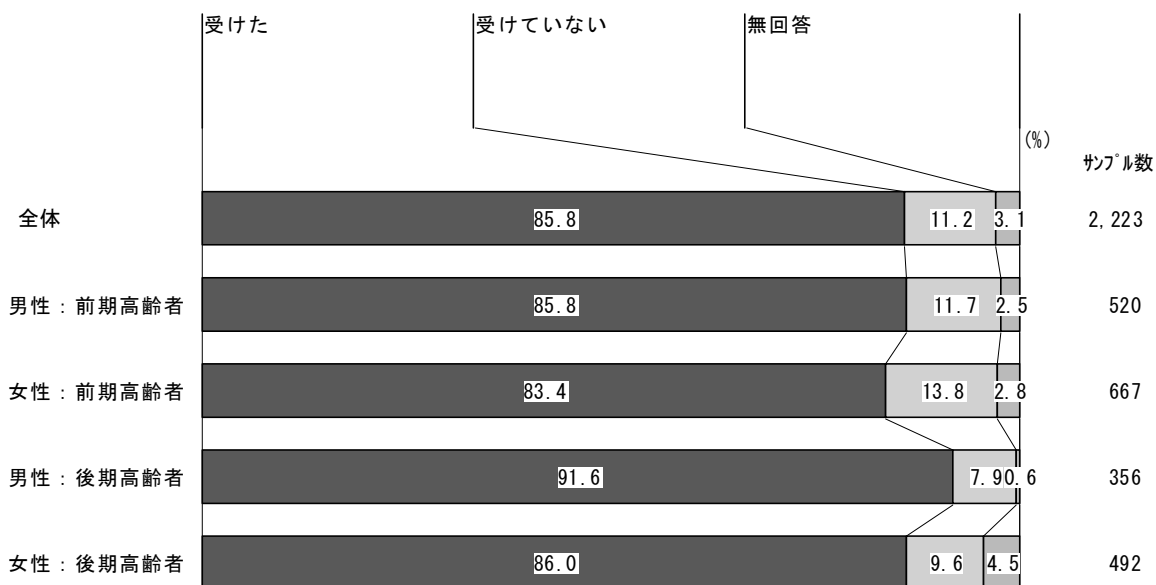
## <エ 特に健康に気を使っていること> 【複数回答】

特に健康に気を使っていることについて性・年齢層別にみると、男女ともに「食事や栄養に気をつけている」の割合が高い。また、後期高齢者の方が「体調のすぐれないときは、早めに医者にみてもらう」の割合が高くなっている。

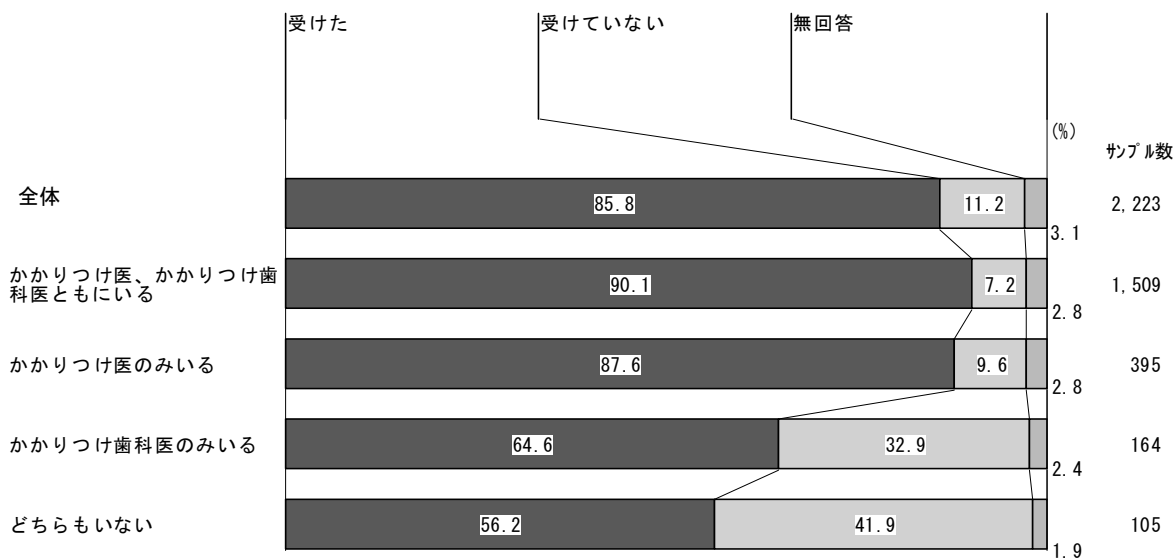


## ＜オ 直近 1 年間の健康診査受診の有無＞

この 1 年間の健康診査受診状況については、性・年齢層別にあまり差はみられないが、後期高齢者の男性では「受けた」とする割合が 91.6%と比較的高い。

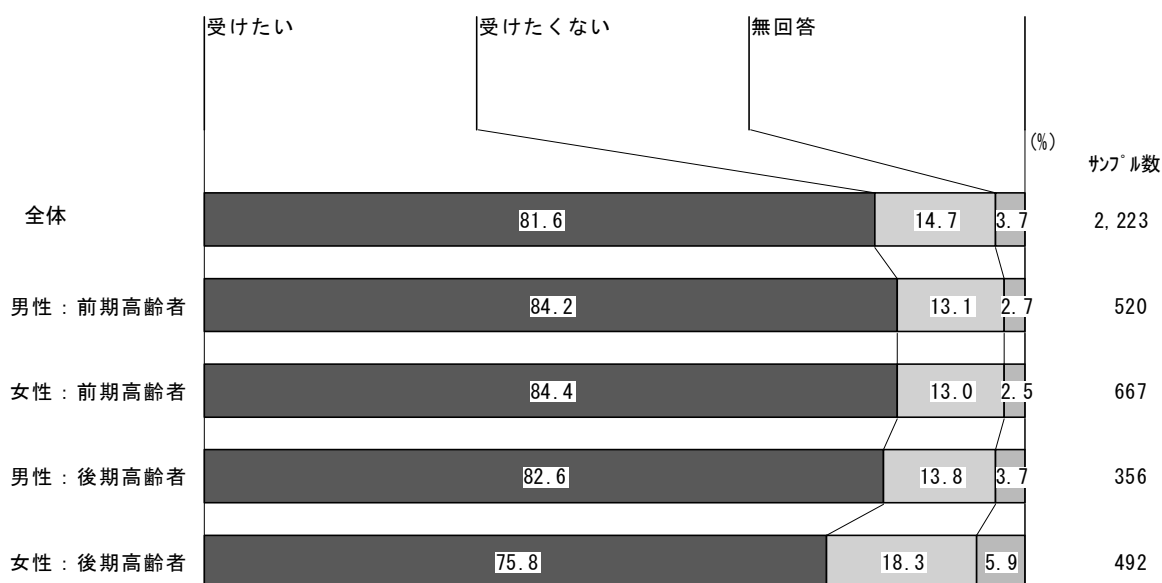


この 1 年間の健康診査受診状況についてかかりつけ医・かかりつけ歯科医の有無別にみると、かかりつけ医・かかりつけ歯科医が「どちらもいない」高齢者では、健康診査を「受けていない」割合が 41.9%と高くなっている。

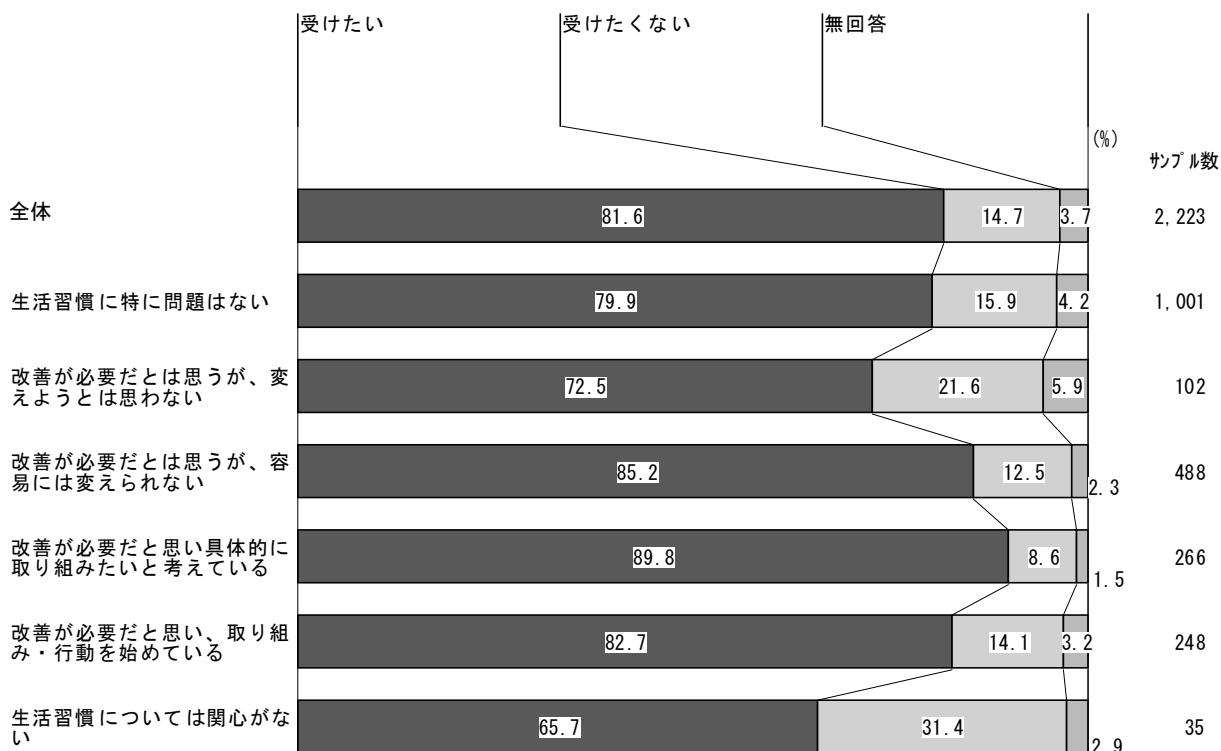


## ＜カ 今後の健康診査受診意向＞

今後の健康診査の受診意向は、後期高齢者より前期高齢者が高く、前期高齢者の男性で84.2%、女性84.4%、後期高齢者の男性は82.6%、女性は75.8%である。



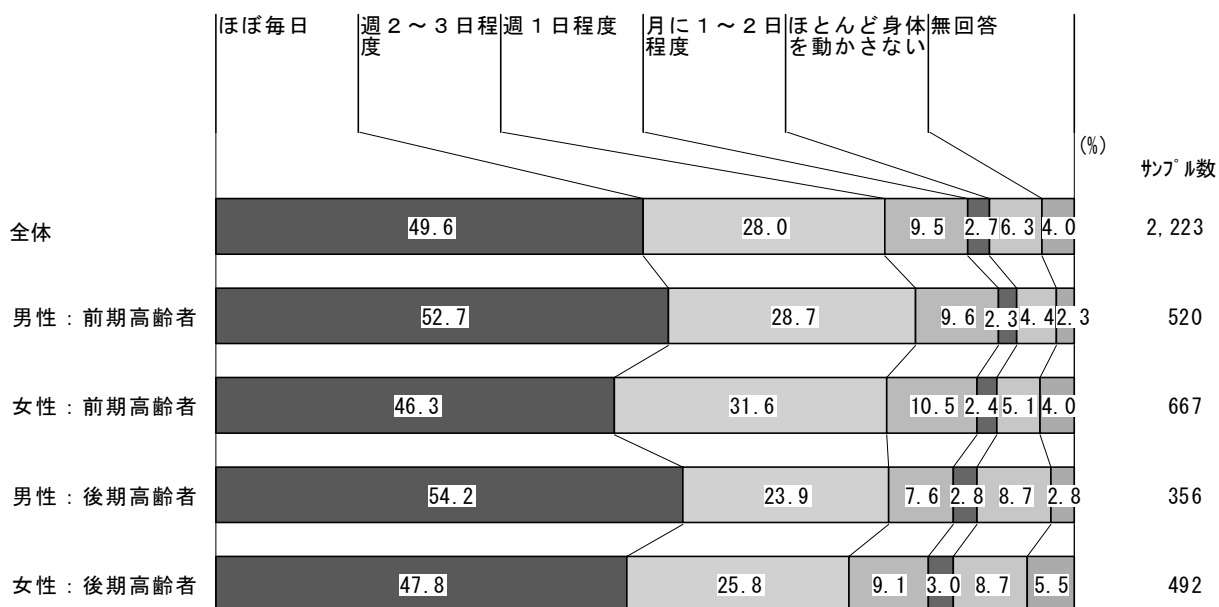
今後の健康診査の受診意向について生活習慣についての考え方別にみると、生活習慣の「改善が必要だと思い具体的に組みたいと考えている」高齢者の89.8%が健康診査を「受診したい」としている。一方、「改善が必要だと思うが、容易には変えられない」高齢者でも85.2%が健康診査を「受診したい」としている。





## <キ 身体を動かす頻度>

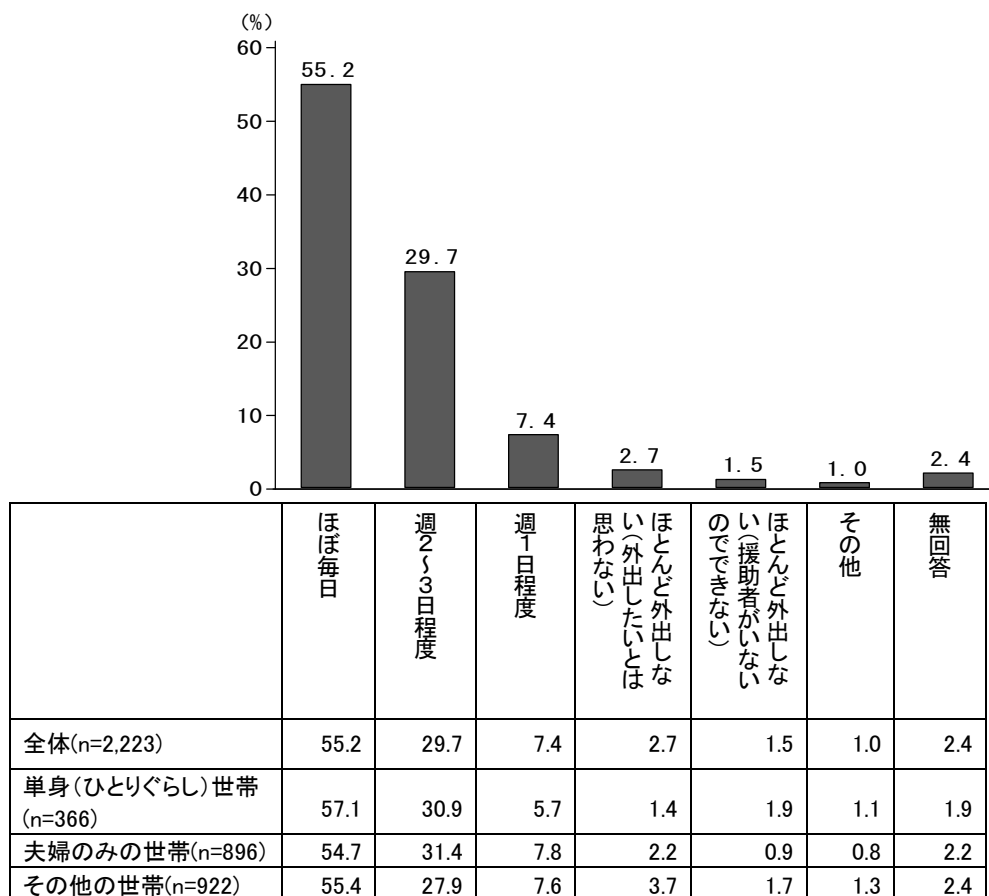
身体を動かす頻度について性・年齢層別にみると、「ほぼ毎日」の割合は女性より男性が高い傾向にある。また、「ほとんど身体を動かさない」の割合は、後期高齢者の男女ともに8.7%であり、前期高齢者より高くなっている。



## <ク 外出頻度>

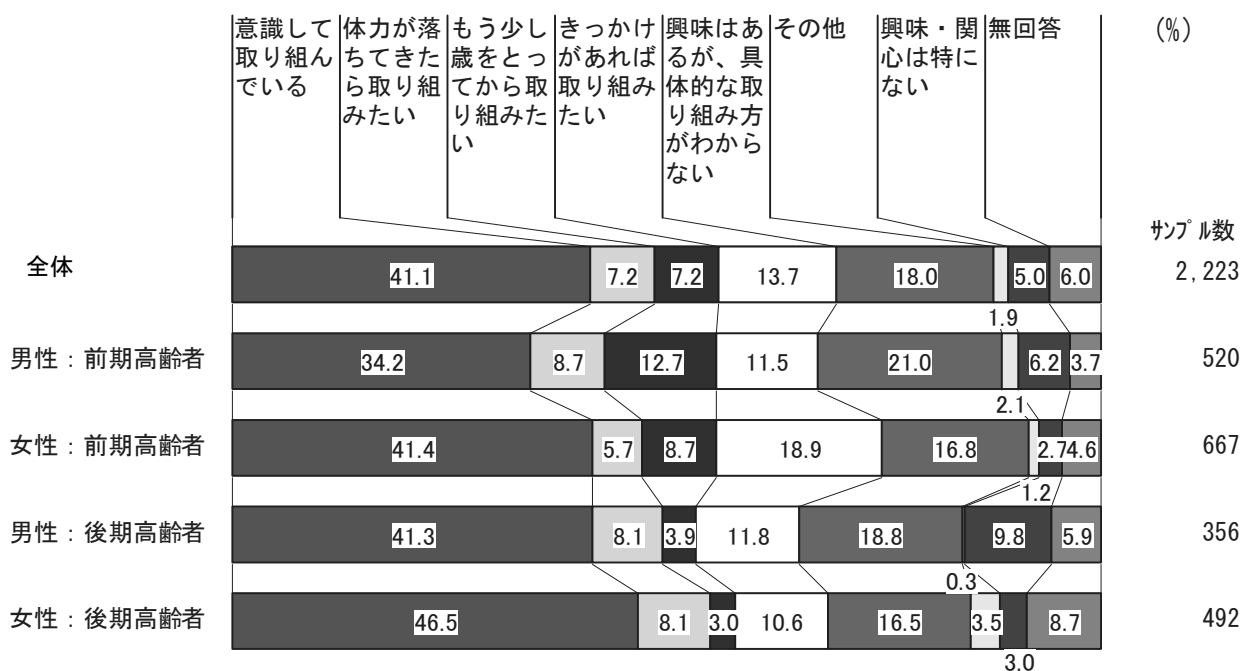
外出頻度について世帯形態別にみると、「ほぼ毎日」と「週2～3日程度」の割合の合計は、単身（ひとりぐらし）世帯が88.0%であり、夫婦のみの世帯の86.1%、その他の世帯の83.3%と比較して高い。

サンプル数 n=2,223



## <ケ 介護予防への取り組み>

介護予防の取り組みについて性・年齢層別にみると、前期高齢者、後期高齢者いずれも男性より女性の方が「意識して取り組んでいる」割合が高い。また、男女とも後期高齢者の方が「意識して取り組んでいる」傾向にある。前期高齢者の女性は「きっかけがあれば取り組みたい」の割合が18.9%と他の性・年齢層より高い。

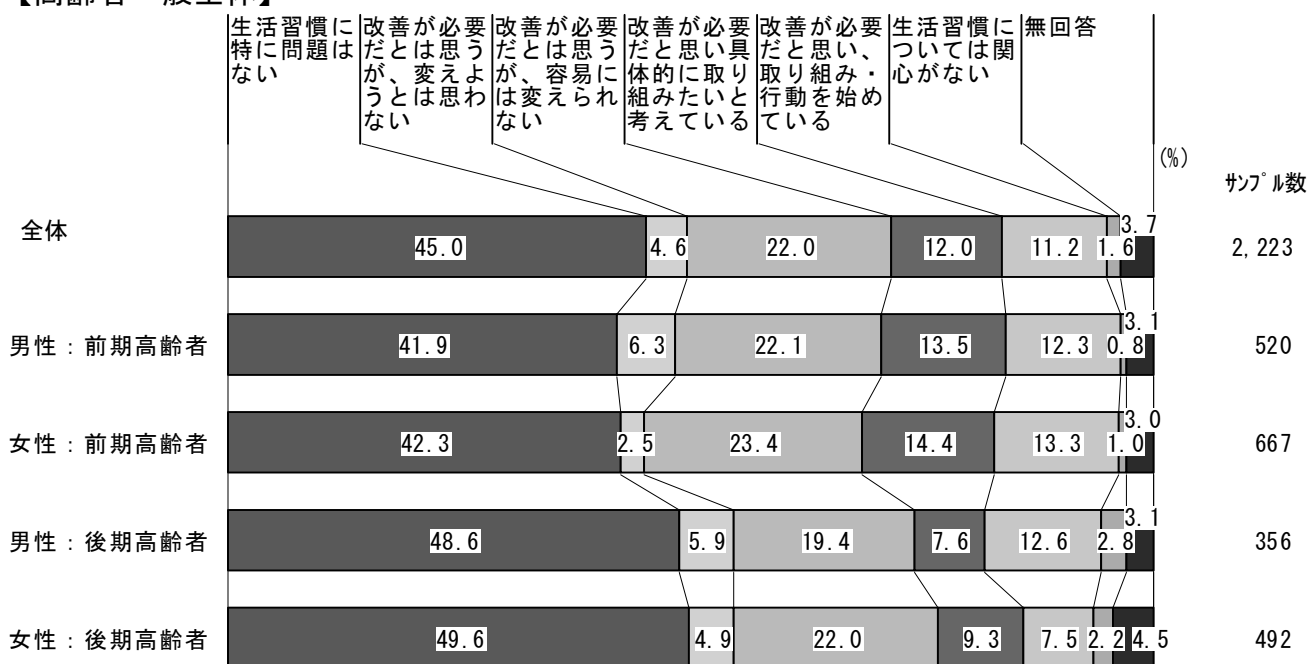


## <コ 生活習慣についての考え方>

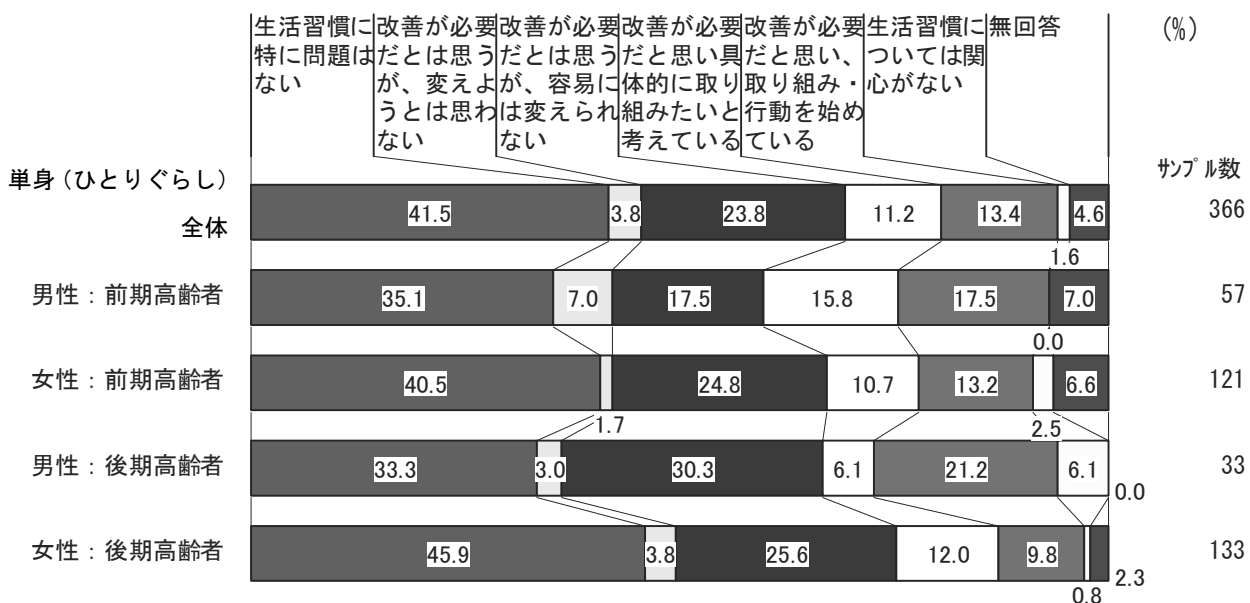
生活習慣についての考え方について性・年齢層別にみると、前期高齢者より後期高齢者の方が「生活習慣に特に問題はない」の割合が高い。

単身（ひとりぐらし）世帯は、「生活習慣に特に問題はない」の割合が高齢者一般全体より低い傾向にある。また、単身（ひとりぐらし）世帯で後期高齢者の男性は「改善が必要だとは思いますが、容易には変えられない」の割合が30.3%と高くなっている。

### 【高齢者一般全体】



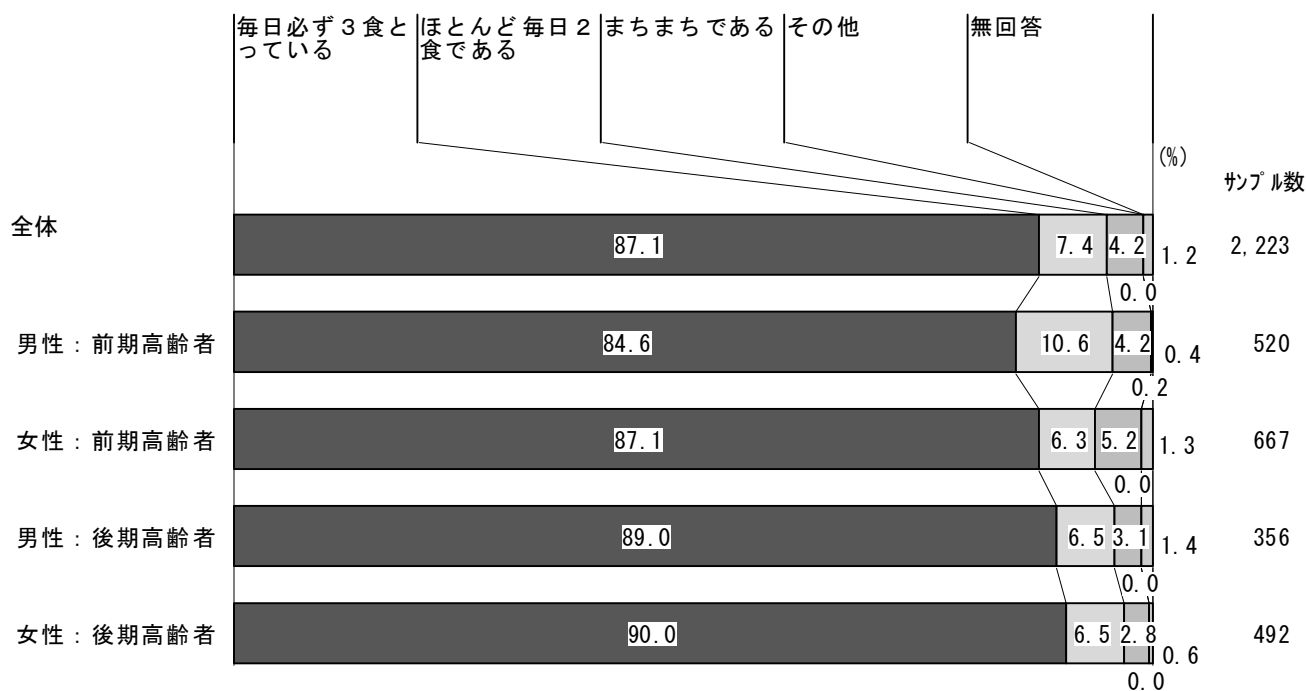
### 【単身（ひとりぐらし）世帯】



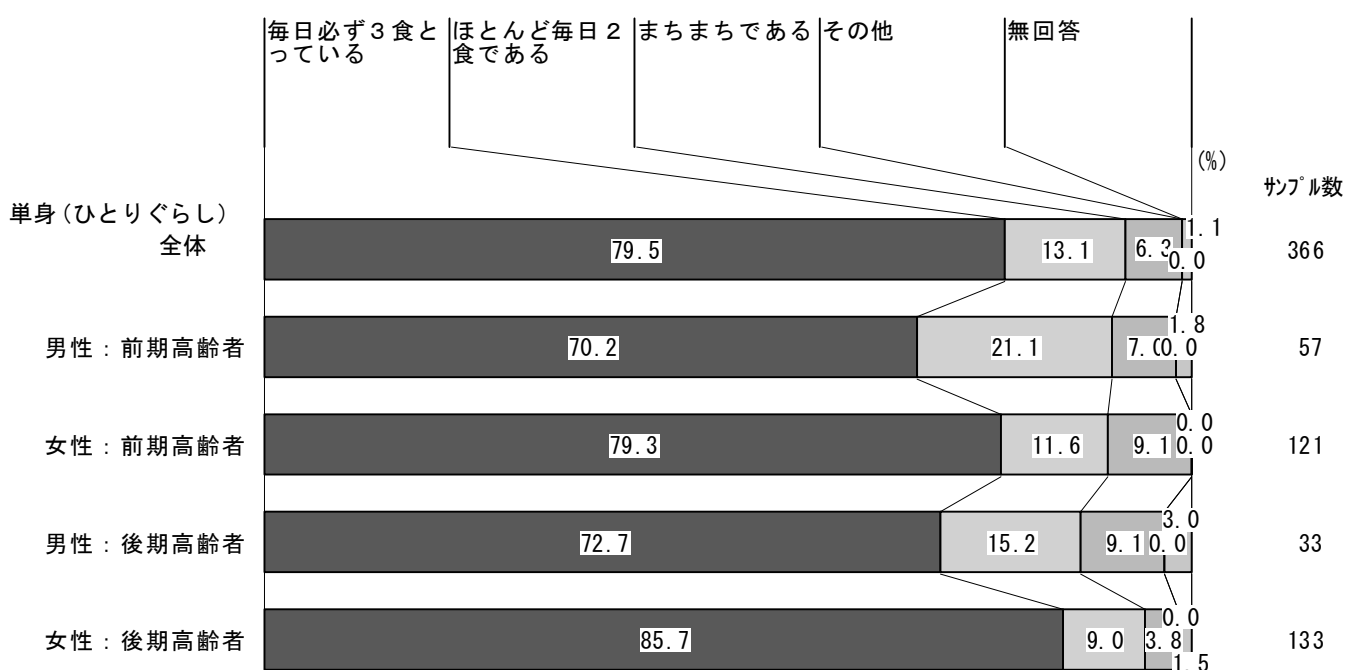
## <サ 3食の摂取状況>

3食の摂取状況について性・年齢層別にみると、全体では9割弱が「毎日必ず3食とっている」が、単身（ひとりぐらし）世帯では約8割弱と若干低い傾向にある。また、男性は女性より「毎日必ず3食とっている」の割合が低く、単身（ひとりぐらし）世帯の前期高齢者の男性で70.2%、後期高齢者の男性では72.7%である。

### 【高齢者一般全体】

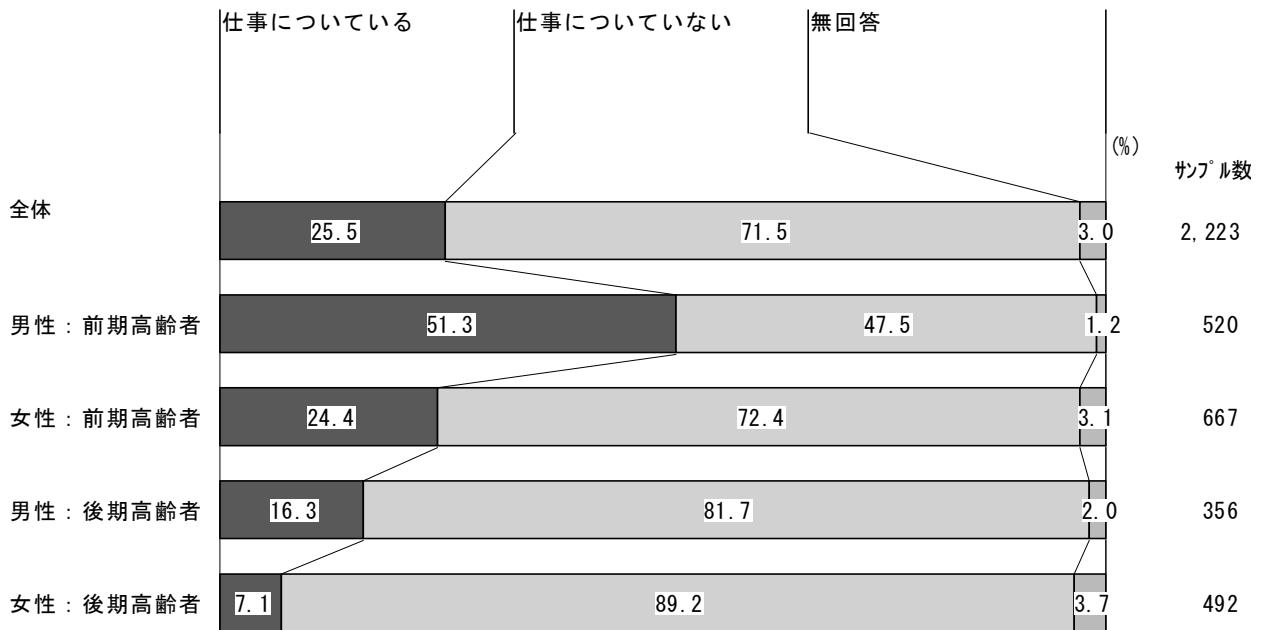


### 【単身（ひとりぐらし）世帯】



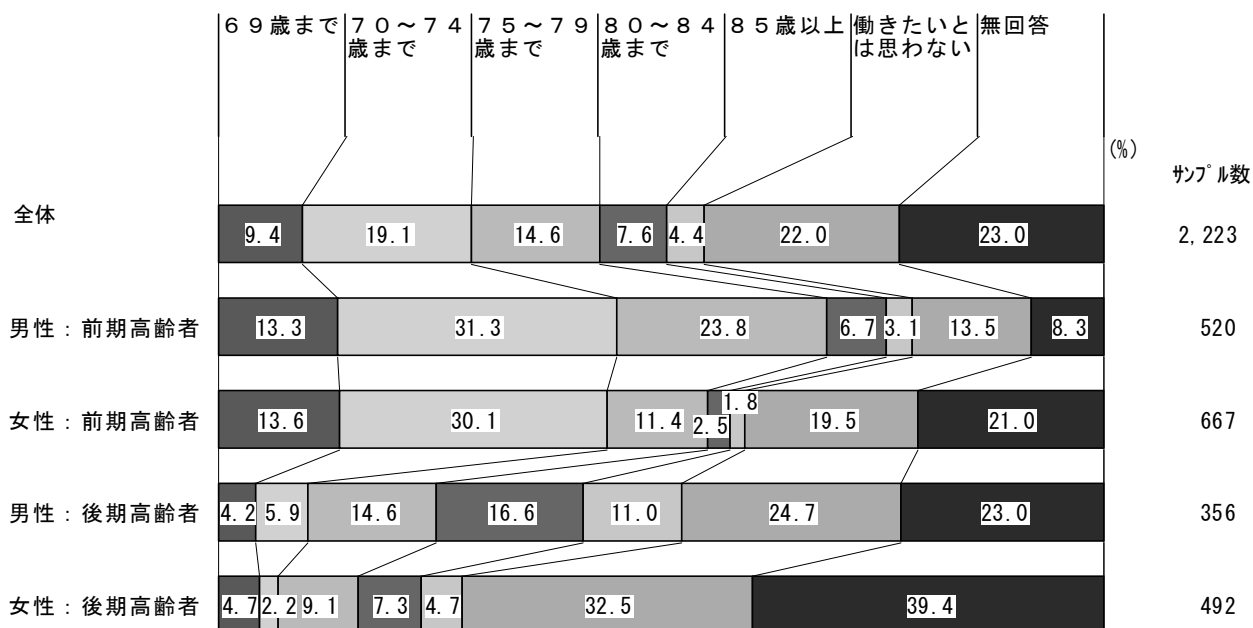
## <シ 就労状況>

就労状況について性・年齢層別にみると、「仕事についている」割合は、前期高齢者の男性は51.3%、女性では24.4%、後期高齢者の男性は16.3%、女性では7.1%である。



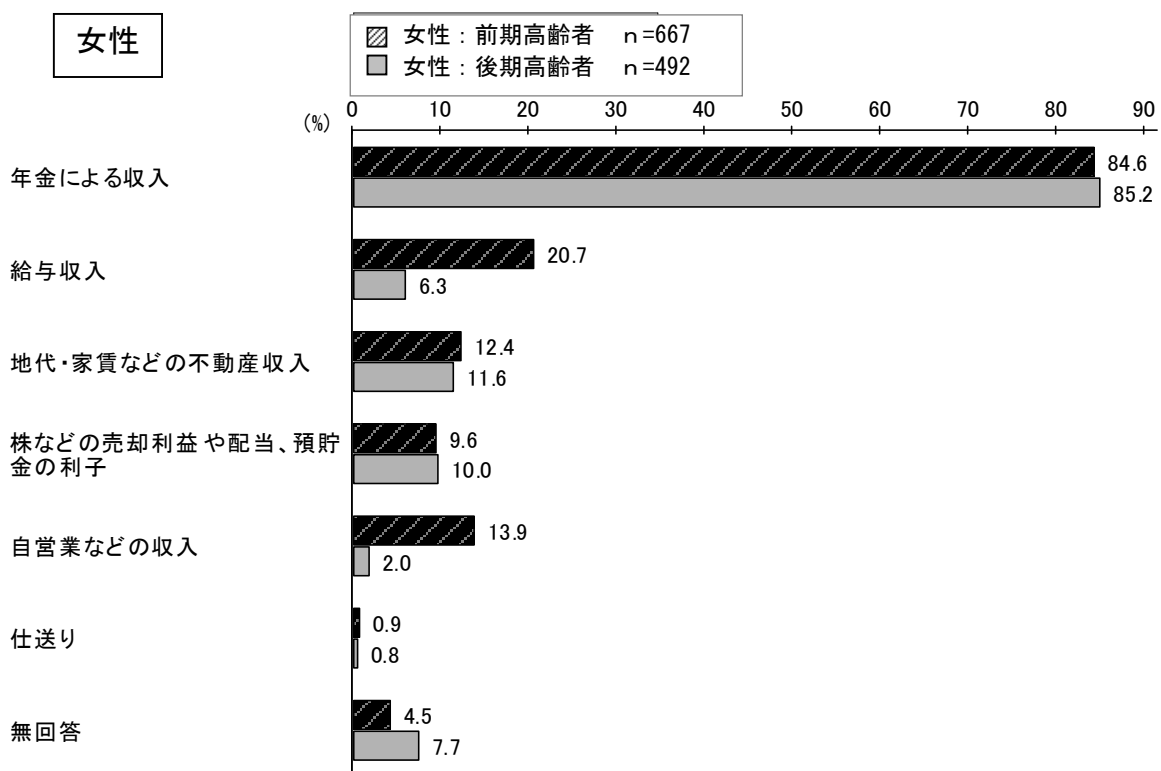
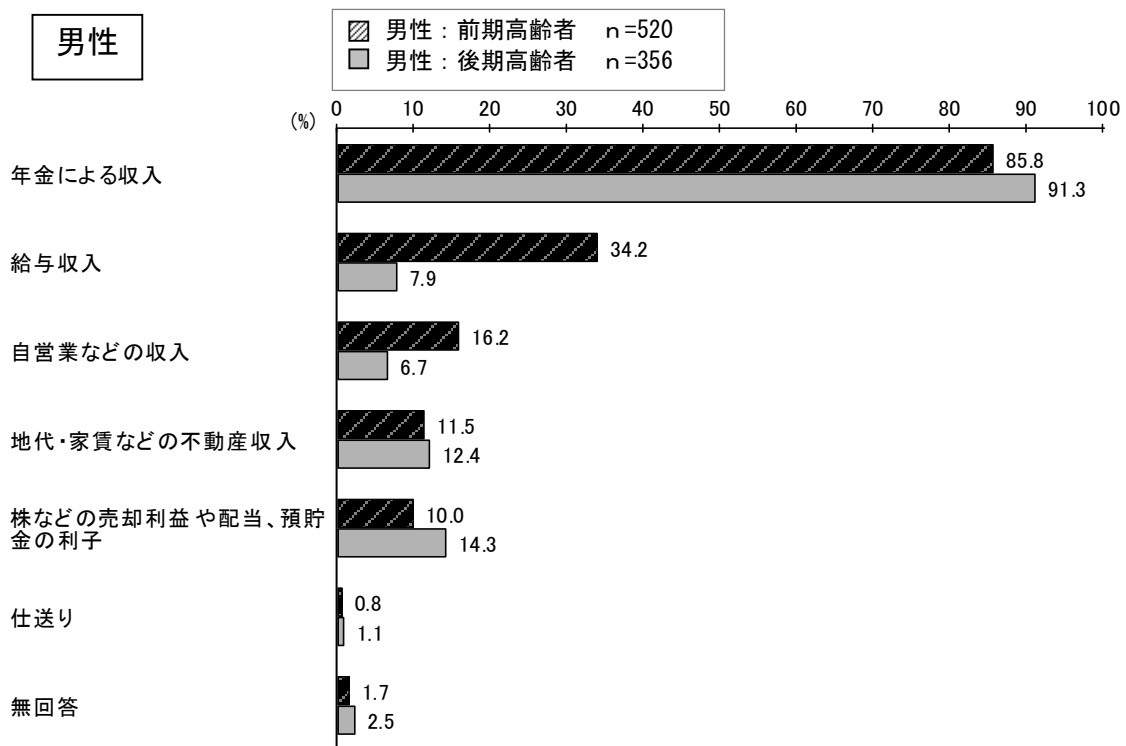
## <ス 就労希望最終年齢>

何歳まで働きたいかについて性・年齢層別にみると、前期高齢者では「70～74歳まで」の割合が高く、男性で31.3%、女性は30.1%となっている。後期高齢者では、「働きたいとは思わない」の割合が高く、男性で24.7%、女性は32.5%となっている。



## <セ 収入源（本人+配偶者）> 【複数回答】

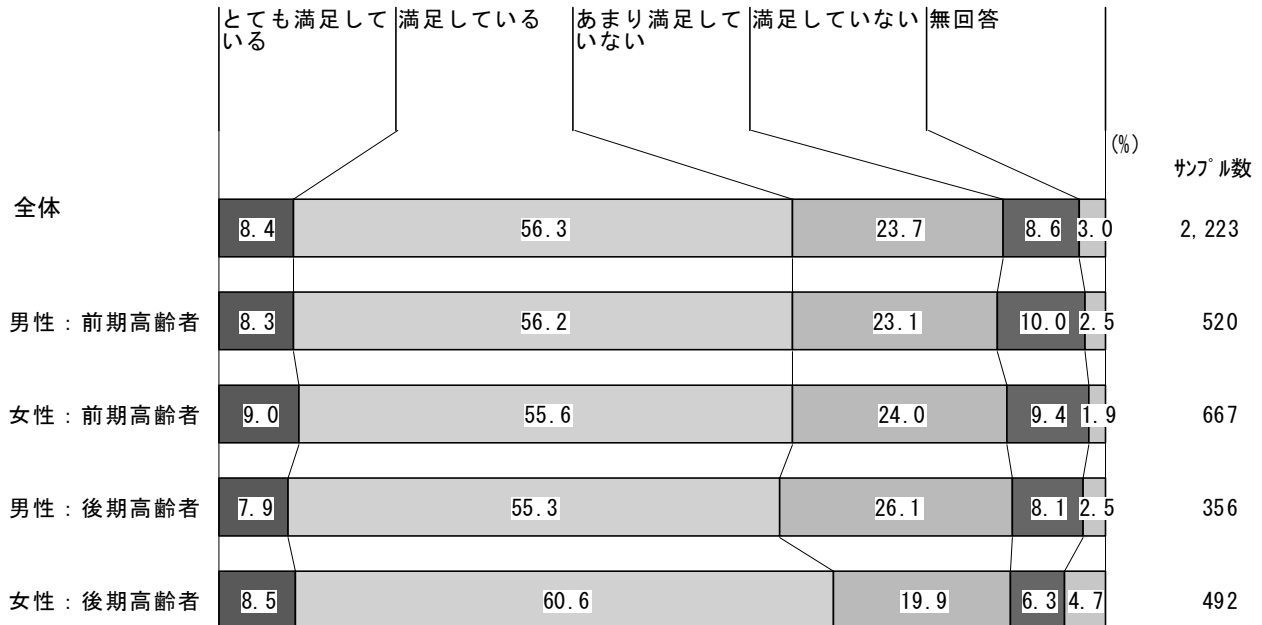
収入源について性・年齢層別にみると、「年金による収入」がいずれも高い割合であるが、前期高齢者では「給与収入」の割合が特に高く、男性は34.2%、女性は20.7%である。





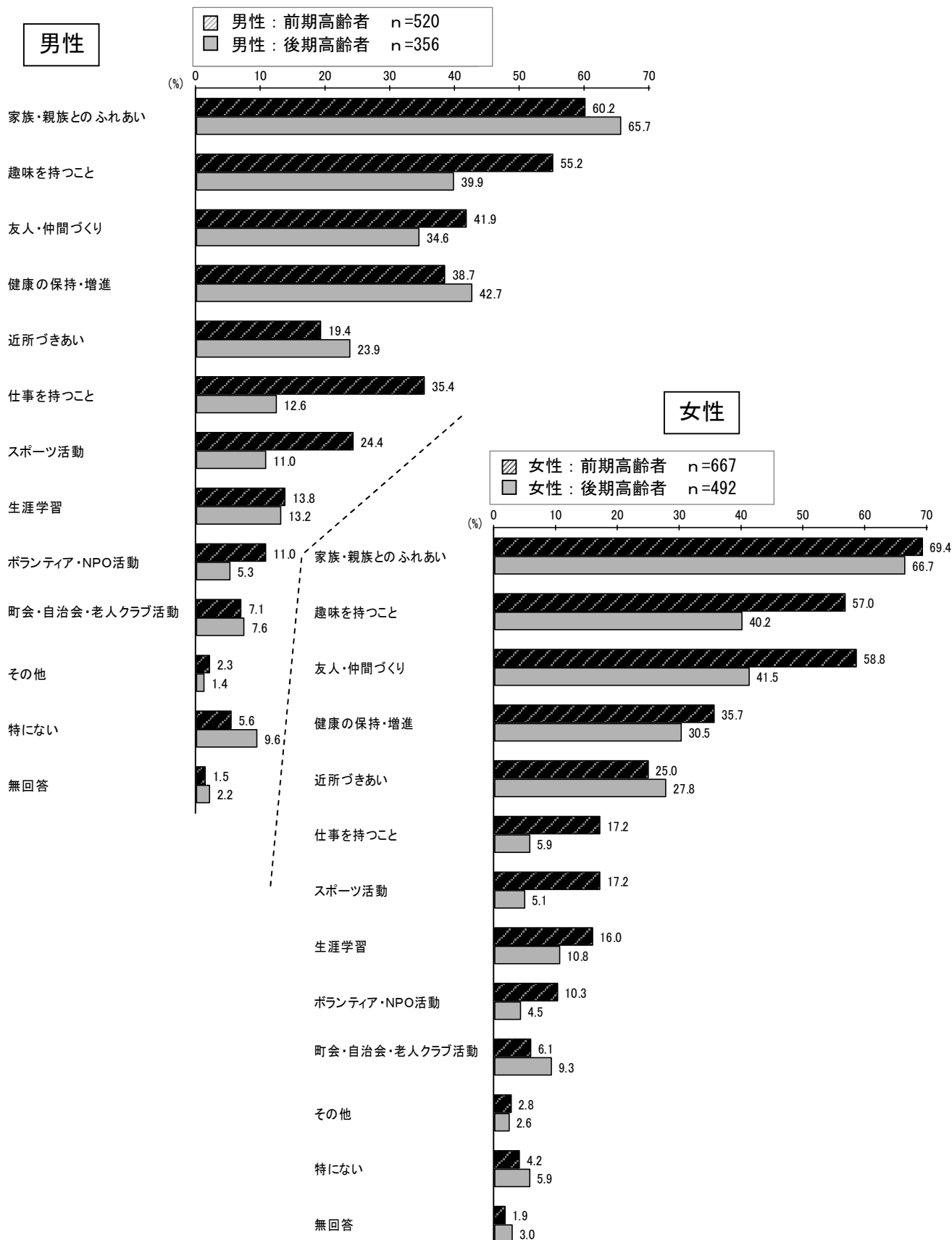
## <ソ 現在の生活の満足度>

現在の生活の満足度について性・年齢層別にみると、いずれも「とても満足している」と「満足している」の割合の合計が6割以上となっている。一方、「あまり満足していない」「満足していない」の合計は3割程度みられる。



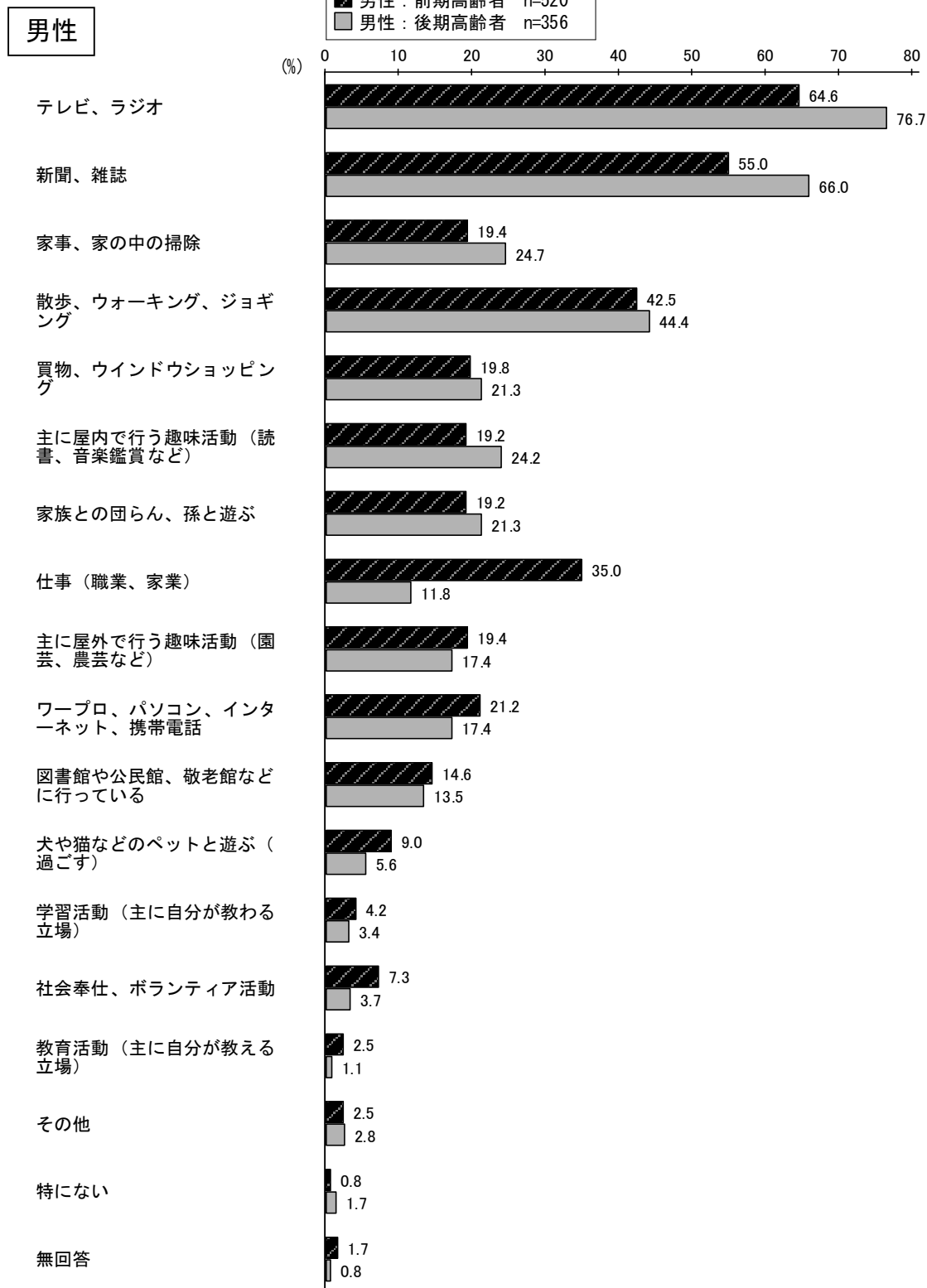
## <タ 生きがい> 【複数回答】

生きがいについて性・年齢層別にみると、いずれも「家族・親族とのふれあい」の割合が高い。女性の前期高齢者では、「趣味を持つこと」「友人・仲間づくり」の割合が57.0%、58.8%と他の性・年齢層よりも比較的高い傾向にある。

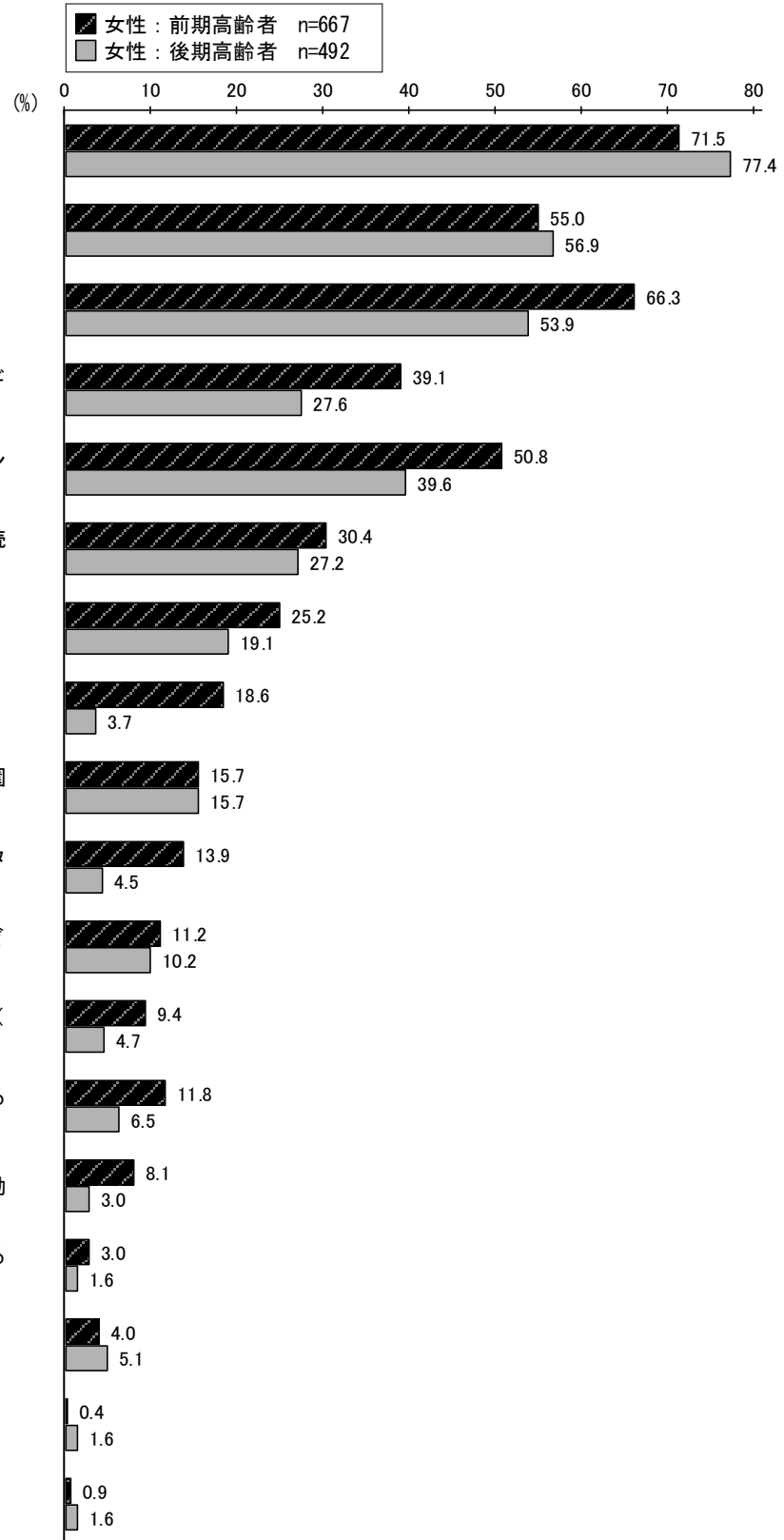


## <子 日中の時間の過ごし方>【複数回答】

日中の時間の過ごし方について性・年齢層別にみると、男女とも後期高齢者では「テレビ・ラジオ」が7割を超えている。また、男性の後期高齢者では「新聞・雑誌」が66.0%と、他の性・年齢層より高く、女性の前期高齢者では「家事、家の中の掃除」が66.3%と、他の性・年齢層より高くなっている。

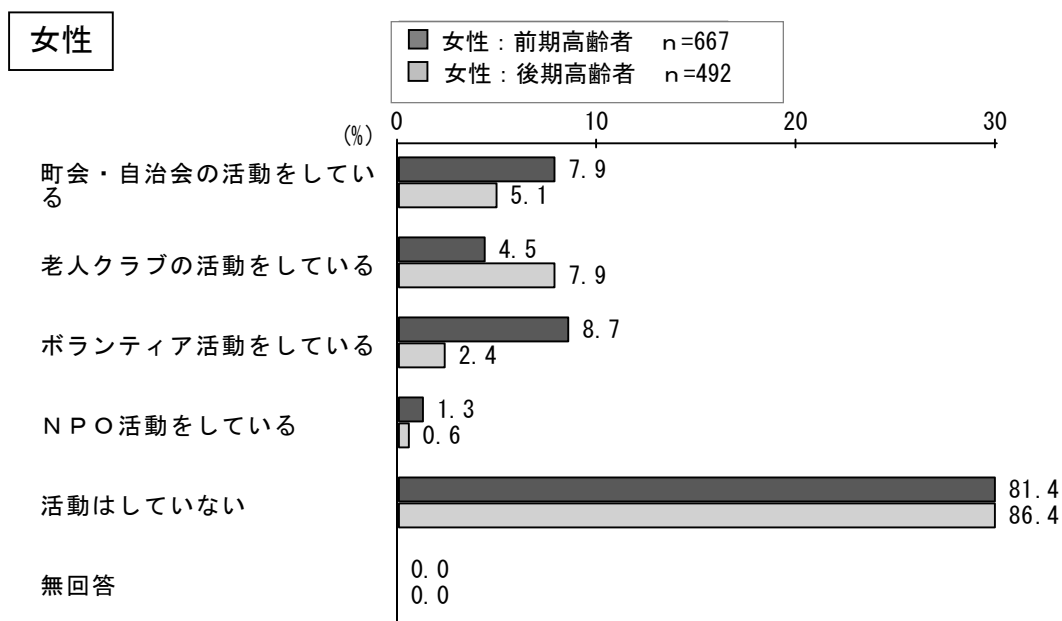
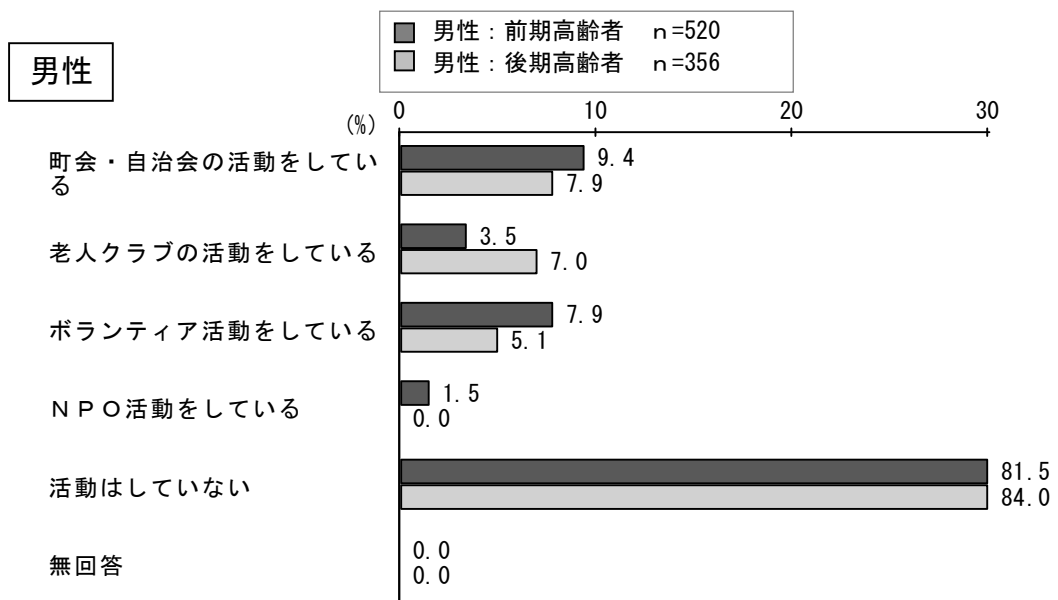


女性



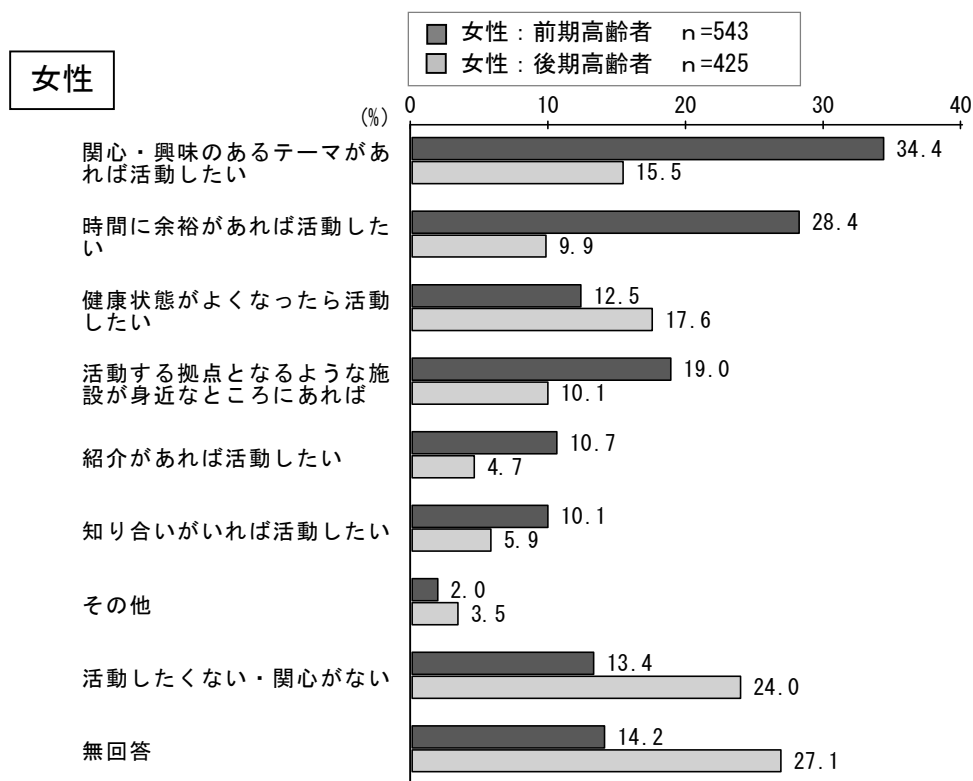
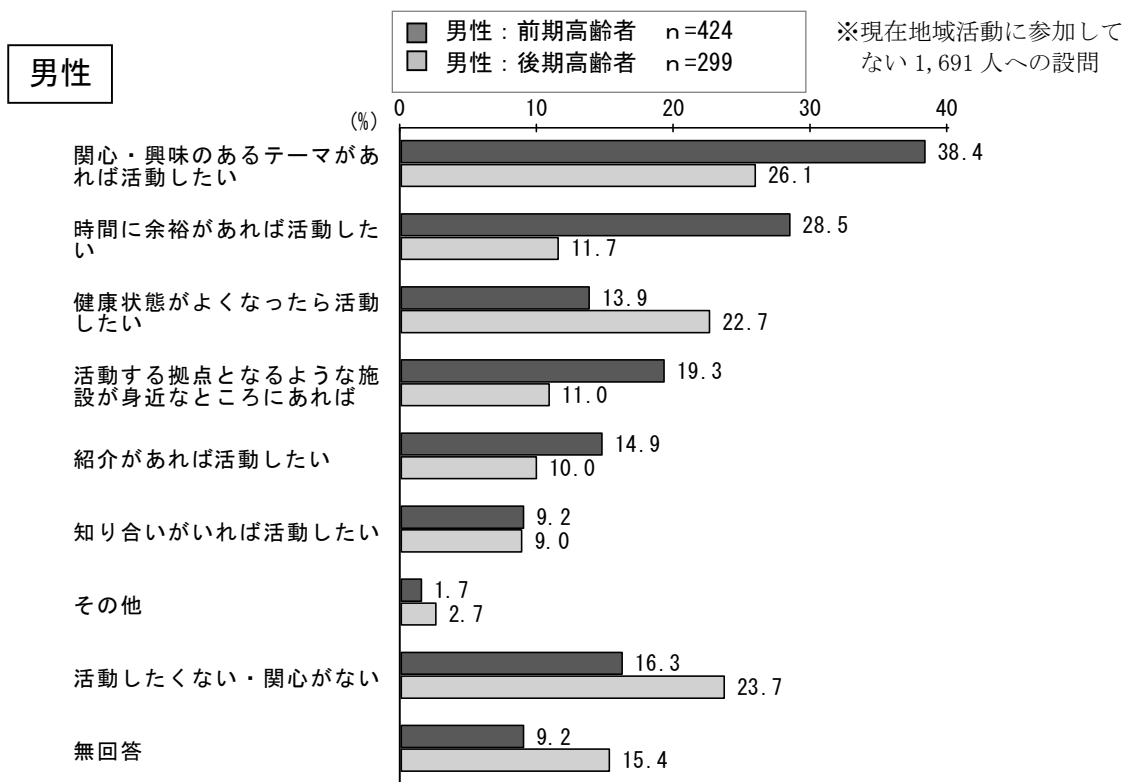
## <ツ 地域活動参加状況> 【複数回答】

地域活動への参加状況について性・年齢層別にみると、男女ともに前期高齢者の方が後期高齢者より「町会、自治会の活動をしている」「ボランティア活動をしている」の割合が高く、「老人クラブの活動をしている」の割合は、後期高齢者の方が高い。



## <テ 地域活動参加条件> 【複数回答】

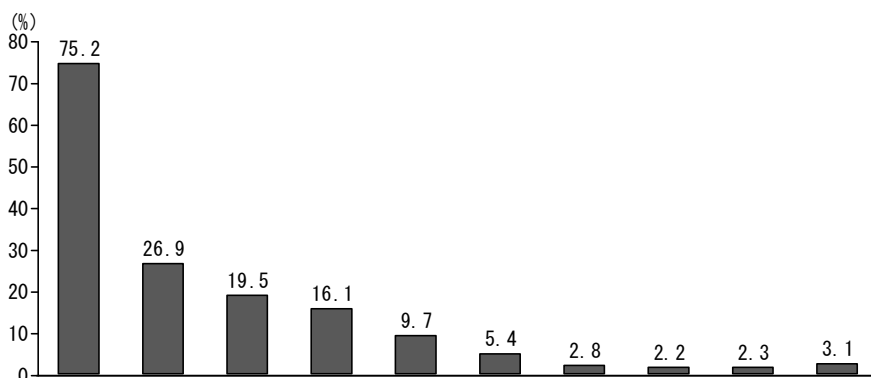
現在地域活動に参加していない人の参加のきっかけについては、男女ともに「関心・興味のあるテーマがあれば活動したい」「時間に余裕があれば活動したい」の割合が前期高齢者の方が後期高齢者より高く、「健康状態がよくなったら活動したい」「活動したくない・関心がない」では、後期高齢者の方が前期高齢者に比べ高い。



## <ト 外出についての考え方>

外出についての考え方について性・年齢層別にみると、いずれも「特に負担には感じない」が高い割合であるが、男性の前期高齢者では90.2%である一方、女性の後期高齢者では56.7%にとどまっている。また、女性の後期高齢者では、「身体が不自由で外出しようとは思わない、できない」が30.3%みられる。

サンプル数 n=2,223

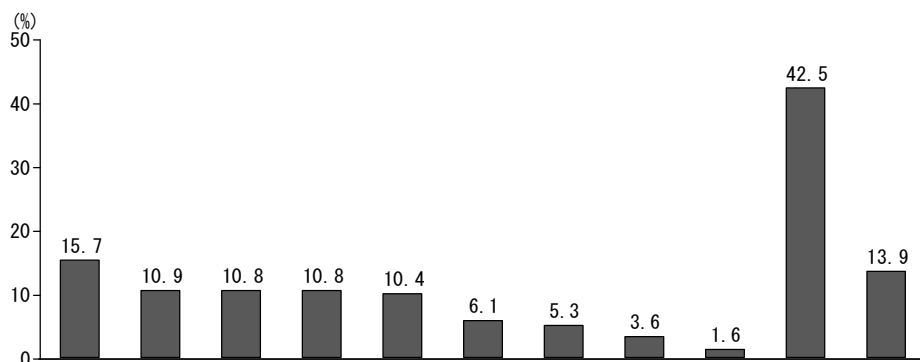


	特に負担には感じない	散歩しやすい道や広場があれば外出しやすい	外出のさいに、自転車や車があぶないと感じる	利用しやすい施設(敬老館など)があれば外出しやすい	家において過ごす方が好き	外出はなんとなくおっくうで、は思わない、できない	身体が不自由で外出しようとは思わない、できない	交通が不便なので、外出しにくい	自宅の周りに坂や段差が多いので、外出が負担に感じる	その他	無回答
全体(n=2,223)	75.2	26.9	19.5	16.1	9.7	5.4	2.8	2.2	2.3	3.1	
男性:前期高齢者(n=520)	90.2	26.7	18.1	4.6	1.5	8.8	0.8	1.5	1.0	1.0	
女性:前期高齢者(n=667)	83.7	25.0	15.9	8.8	3.4	20.1	2.2	2.4	3.0	1.8	
男性:後期高齢者(n=356)	68.5	34.3	20.8	11.8	1.1	18.5	2.2	8.1	0.6	4.8	
女性:後期高齢者(n=492)	56.7	26.2	12.4	15.0	4.1	30.3	4.1	10.8	3.9	4.1	

<ナ 不安や悩み事> 【複数回答】

不安や悩み事について性・年齢層別にみると、いずれも「特にない」が最も高い割合である。男女ともに「住まいのこと」「家計のこと」の割合は、前期高齢者の方が後期高齢者より高く、後期高齢者では「健康に自信がない」の割合が高くなっており、女性の後期高齢者では23.6%である。

サンプル数 n=2,223

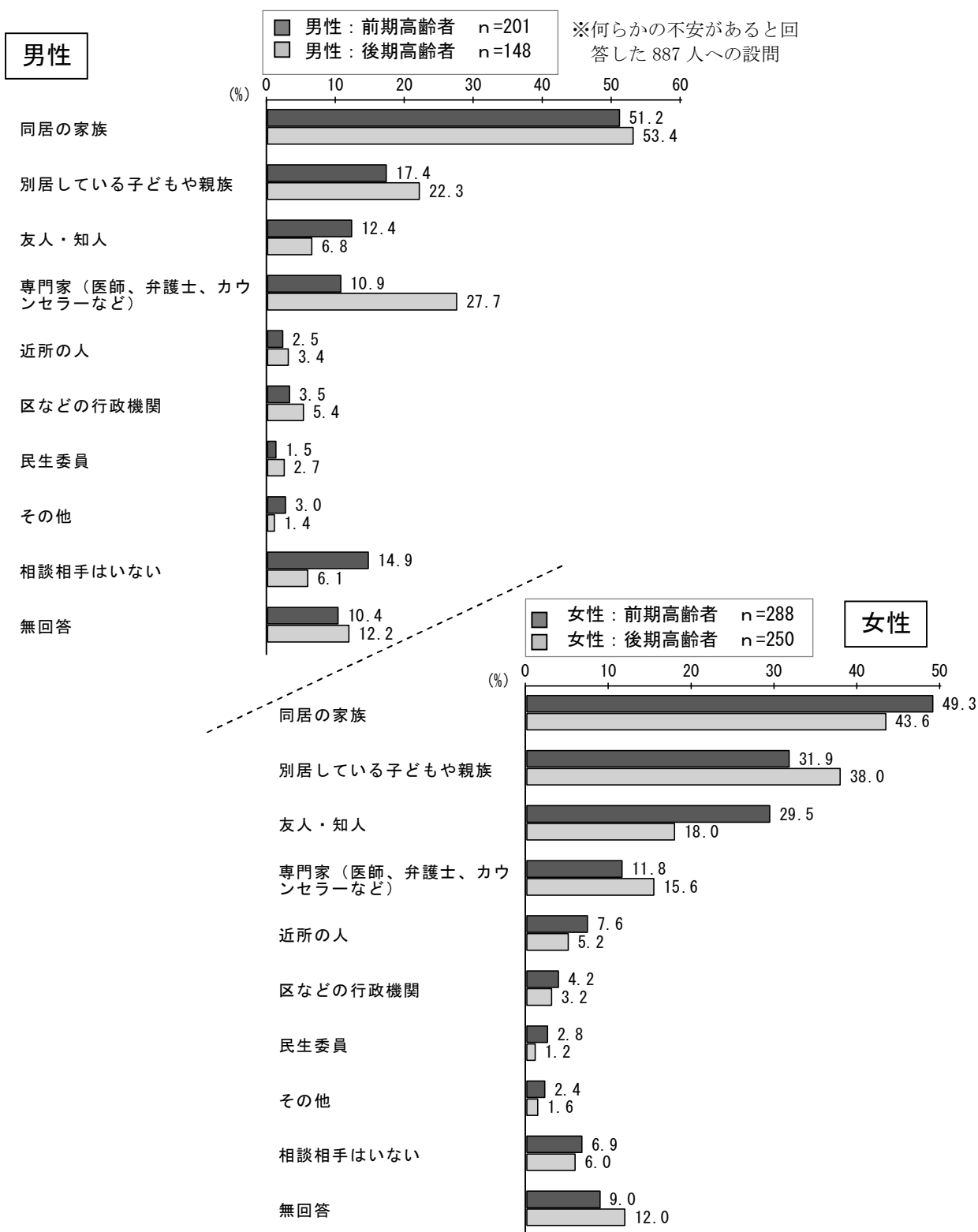


	健康に自信がない	物忘れがひどくなった	家計のこと	防犯・防災のこと	住まいのこと	世話をしてくれる人がいない	親しい友人がいない	近所の人たちと交流がない	その他	特にない	無回答
全体(n=2,223)	15.7	10.9	10.8	10.8	10.4	6.1	5.3	3.6	1.6	42.5	13.9
男性:前期高齢者(n=520)	10.8	6.5	13.5	8.5	12.3	4.6	4.0	3.8	1.2	50.8	10.6
女性:前期高齢者(n=667)	12.1	8.4	13.3	11.1	12.7	6.1	4.9	3.9	2.1	44.2	12.6
男性:後期高齢者(n=356)	17.4	12.4	8.4	11.5	5.9	4.8	8.1	2.8	1.7	45.5	12.9
女性:後期高齢者(n=492)	23.6	17.9	6.5	13.0	8.9	7.5	4.1	3.7	1.6	33.1	16.1



## <ニ 不安や悩み事の相談先> 【複数回答】

不安や悩み事の相談先について性・年齢層別にみると、女性では「別居している子どもや親族」「友人・知人」の割合が男性より高い。後期高齢者の男性では、「専門家（医師、弁護士、カウンセラーなど）」の割合が27.7%と高い。また、前期高齢者の男性では、「相談相手はいない」の割合が14.9%となっている。

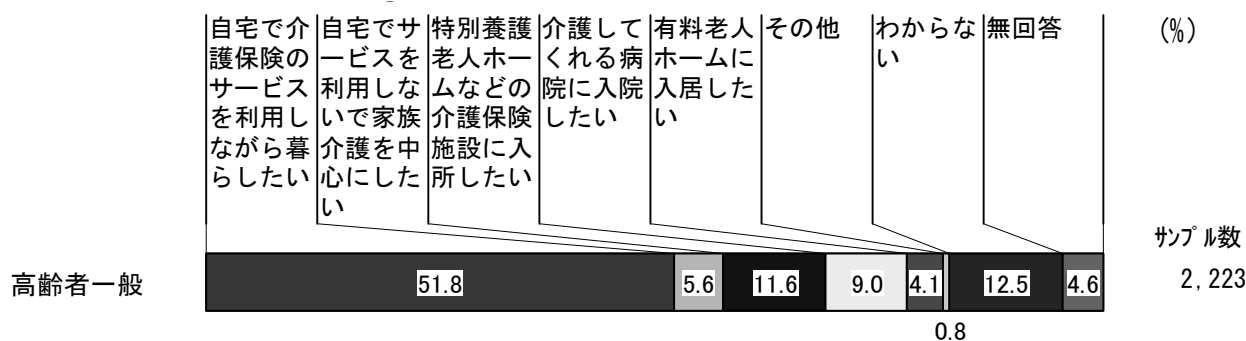


## <又 自身の希望する介護>

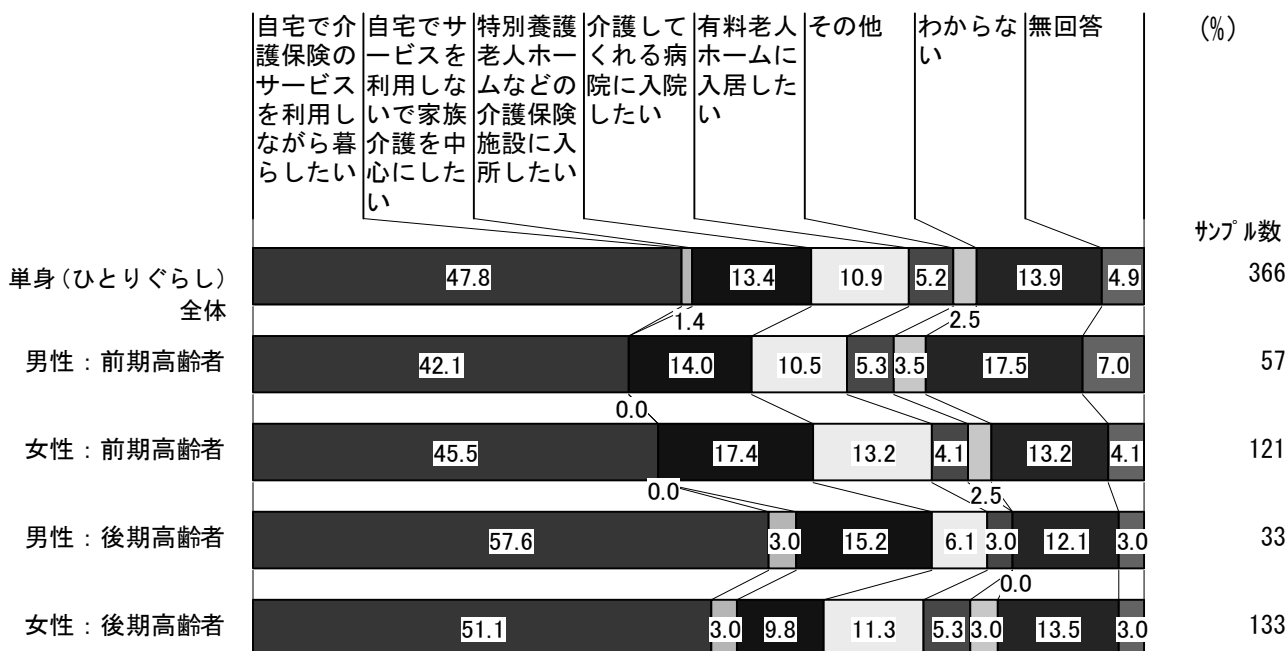
自身の介護が必要となった際に希望する介護については、「自宅で介護保険のサービスを利用しながら暮らしたい」が51.8%で最も高く、「特別養護老人ホームなどの介護保険施設に入所したい」が11.6%、「介護してくれる病院に入院したい」が9.0%である。

単身（ひとりぐらし）世帯についてみると、いずれの性・年齢層においても「自宅で介護保険のサービスを利用しながら暮らしたい」の割合が高い。

### 【全体】



### 【単身（ひとりぐらし）世帯】



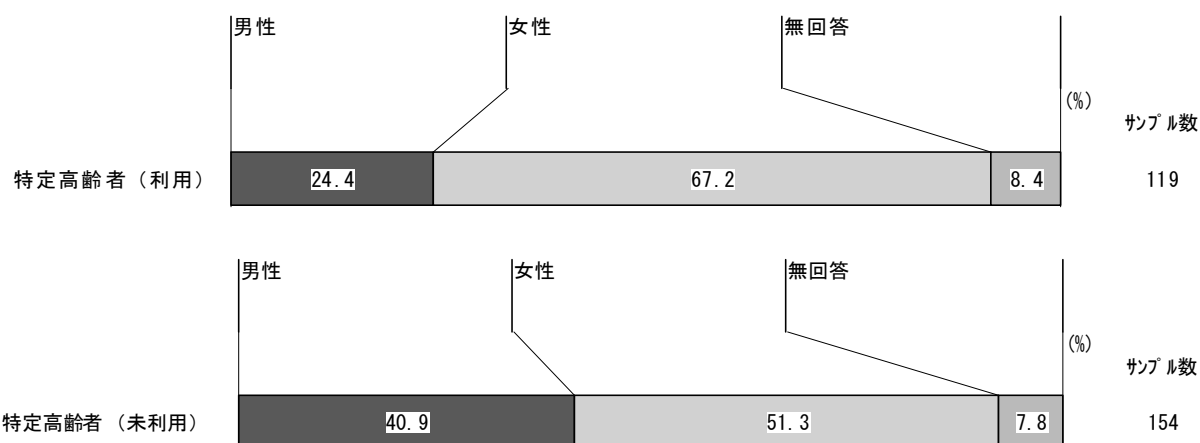
## 【特定高齢者（利用・未利用）】

### ＜ア 性・年齢分布＞

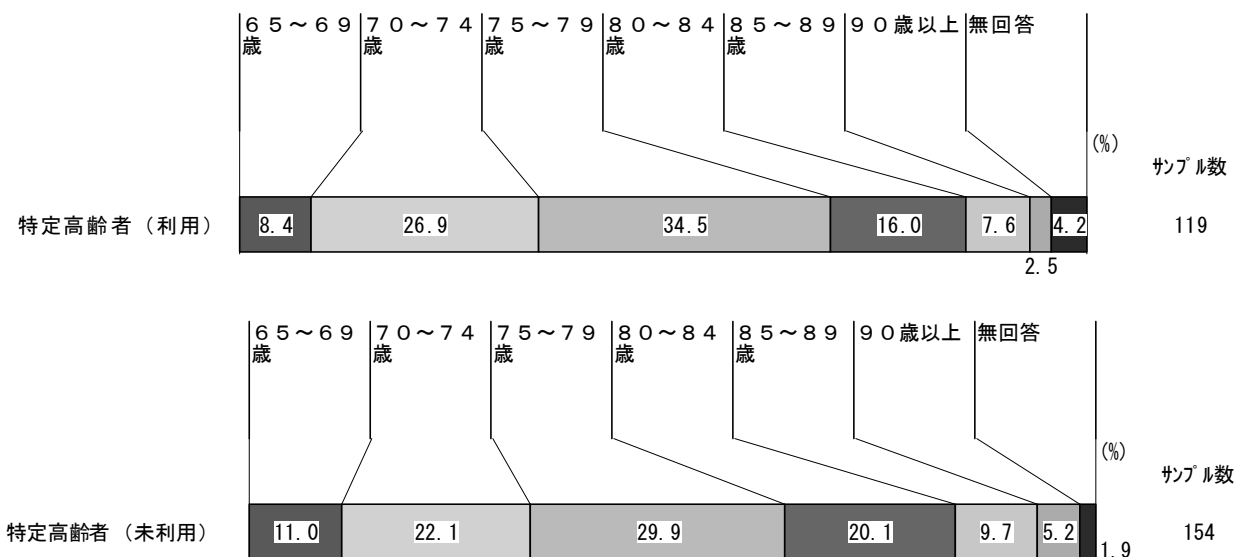
特定高齢者の性・年齢分布をみると、性別は介護予防事業利用者では、男性 24.4%、女性 67.2%であり、介護予防事業未利用では、男性 40.9%、女性 51.3%となっており、介護予防事業利用者に占める女性の割合が高い。

年齢分布は、介護予防事業利用者では後期高齢者の割合が 60.6%を占めている。

### 【性別】

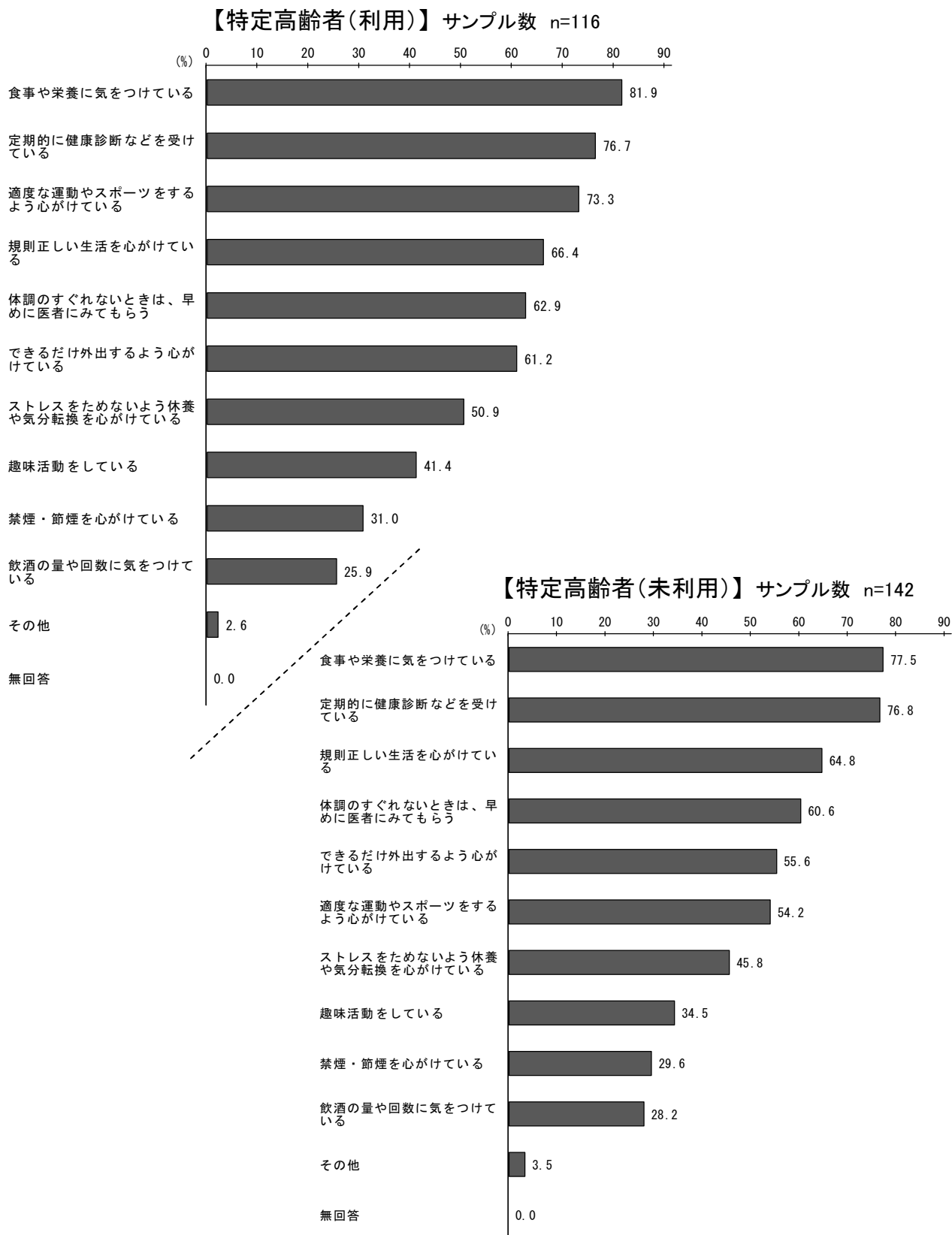


### 【年齢】



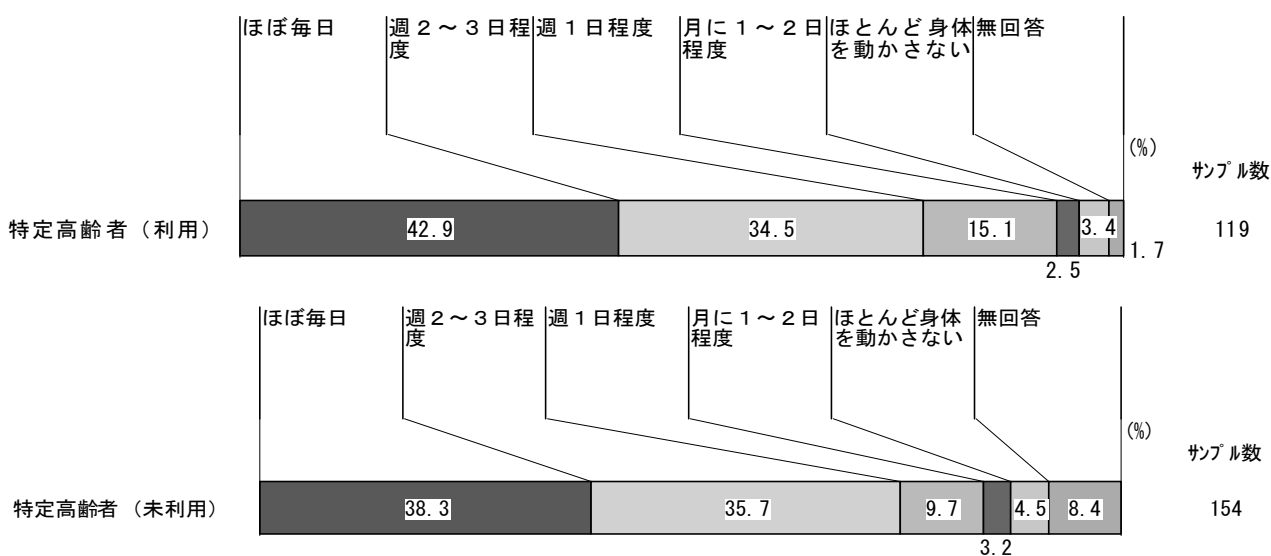
## <イ 健康への意識> 【複数回答】

特定高齢者の中で「ふだんから健康管理に気を使っている」と回答した者の割合は、介護予防事業利用者の97.5%（116人）、介護予防事業未利用者の92.2%（142人）であった。具体的内容をみると、いずれも「食事や栄養に気をつけている」の割合が最も高くなっている。



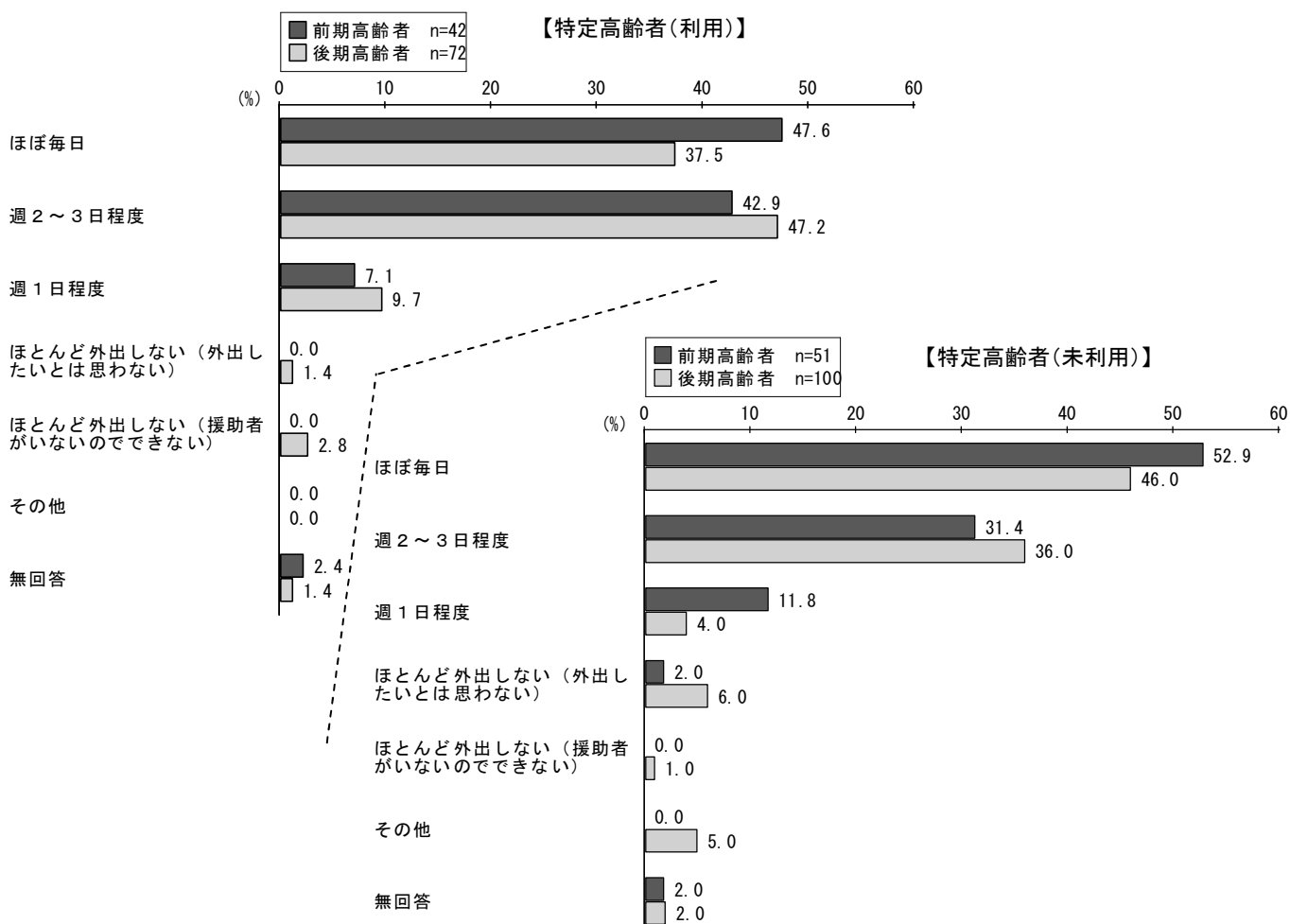
## <ウ 体を動かす頻度>

特定高齢者がふだん体を動かす頻度をみると、介護予防事業利用者は「ほぼ毎日」が42.9%に対し、介護予防事業未利用者は「ほぼ毎日」が38.3%とやや低い。



## <エ 外出頻度>

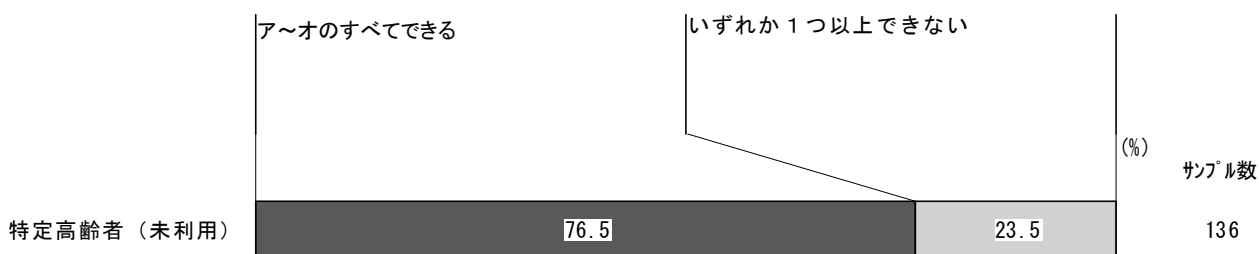
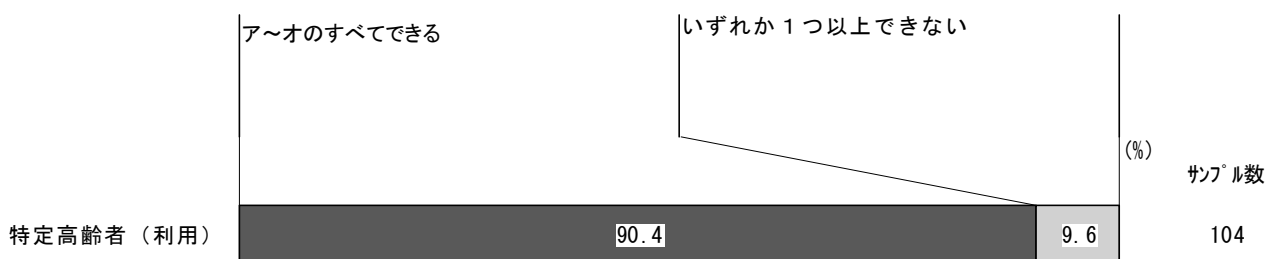
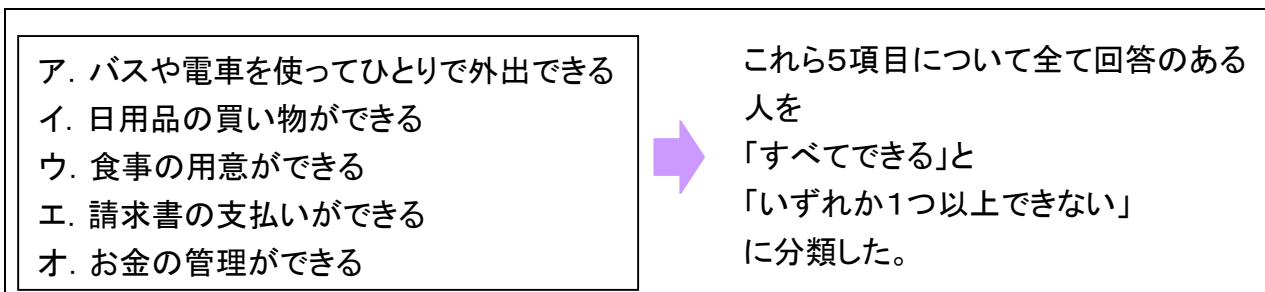
特定高齢者の外出頻度について年齢層別にみると、前期高齢者、後期高齢者いずれも介護予防事業未利用者が「ほぼ毎日」外出する割合は、介護予防事業利用者に比べてやや高い。



## <オ 日常生活での自立状況>

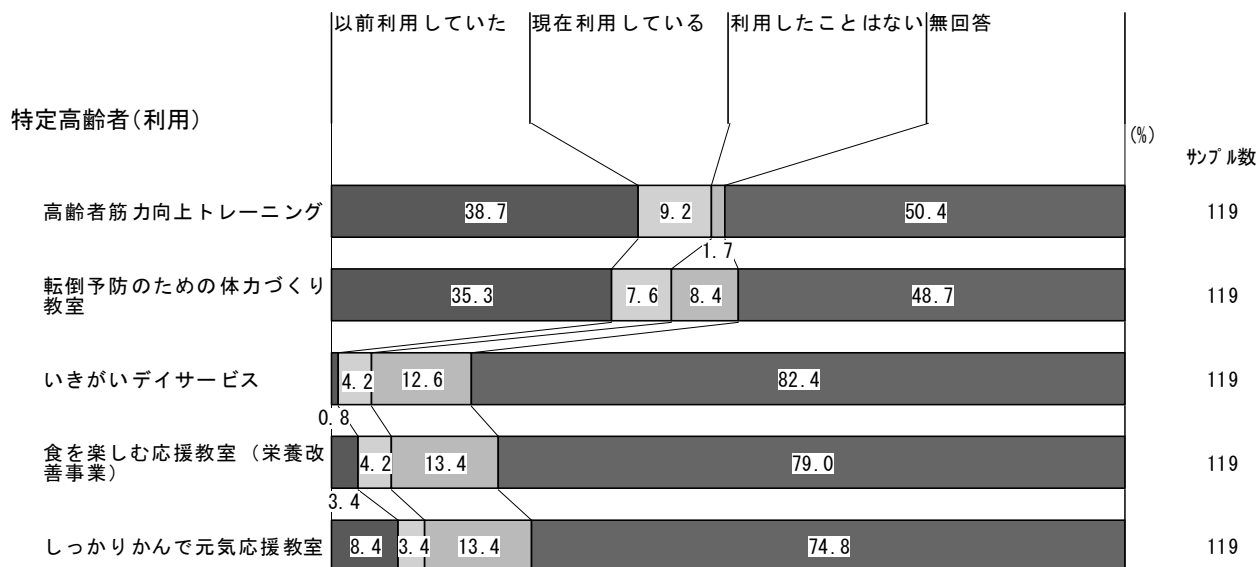
日常生活の自立状況については、「ア～オのすべてできる」の割合は、介護予防事業利用者で 90.4%、介護予防事業未利用者は 76.5%となっている。

### 《自立状況の分析》



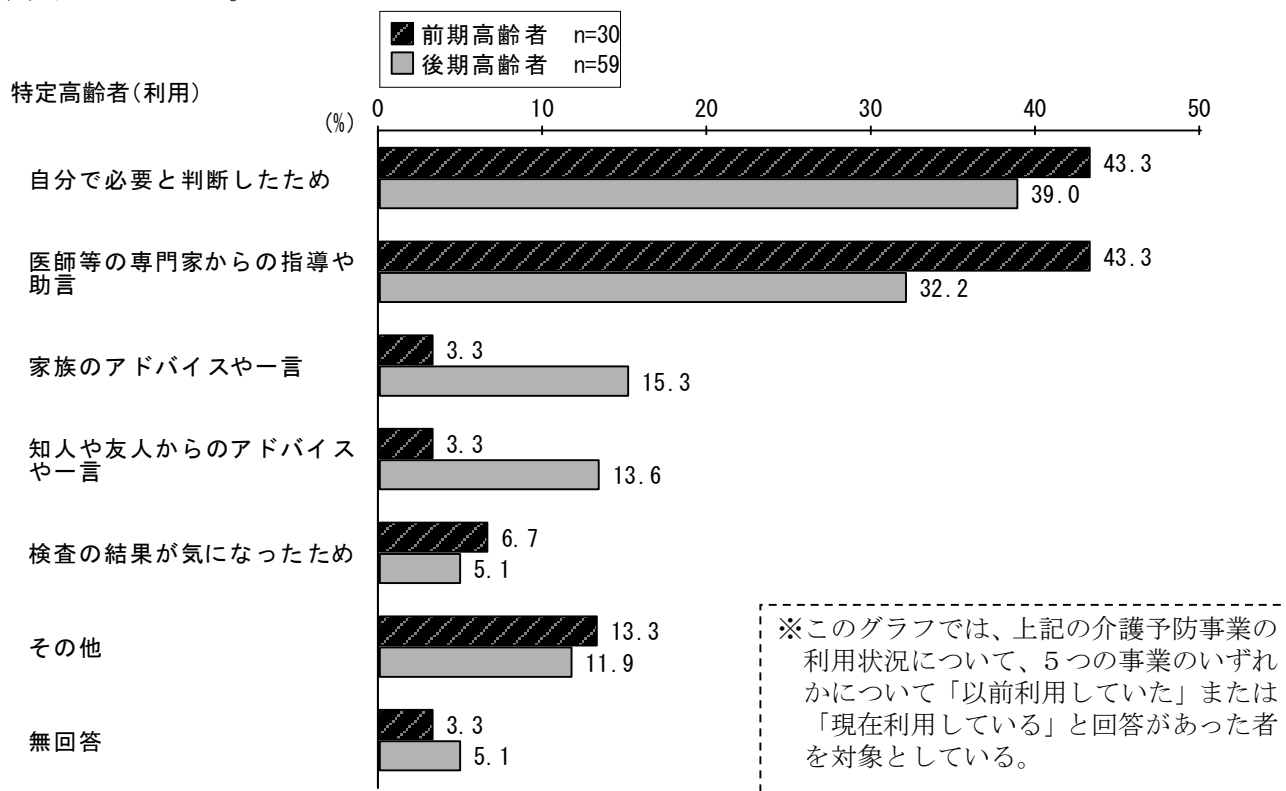
## <カ 介護予防事業利用状況>

介護予防事業の利用状況については、5つの事業（高齢者筋力トレーニング、転倒予防のための体力づくり教室、いきがいデイサービス、食を楽しむ応援教室（栄養改善事業）、しっかりかんで元気応援教室）のうち、「高齢者筋力向上トレーニング」「転倒予防のための体力づくり教室」の利用割合が高い。



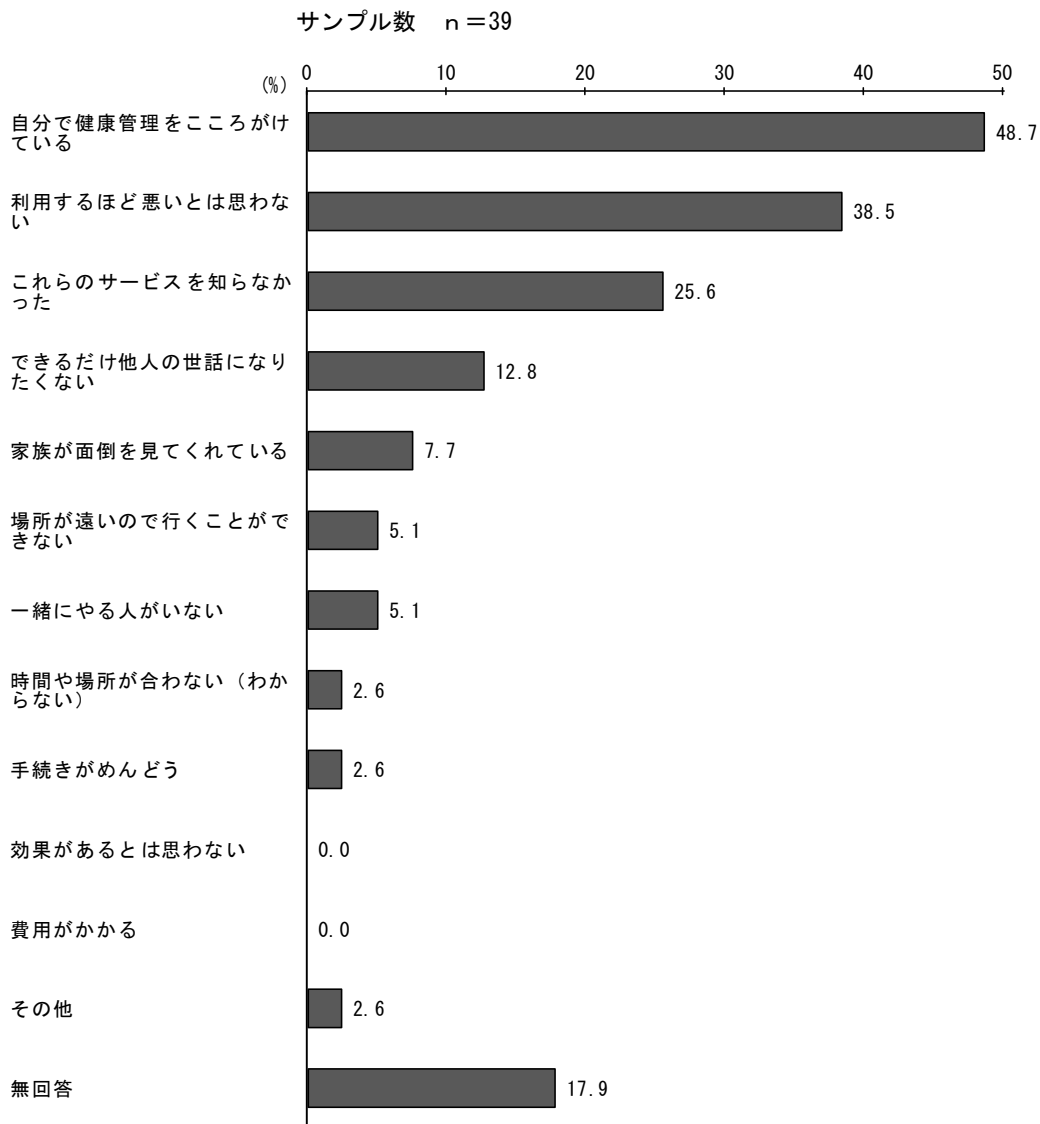
## <キ 介護予防事業利用のきっかけ> 【複数回答】

介護予防事業利用者の利用のきっかけについて年齢層別にみると、前期高齢者、後期高齢者ともに「自分で必要と判断したため」「医師等の専門家からの指導や助言」の割合が高くなっている。



## <ク 介護予防事業未利用の理由> 【複数回答】

P105<介護予防事業利用状況>において、5つの事業いずれも「利用したことがない」と回答のあった者は39名だった。未利用の理由については、「自分で健康管理をこころがけている」が48.7%、「利用するほど悪いとは思わない」が38.5%、「これらのサービスを知らなかった」が25.6%であった。





## (2) これから高齢期を迎える方の調査

### ①調査結果の概要

#### 《健康・医療等について》

- ◆ 「ふだんから健康に気をつけている」は86.1%、であり、その内容としては、「食事や栄養」（75.6%）、「定期的な健康診断」（59.8%）、「適度な運動やスポーツ」（56.6%）、「休養や気分転換」（50.9%）などの回答が上位である。
- ◆ 生活習慣については、生活習慣の「改善が必要だと思うが、容易には変えられない」が36.2%であり、「生活習慣に特に問題はない」の30.3%を上回っている。
- ◆ 健康診査は、79.2%の人が受診している。未受診者は約2割で、受診しない理由は、「健康だから」が最も高い割合である。

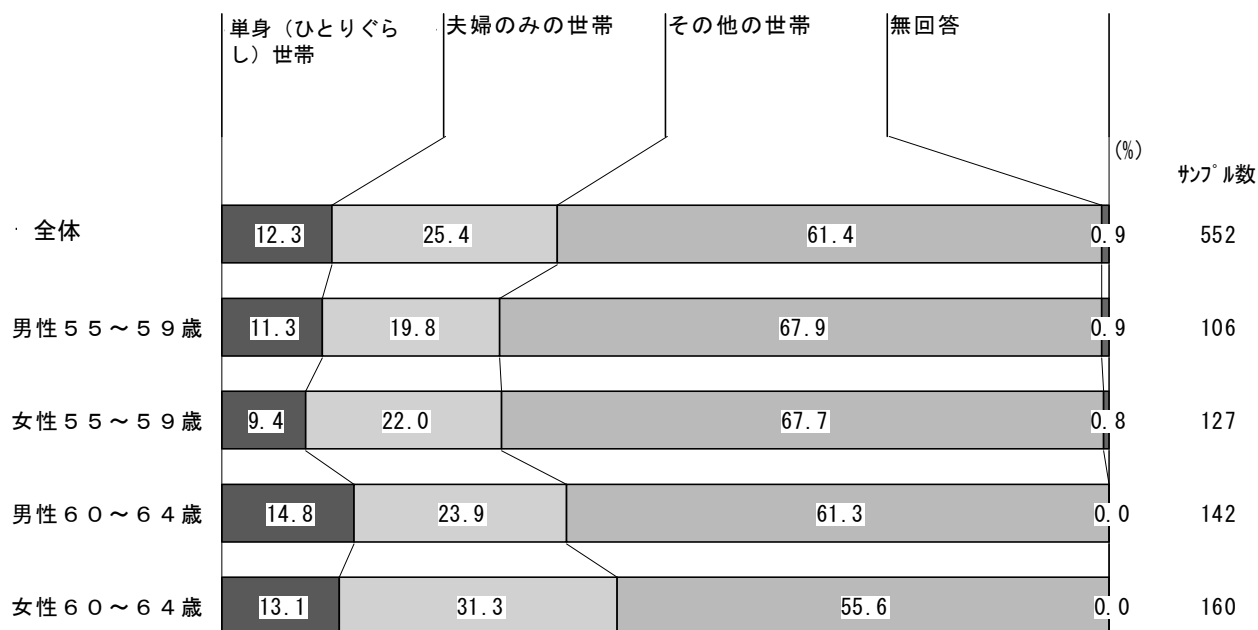
#### 《就労状況・生きがい・社会参加等について》

- ◆ 現在、収入のある「仕事についている」は64.5%である一方、今後「働きたい」の割合は71.0%であった。今後の就労意向の理由については男性では「生活費を得るため」、女性では「生きがいを得るため」がそれぞれ高く、就労意識の違いが現れている。
- ◆ 60歳未満のうち、退職後の生活の準備をしているのは32.9%である。
- ◆ 地域との関わりは、「挨拶をする程度」が男女とも7割前後と最も高い。また、男性に比べ女性の方が「近所の方との行き来」「地域のグループへの参加」など地域活動に参加する割合が高い。
- ◆ 今後取り組みたいことは、「自分のしたいこと（趣味・旅行など）を優先したい」が男女とももっとも高く、7割前後みられる。また、「自分の関心のある活動（福祉・環境など）に関わりたい」は男女とも3割前後である。
- ◆ 将来に対する不安は、「自分の健康のこと」「自分や家族が寝たきりなど介護を必要とする状態になること」「経済面（生活費等）」が6割前後で高い。性別・年齢層別では、55～59歳は60～64歳に比べ、男女ともに「経済面（生活費等）」が高くなっている。

## ②調査結果

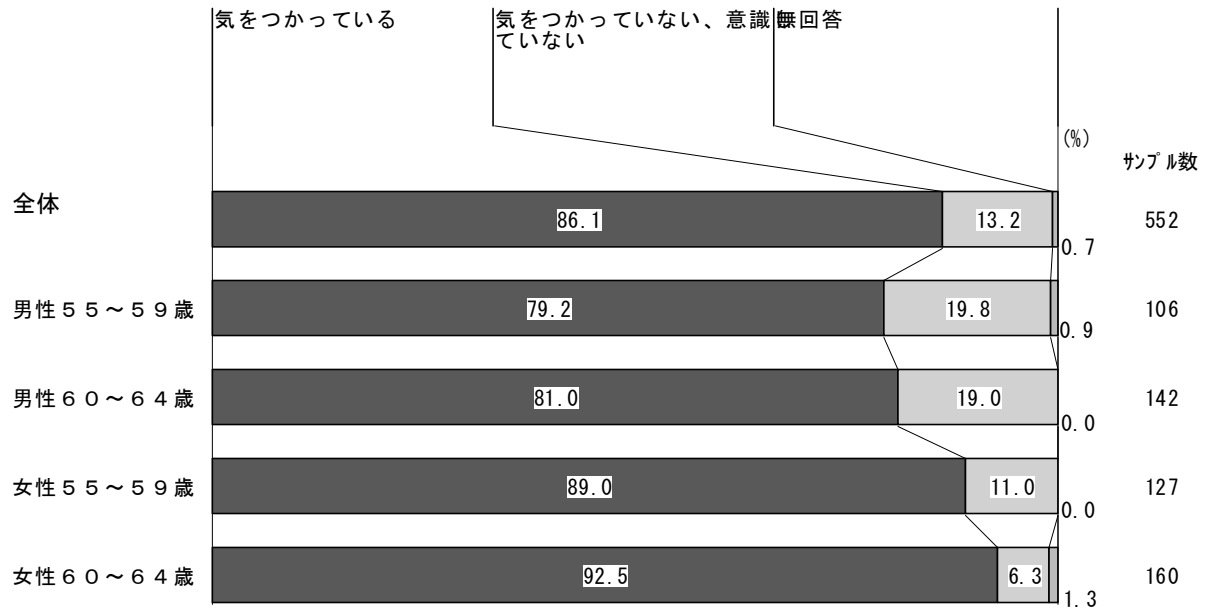
### <ア 世帯構成>

世帯構成について性・年齢層別にみると、「単身（ひとりぐらし）世帯」の割合は、男性55～59歳が11.3%、女性55～59歳が9.4%、男性60～64歳が14.8%、女性60～64歳では13.1%となっており、年齢層が上るにつれて高くなっている。



## <イ 健康への意識の有無・特に健康に気を使っていること>

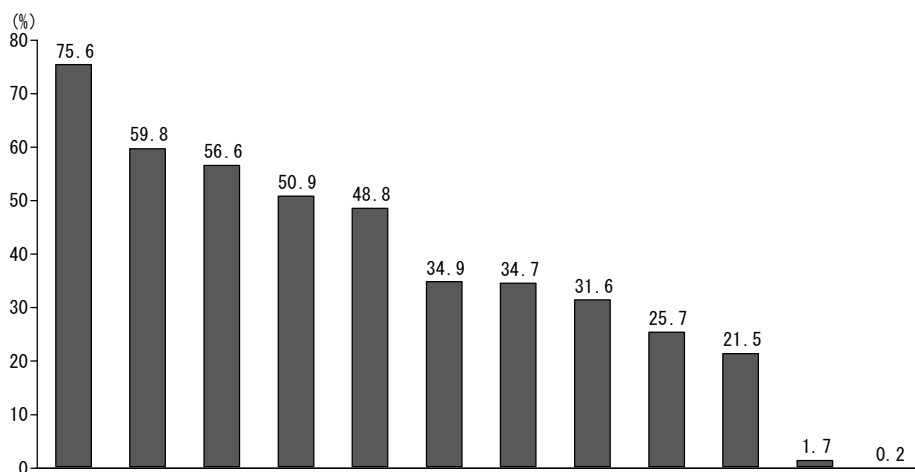
健康管理の意識について「ふだんから健康に気をつけている」とする割合は全体では86.1%（475人）であるが、女性60～64歳では92.5%であり、女性の方が健康に気をつけている傾向にある。



＜ウ 特に健康に気をつけていること＞【複数回答】

健康に気をつけている人のうち、特に健康に気をつけていることについて性・年齢層別にみると、いずれも「食事や栄養に気をつけている」の割合が最も高い傾向にあり、次いで「定期的に健康診断を受けている」「適度な運動やスポーツをするよう心がけている」も高い割合を示している。

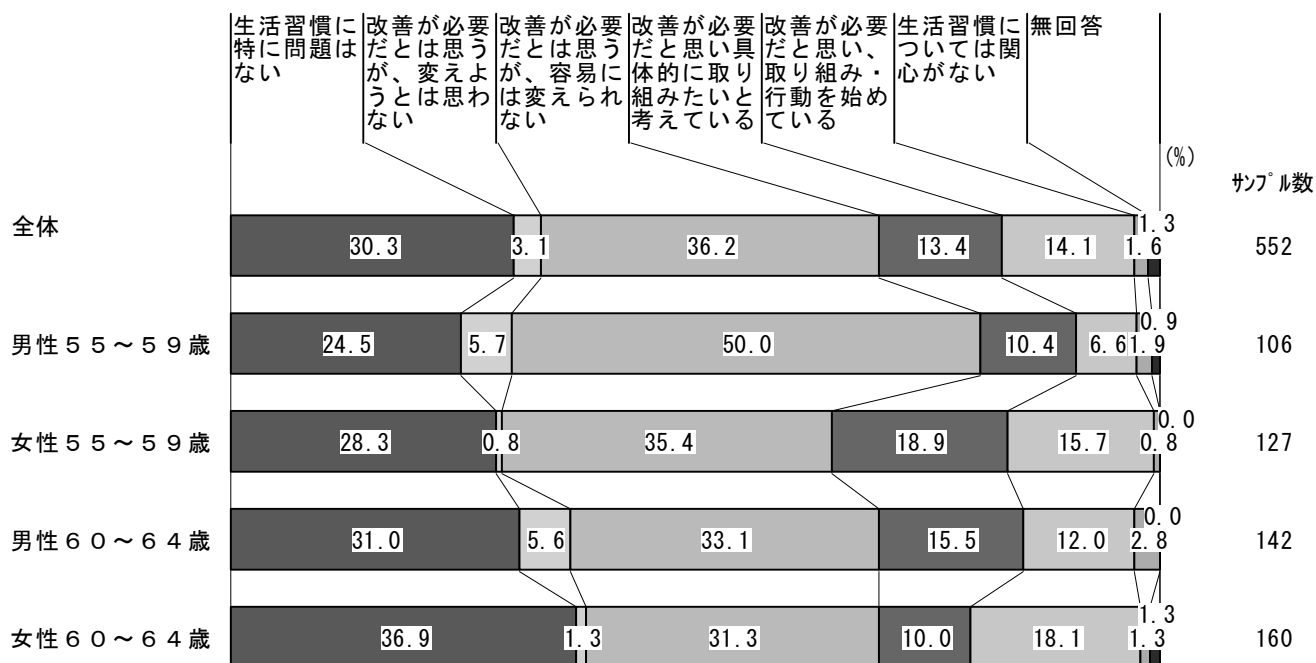
サンプル数 n=475



	食事や栄養に気をつけている	定期的に健康診断などを受けている	適度な運動やスポーツをするよう心がけている	気分転換を心がけている	ストレスをためないよう休養や規則正しい生活を心がけている	趣味活動をしている	体調のすぐれないときは、早めに医者にみてもらう	できるだけ外出するよう心がけている	禁煙・節煙を心がけている	飲酒の量や回数に気をつけている	その他	無回答
全体(n=475)	75.6	59.8	56.6	50.9	48.8	34.9	34.7	31.6	25.7	21.5	1.7	0.2
男性55～59歳(n=84)	69.0	63.1	48.8	52.4	40.5	21.4	23.8	20.2	29.8	29.8	0.0	0.0
女性55～59歳(n=113)	83.2	53.1	56.6	51.3	49.6	32.7	35.4	33.6	13.3	13.3	0.9	0.0
男性60～64歳(n=115)	67.8	67.0	65.2	46.1	49.6	38.3	31.3	31.3	41.7	36.5	1.7	0.0
女性60～64歳(n=148)	79.7	57.4	54.7	55.4	52.0	44.6	42.6	37.2	20.3	10.8	2.7	0.7

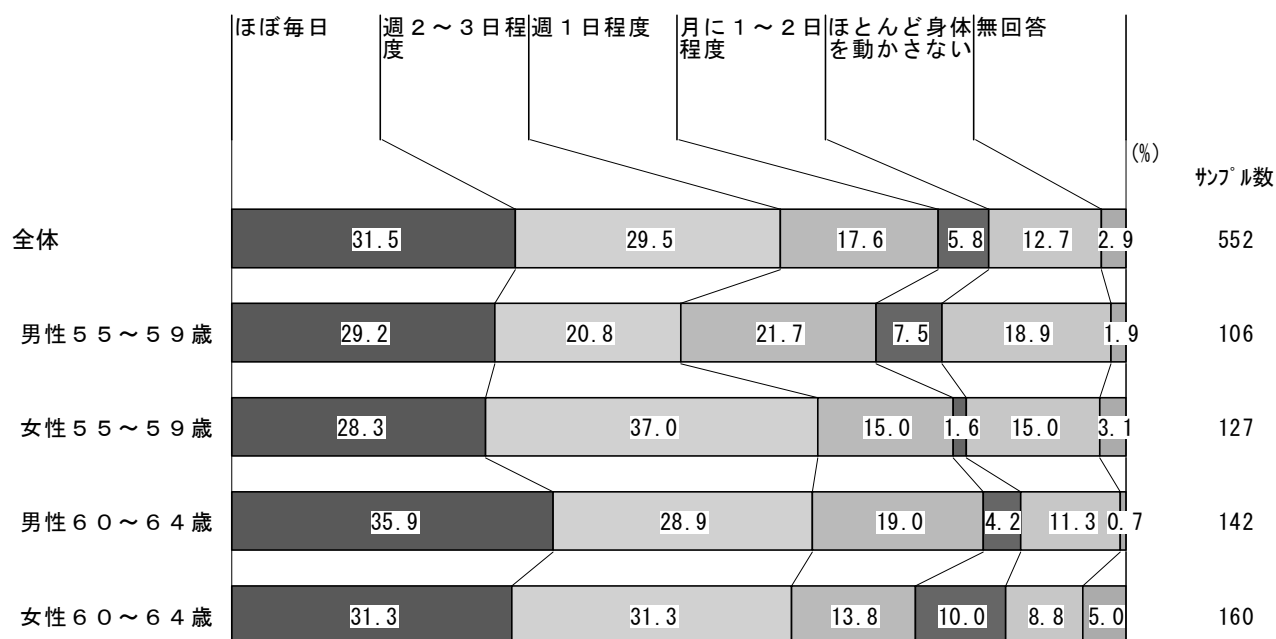
## <エ 生活習慣についての考え方>

生活習慣についての考え方について性・年齢層別にみると、男性の55～59歳では「改善が必要だとは思いますが、容易には変えられない」の割合が5割を占める。年齢が高い方が、「生活習慣に特に問題はない」の割合が高い傾向にある。



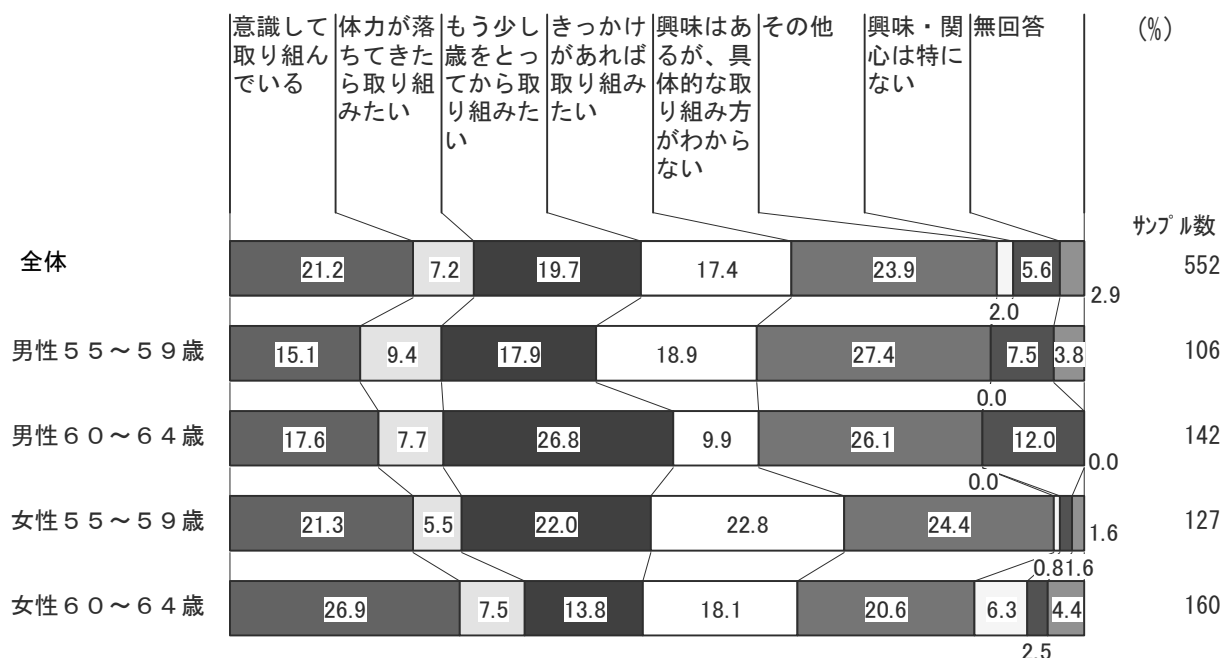
## <オ 身体を動かす頻度>

身体を動かす頻度について、性・年齢層別にみると、男性の方が「ほぼ毎日」の割合が高い傾向にあるが、一方で男性の55～59歳の18.9%は「ほとんど身体を動かさない」という回答である。



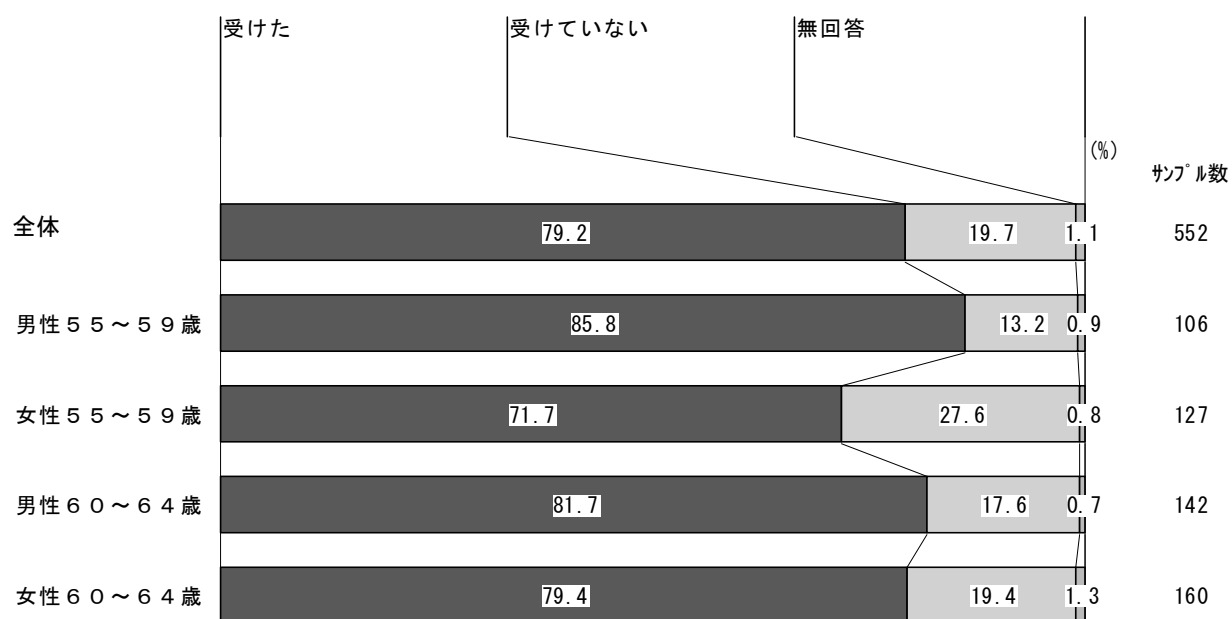
## <カ 介護予防への取り組み>

介護予防への取り組みについて性・年齢層別にみると、「興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない」の割合が比較的高い傾向にあるが、男性の60～64歳では、「もう少し歳をとってから取り組みたい」の割合も高い。女性の60～64歳では、「意識して取り組んでいる」の割合が高いことと対照的である。



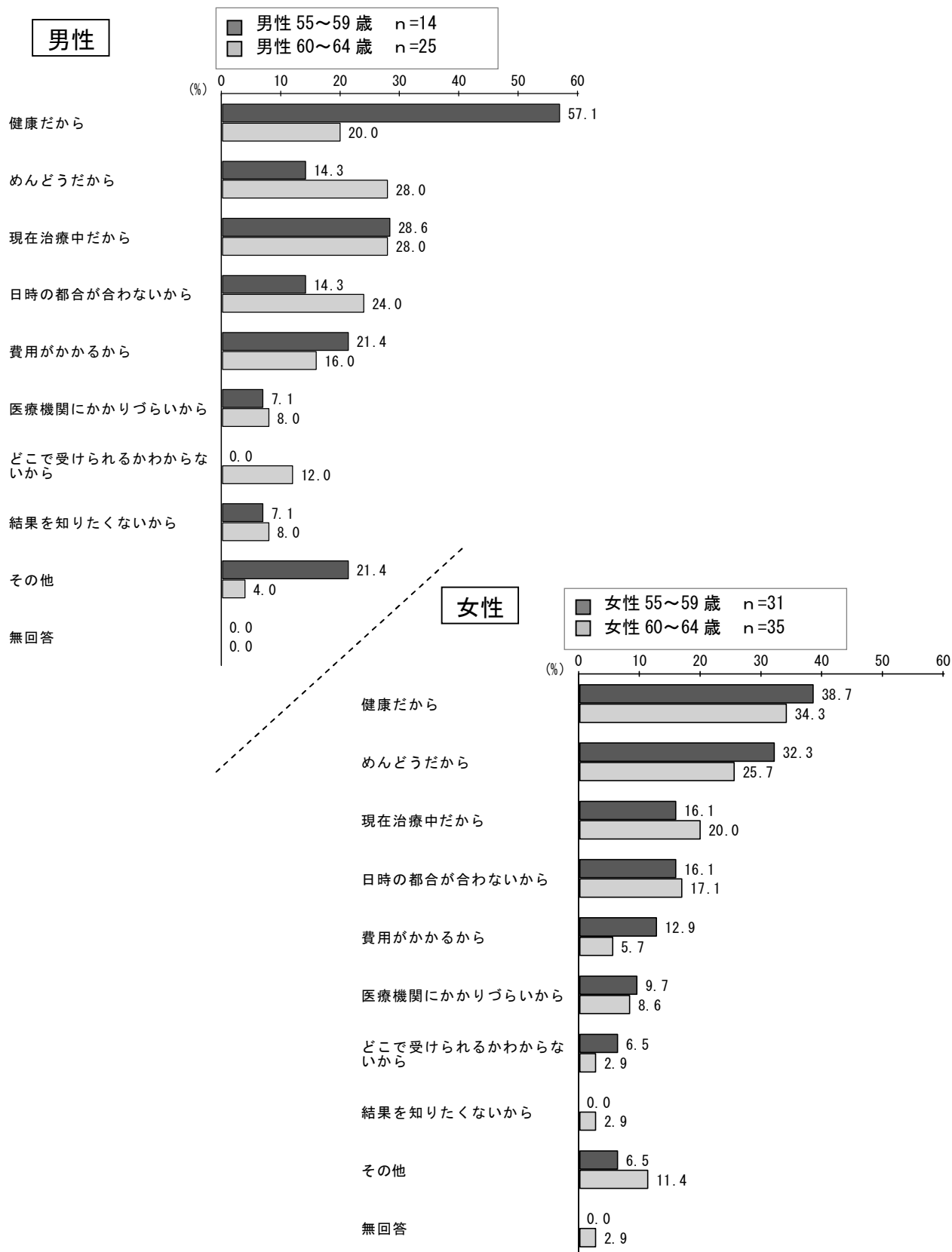
## <キ 直近1年間の健康診査受診状況>

直近1年間の健康診査の受診状況について性・年齢層別にみると、女性の55～59歳では、「受けた」の割合が71.7%と比較的低い。



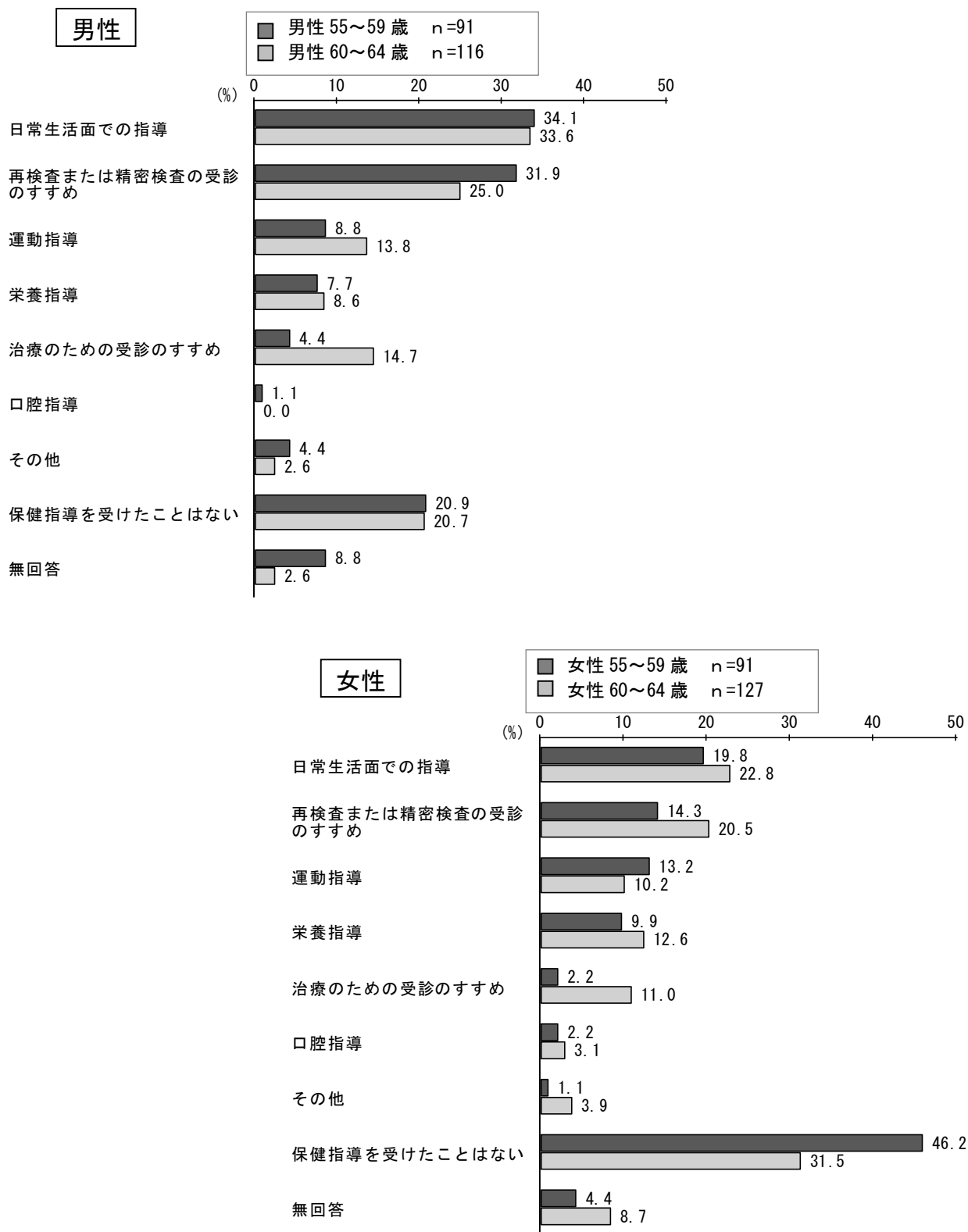
## <ク 健康診査未受診の理由> 【複数回答】

健康診査を未受診の理由について性・年齢層別にみると、「健康だから」の割合が高く、特に男性 55～59 歳で高い。



## <ケ 健診結果への保健指導の有無>【複数回答】

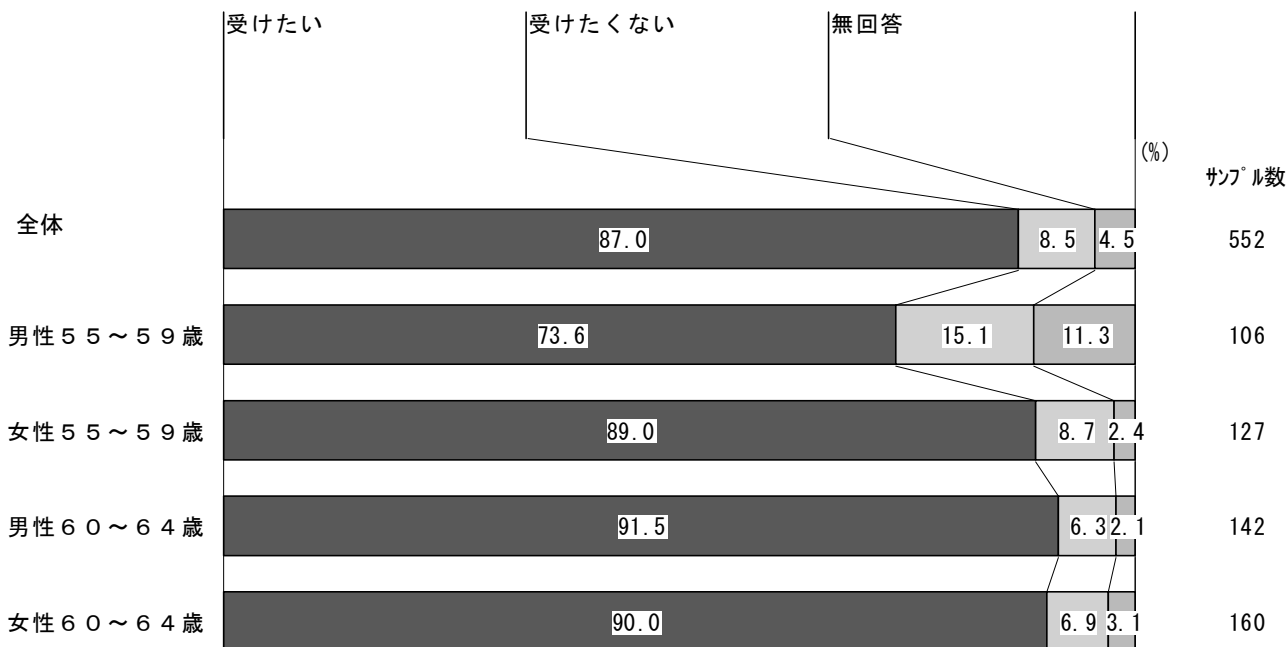
健康診査を受けた人のうち、結果への保健指導について性・年齢層別にみると、女性では「保健指導を受けたことはない」の割合が高く、特に55～59歳において約5割に近い。具体的な保健指導の内容では、いずれも「日常生活面での指導」の割合が高い。





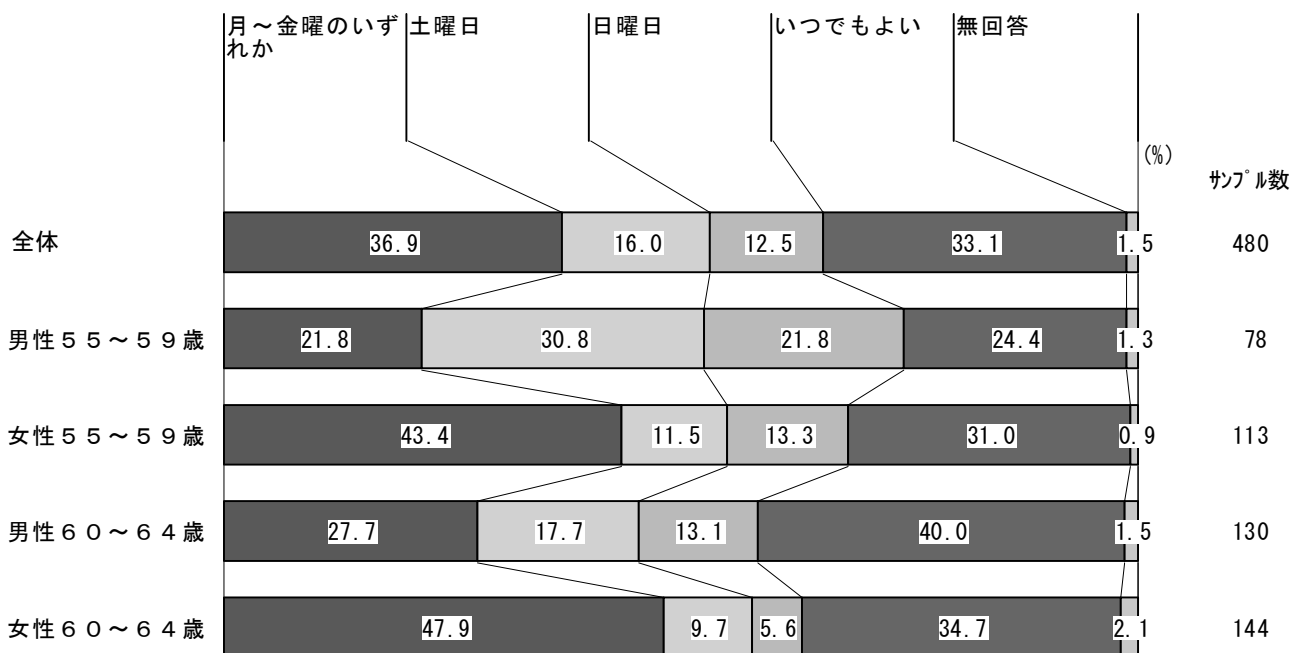
## <コ 今後の健康診査の受診希望>

今後の健康診査の受診希望について性・年齢層別にみると、男性 55～59 歳で「受けない」の割合が他の性・年齢層より低い。



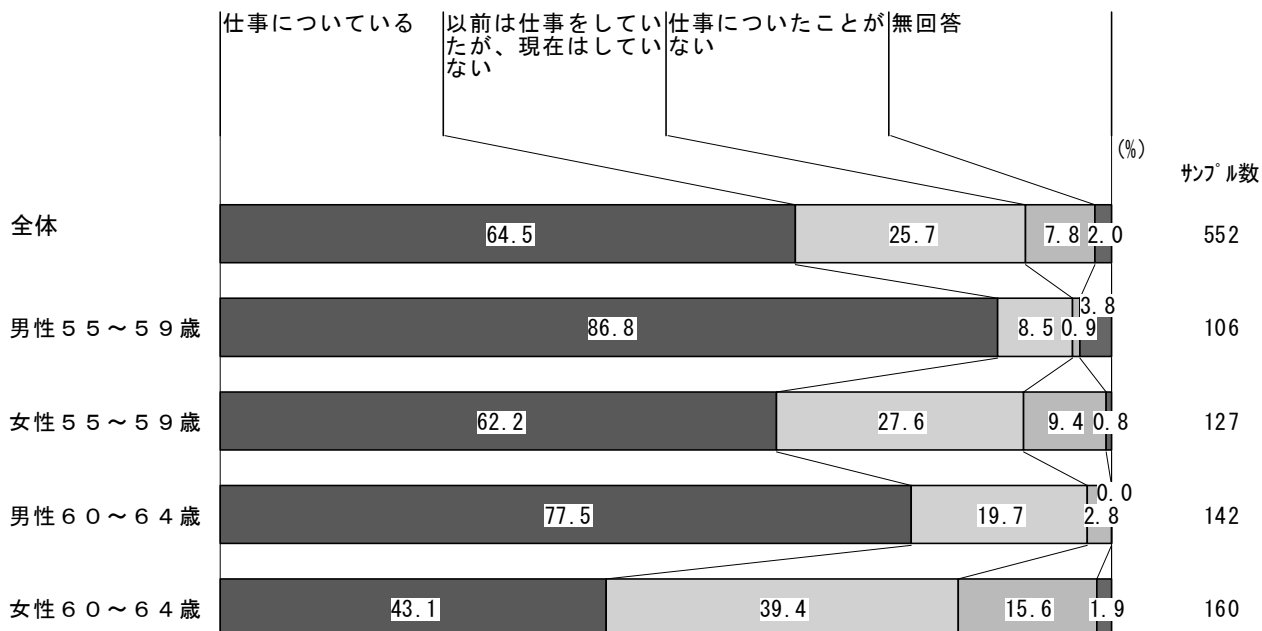
## <サ 健康診査の受診希望曜日>

健康診査の受診希望曜日について性・年齢層別にみると、女性では「月～金曜のいずれか」の割合が高い。男性の 55～59 歳では「土曜日」の割合が高く、男性 60～64 歳では「いつでもよい」の割合が高い。



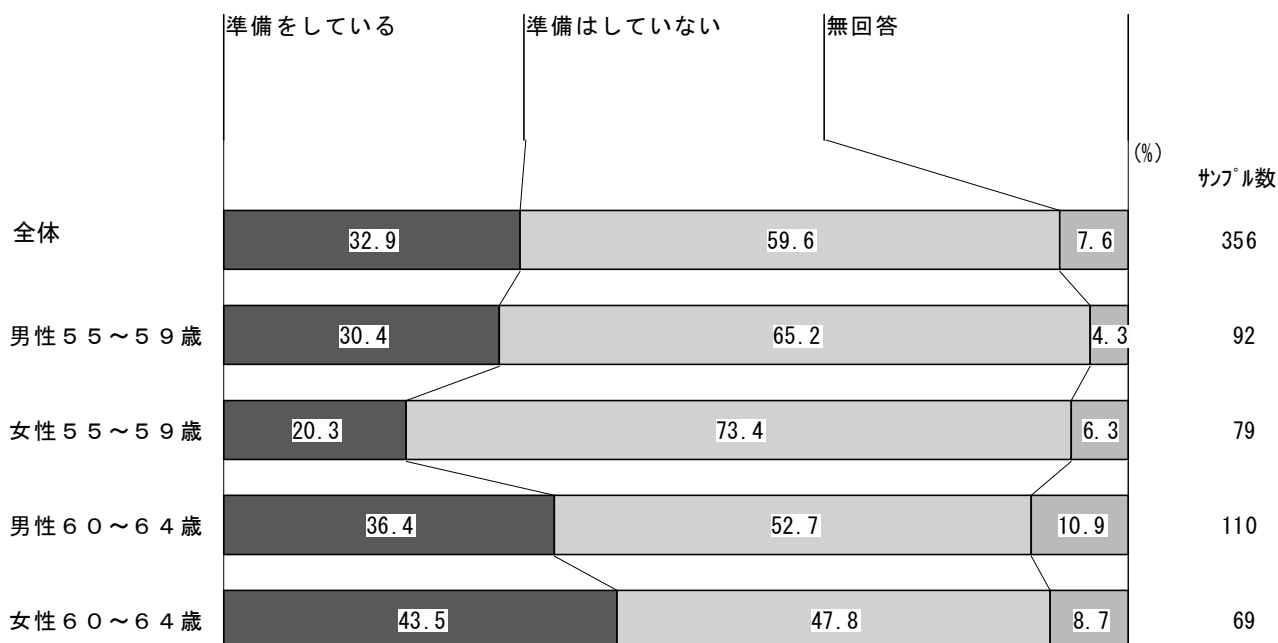
## <シ 就労状況>

現在の就労状況について性・年齢層別にみると、「仕事についている」の割合は、男性55～59歳の86.8%、60～64歳の77.5%に比べ、女性では55～59歳は62.2%、60～64歳は43.1%と低い割合になっている。



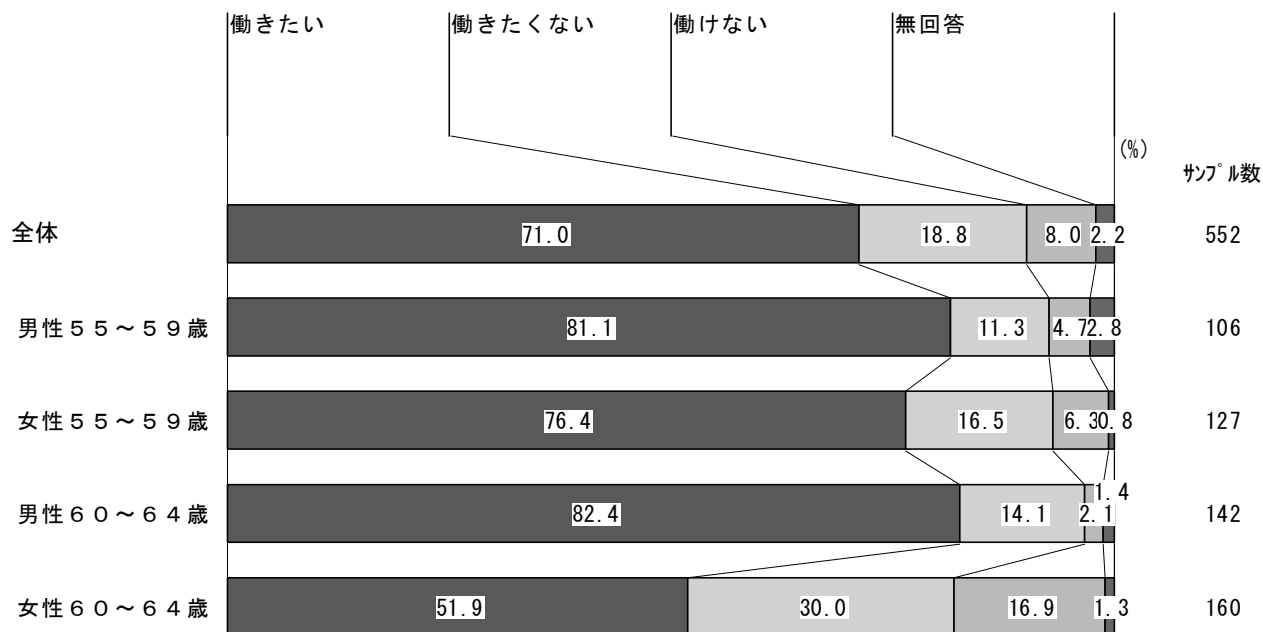
## <ス 退職後準備状況>

退職後の準備状況について性・年齢層別にみると、「準備をしている」の割合は、男女いずれも55～59歳より60～64歳の方が高い。



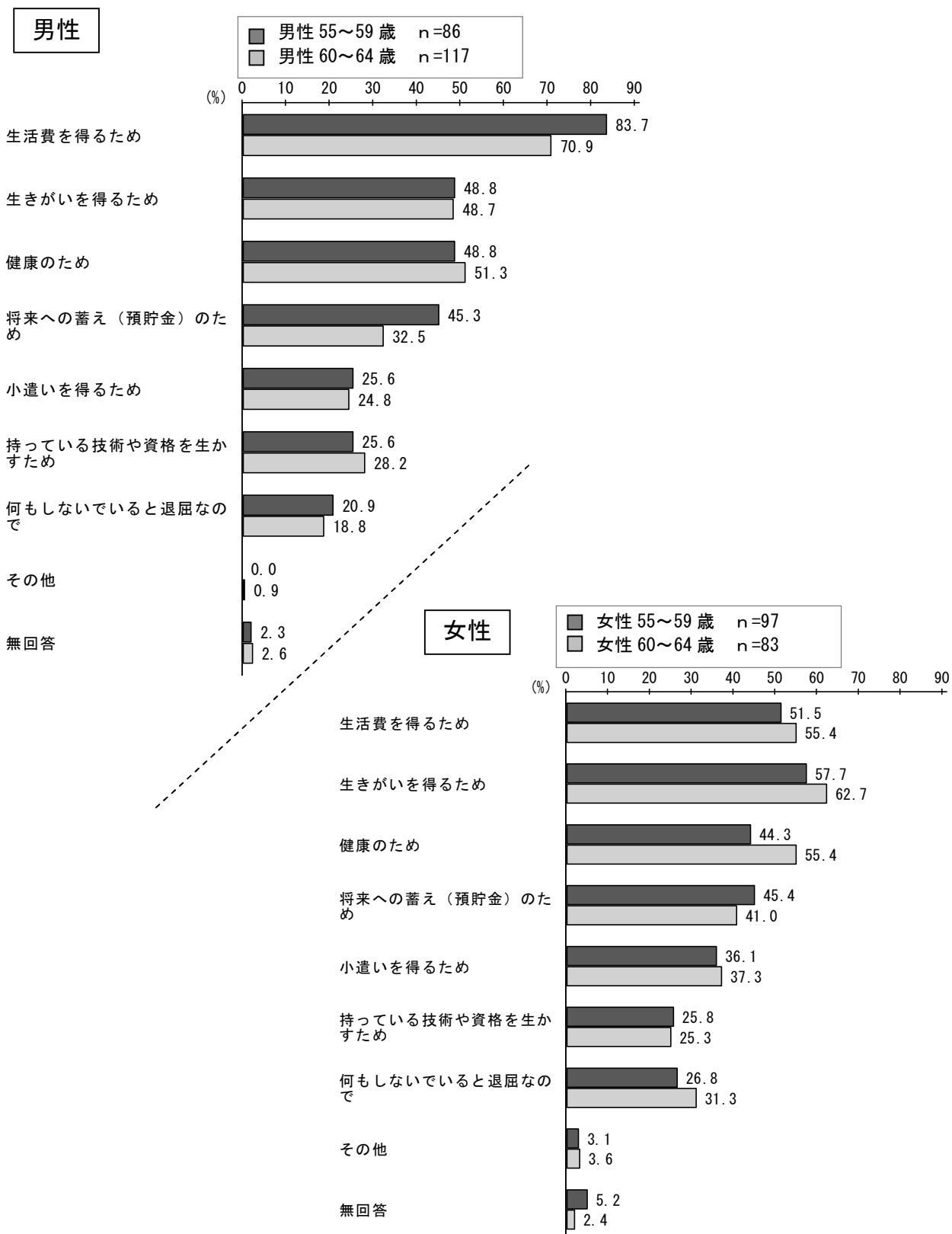
## <セ 就労意向>

今後の就労意向について性・年齢層別にみると、「働きたい」の割合は、男性の55～59歳、60～64歳、女性の55～59歳では約8割を占めるが、女性の60～64歳では51.9%と比較的低くなっている。



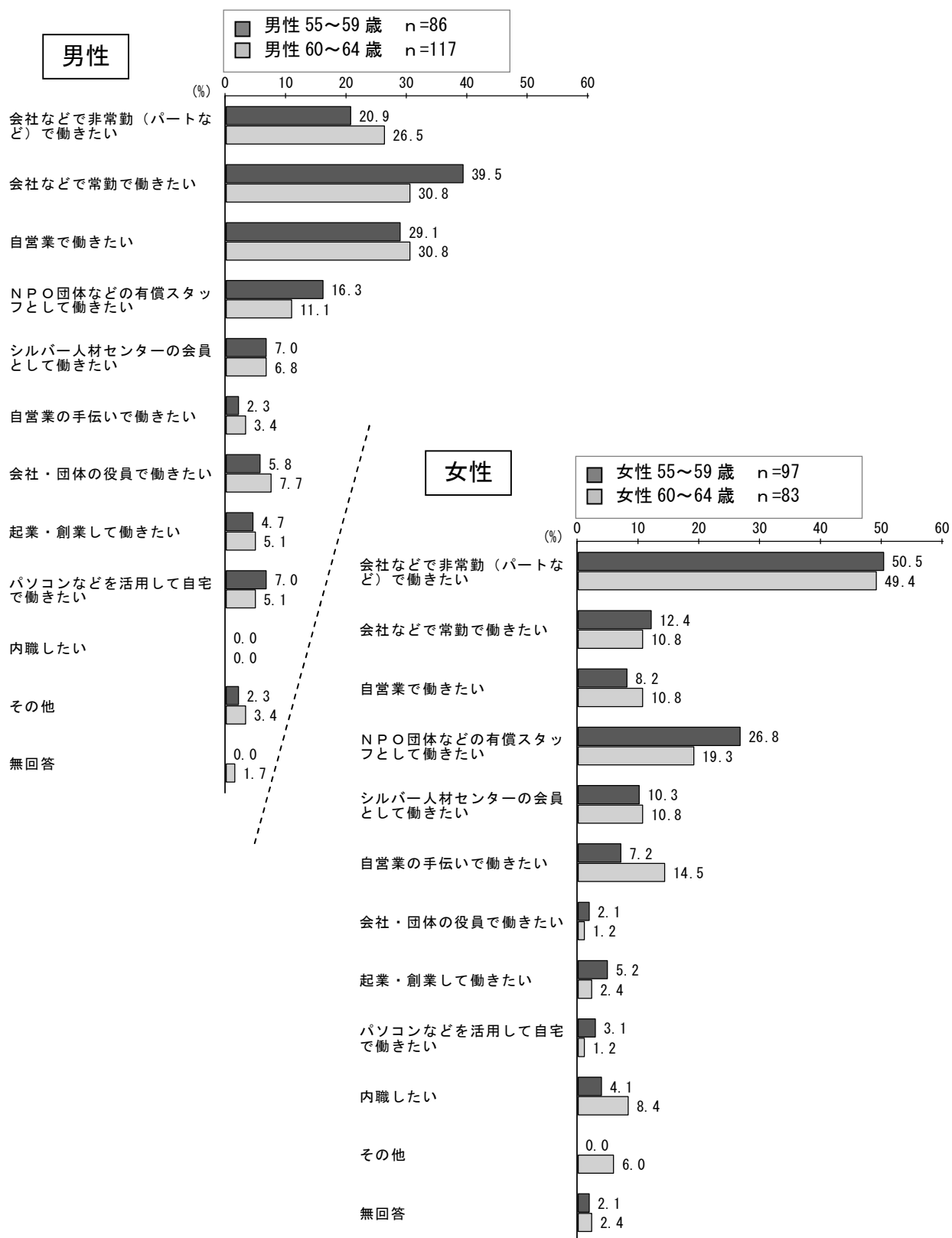
## <ソ 就労意向理由> 【複数回答】

今後の就労意向のある人の就労を希望する理由について性・年齢層別にみると、男性では「生活費を得るため」の割合が最も高く、女性では「生きがいを得るため」の割合が最も高い。



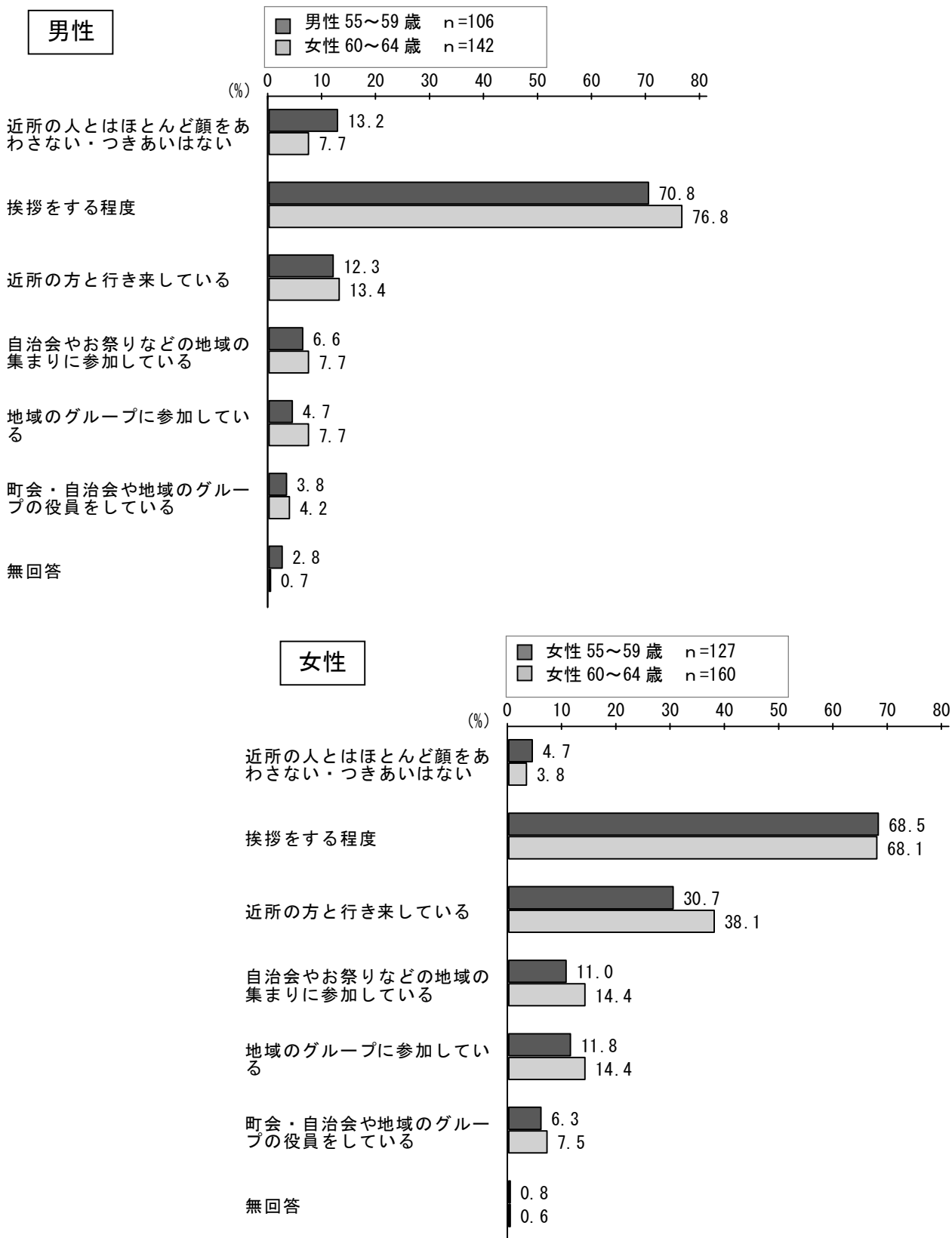
## <タ 希望する就労形態> 【複数回答】

今後の就労意向のある人の希望する就労形態について性・年齢層別にみると、男性では「会社などで常勤で働きたい」「自営業で働きたい」の割合が高く、女性では「会社などで非常勤（パートなど）で働きたい」の割合が高い。



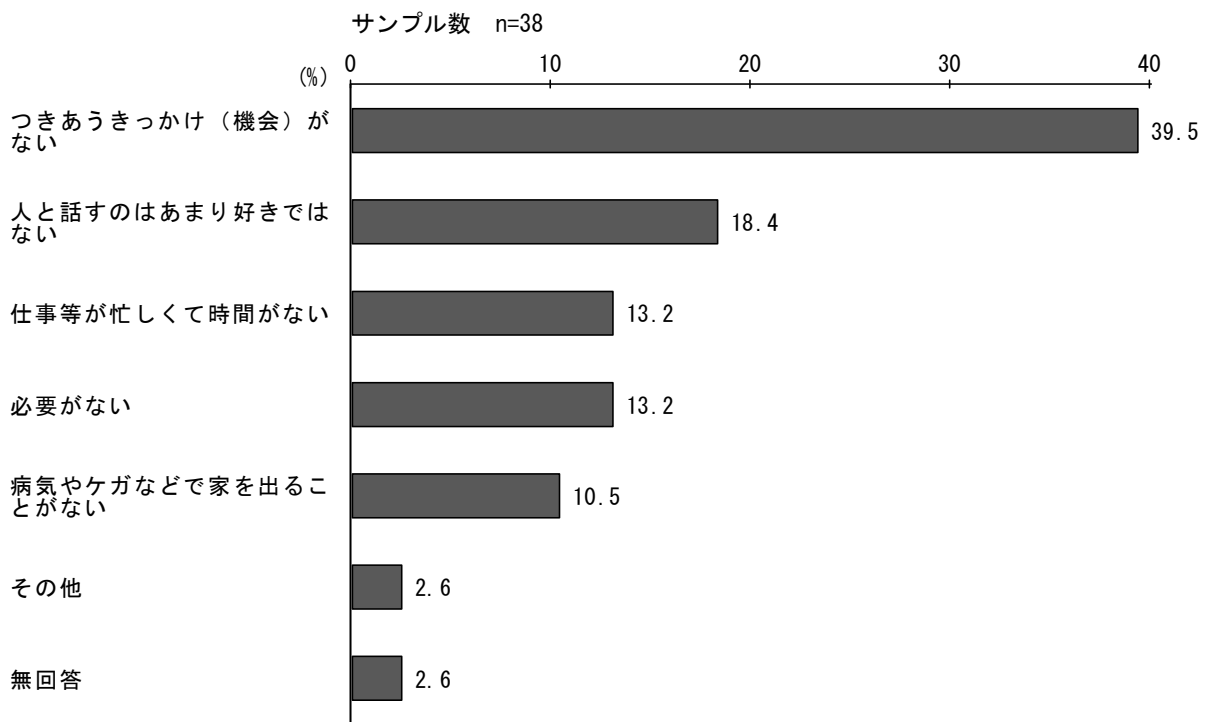
## < 地域との関わり > 【複数回答】

地域との関わりについて性・年齢層別にみると、「挨拶をする程度」が男女ともに高い割合であり、挨拶以上のつきあいをしている割合は男性より女性が高くなっている。



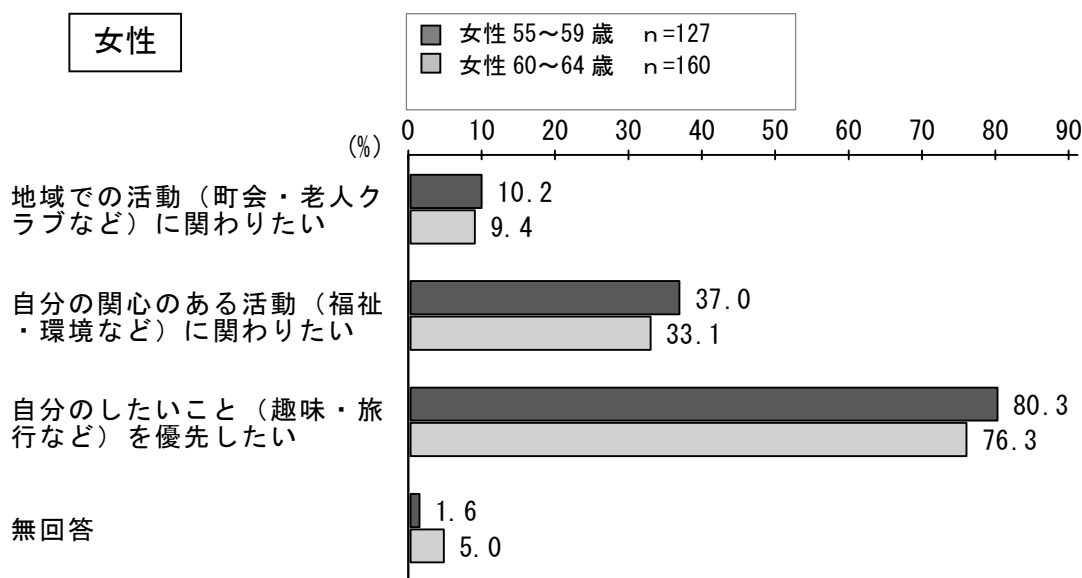
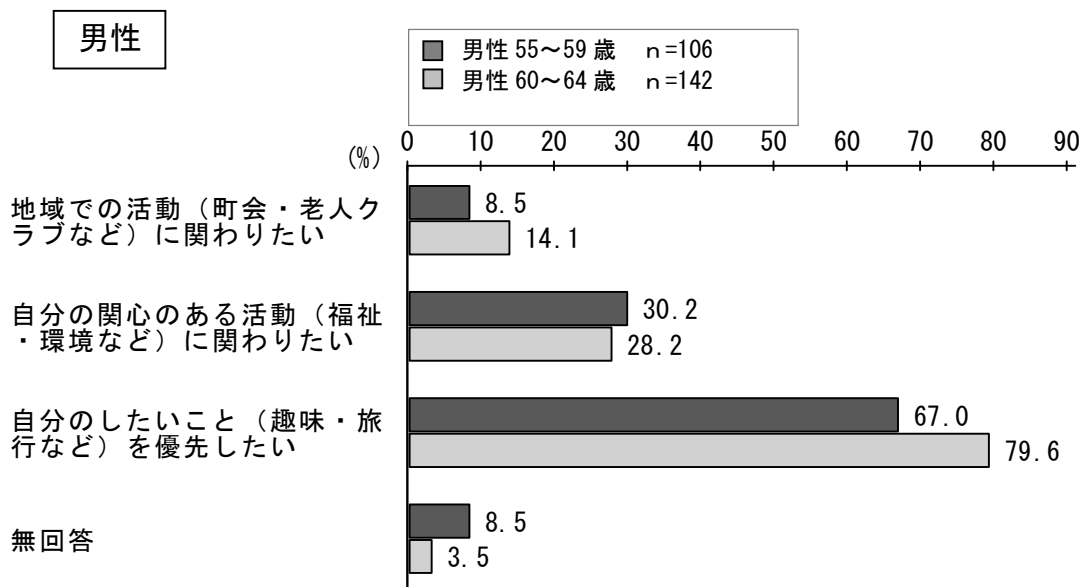
## <ツ 地域との関わりがない理由>

地域において「近所の人とほとんど顔をあわせない・つきあいはない」と回答した人の理由は、「つきあうきっかけ（機会）がない」の割合が39.5%と最も高く、次いで「人と話すのはあまり好きではない」となっている。



<テ 今後取り組みたいこと> 【複数回答】

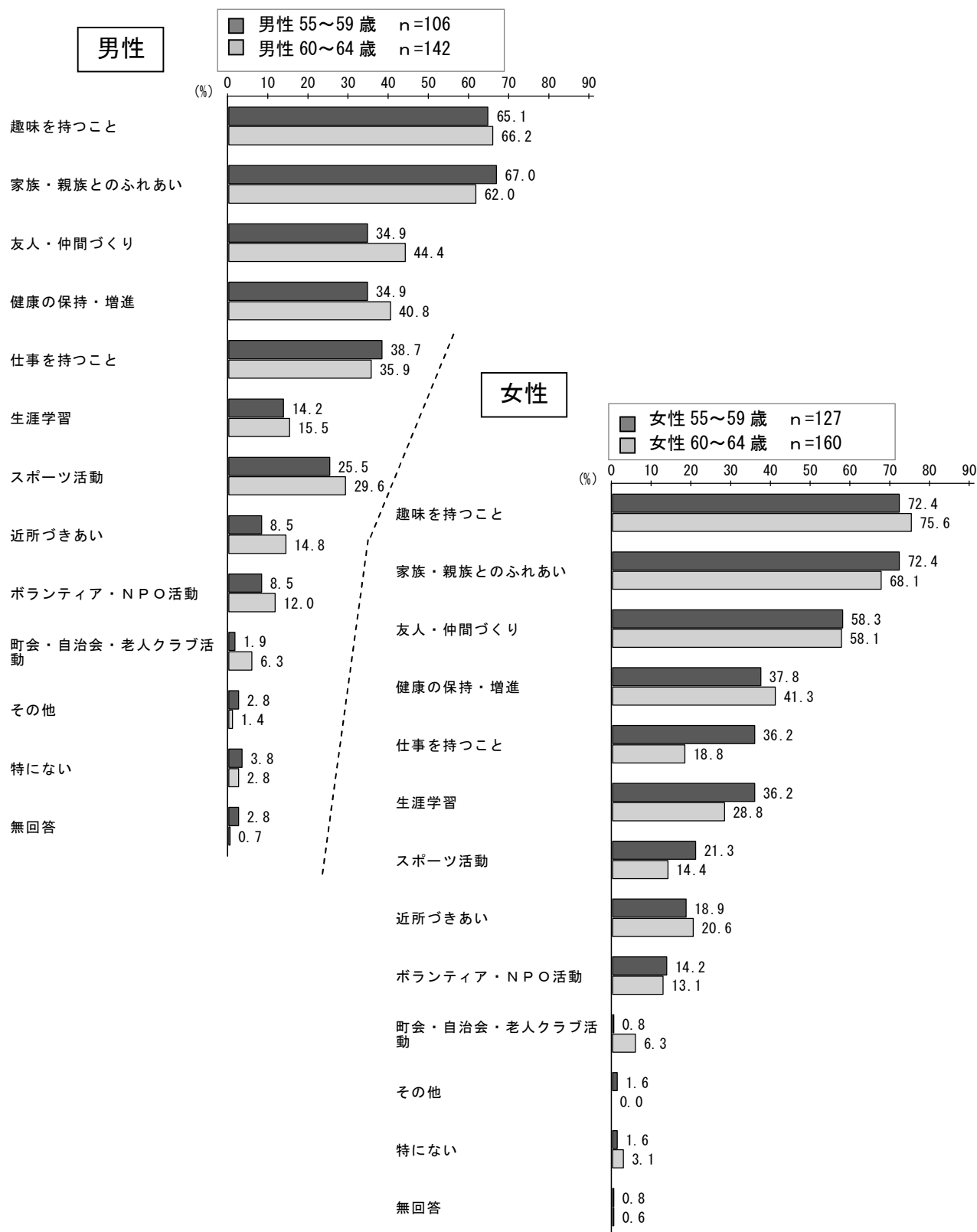
今後取り組みたいことについて性・年齢層別にみると、男女ともに「自分のしたいこと（趣味・旅行など）を優先したい」の割合が高く、次いで「自分の関心のある活動（福祉・環境など）に関わりたい」となっている。





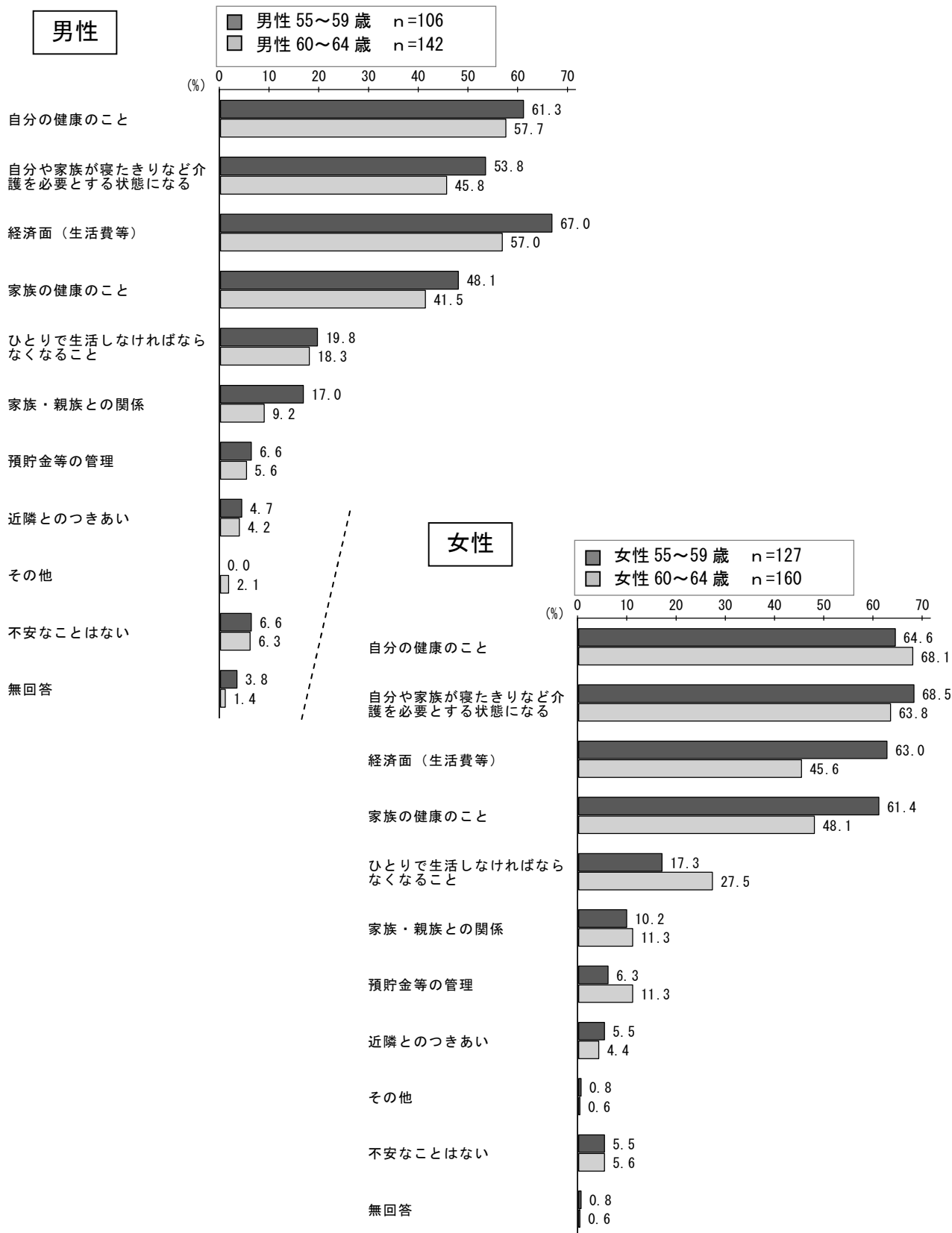
## <ト 生きがい> 【複数回答】

生きがいについて性・年齢層別にみると、男女ともに「趣味を持つこと」「家族・親族とのふれあい」が上位にあげられている。女性では男性より「友人・仲間づくり」、「生涯学習」などの割合が高くなっている。



## <ナ 将来に対する不安> 【複数回答】

将来に対する不安について、性・年齢層別にみると、55～59歳の方が60～64歳より高い傾向にある。特に「経済面（生活費等）」の割合は、男女ともに60～64歳より高い。



### (3) 介護サービス利用者調査

#### ①調査結果の概要

《回答者（介護サービス利用者）について》

- ◆ 要介護度分布は、要支援1が2.8%、要支援2が3.8%、要介護1が18.4%、要介護2が26.2%、要介護3が21.1%、要介護4が14.1%、要介護5が7.1%である。
- ◆ 世帯構成は単身（ひとりぐらし）世帯が25.6%、夫婦のみの世帯が26.7%、その他の世帯が42.4%である。
- ◆ 住居形態は、「一戸建て持ち家」が62.2%であり最も高い割合である。

《要介護の状況等について》

- ◆ 要介護となったきっかけは、「脳血管疾患」（15.5%）「ひざや腰などの関節の痛み」（13.2%）「認知症」（11.9%）「骨粗しょう症、骨折」（11.2%）の順に高い割合である。
- ◆ 要介護認定申請の理由をみると、いずれも「家事・調理、洗濯、掃除等が負担になってきたから」「買い物や外出が負担になってきたから」が3割前後みられる。
- ◆ 介護保険施設への入所申込み状況は、「特別養護老人ホーム」は10.2%、「老人保健施設」は5.0%、「療養病床」は1.1%である一方、「施設への入所（入院）意向はない」が63.6%である。
- ◆ 介護保険施設への入所申し込み理由は、「家族が精神的に疲れているため」「家族が身体的に疲れているため」が比較的高い割合を占めている。

《介護保険について》

- ◆ 介護保険料を「負担と感じる」と「多少負担と感じる」を合わせて52.0%であり、サービス利用料（1割負担）を「負担と感じる」「多少負担と感じる」を合わせて42.7%である。
- ◆ 介護保険料とサービスの関係では、「サービスの量は現状程度とし、保険料も現状程度とする」が50.0%で最も高い割合である。

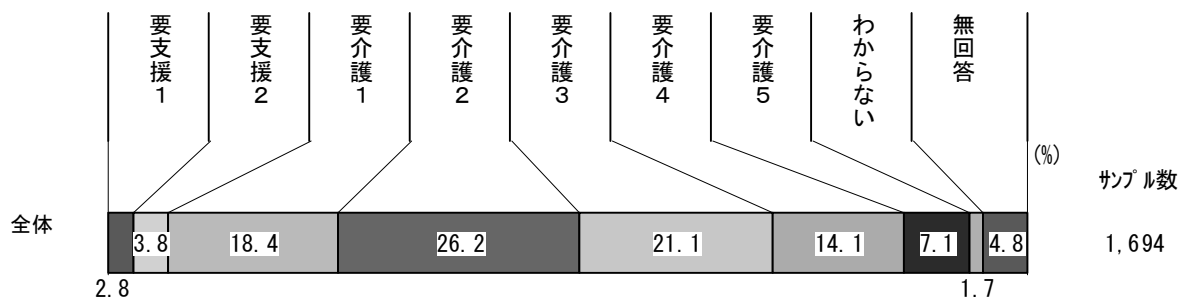
《介護者・介護の状況について》

- ◆ 家族介護者の年齢は60歳以上が63.2%を占めており、要介護5の介護者で80歳以上の割合は15.2%である。
- ◆ 介護年数は、3～5年が34.2%と最も高い割合である一方、10年以上も14.3%であり、要介護5については、10年以上が21.9%である。
- ◆ 介護をして困ったことや負担に感じたことは、「日中、家を空けるのを不安に感じる」「精神的なストレスがたまっている」「自分の自由になる時間が持てない」などの時間管理に関することや、介護による身体的、精神的な負担感が多くあげられている。

## ②調査結果

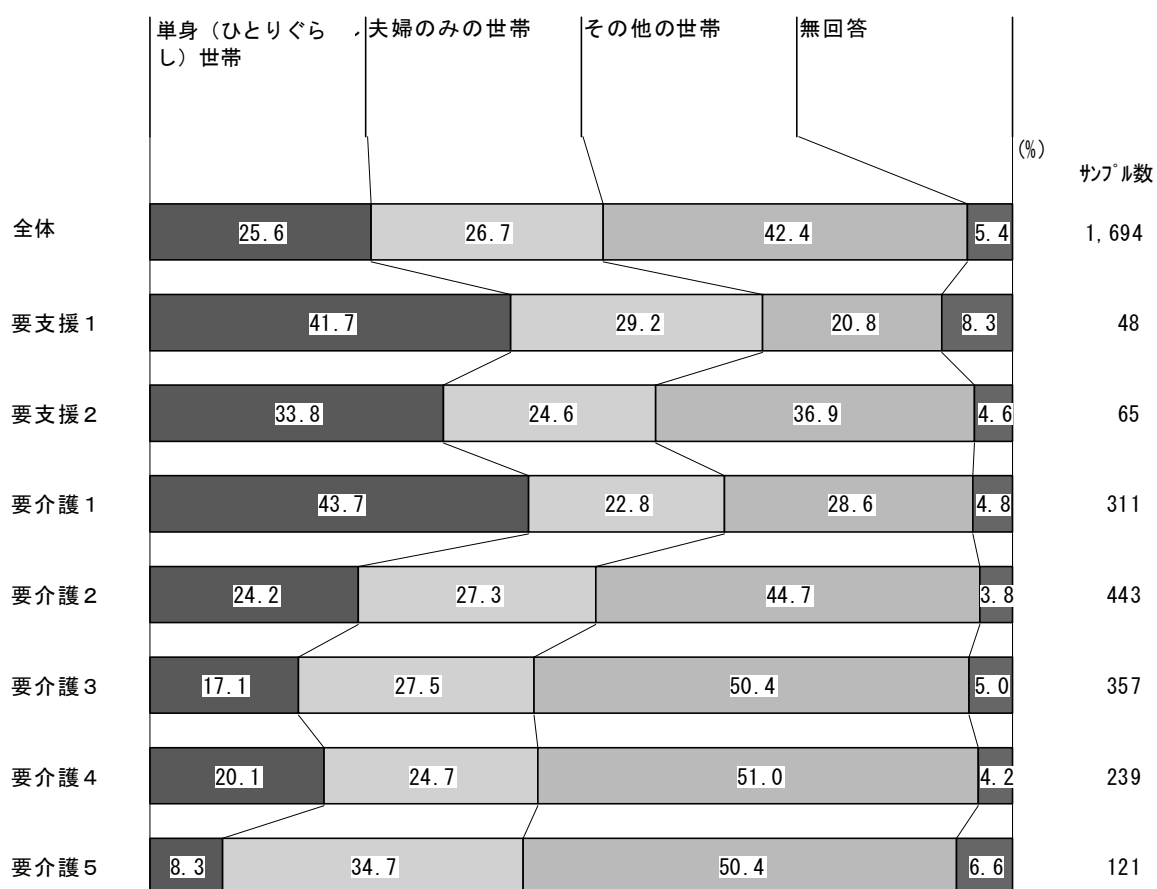
### <ア 要介護度分布>

介護サービス利用者の要介護度分布をみると、「要支援1」「要支援2」を合わせた「要支援」は6.6%、「要介護1」が18.4%、「要介護2」が26.2%、「要介護3」が21.1%、「要介護4」が14.1%、「要介護5」が7.1%である。



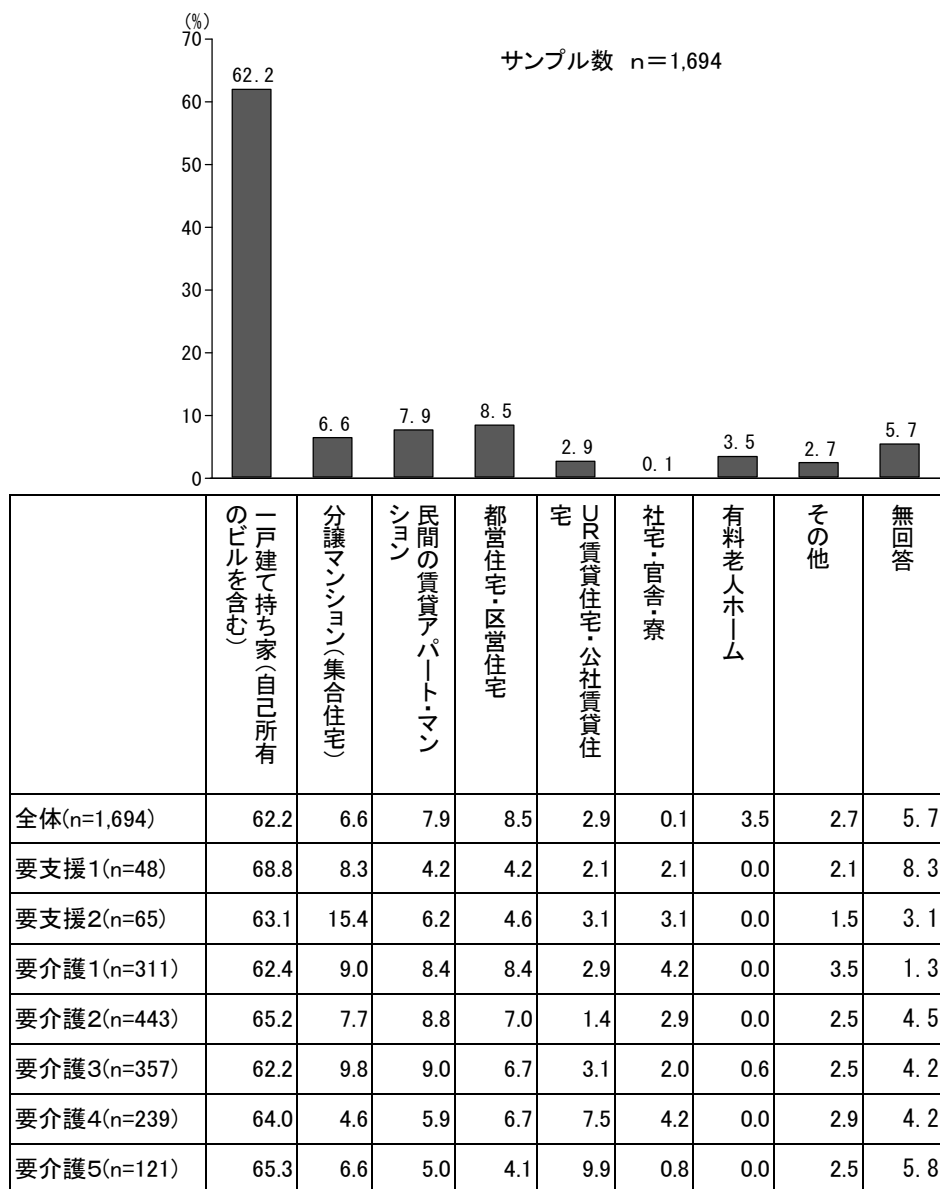
### <イ 世帯構成>

世帯構成について要介護度別にみると、「単身（ひとりぐらし）世帯」の割合は、要介護1までは3～4割であるのに対し、要介護2以上では1～2割となっている。また、要介護5では「夫婦のみの世帯」の割合が高い。



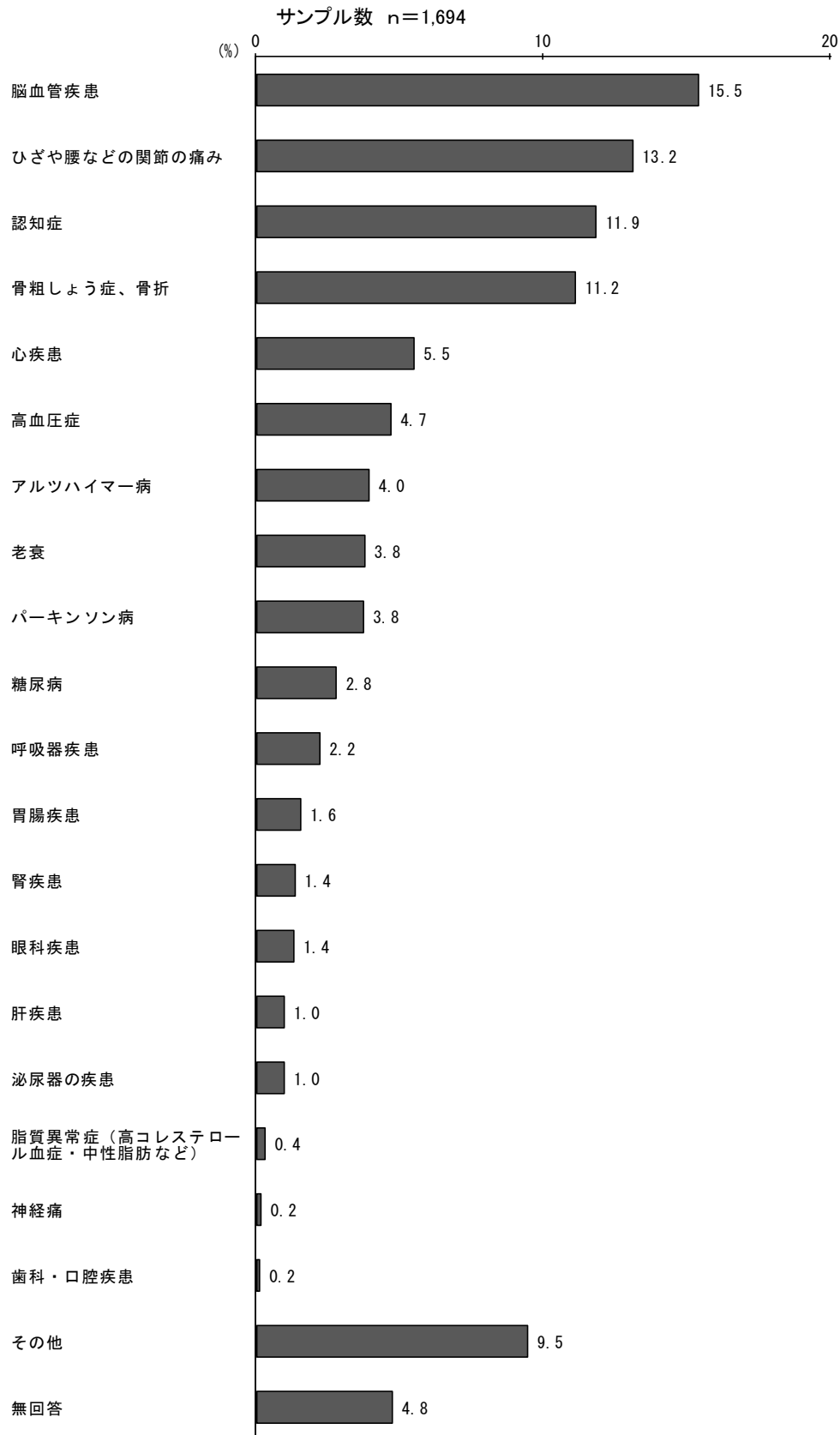
## <ウ 住居形態>

住居形態について要介護度別にみると、いずれの要介護度でも「一戸建て持ち家（自己所有のビルを含む）」に居住する割合は6割台である。また、要支援2では「分譲マンション（集合住宅）」に居住する割合が15.4%、要介護5では「UR賃貸住宅・公社賃貸住宅」に居住する割合が9.9%である。



## <エ 要介護となったきっかけ>

要介護となったきっかけは、「脳血管疾患」が15.5%で最も高く、以下「ひざや腰などの関節の痛み」（13.2%）、「認知症」（11.9%）、「骨粗しょう症、骨折」（11.2%）がそれぞれ1割を超えている。



<オ 要介護となったきっかけ>

要介護となったきっかけを要介護度別にみると、要支援1では「ひざや腰などの関節の痛み」が16.7%、要支援2では「骨粗しょう症、骨折」が20.0%、要介護1では「ひざや腰などの関節の痛み」が22.5%、要介護2では「ひざや腰などの関節の痛み」が14.4%、要介護3、4、5では、いずれも「脳血管疾患」が21.8%、20.9%、19.8%と2割前後である。

(%)

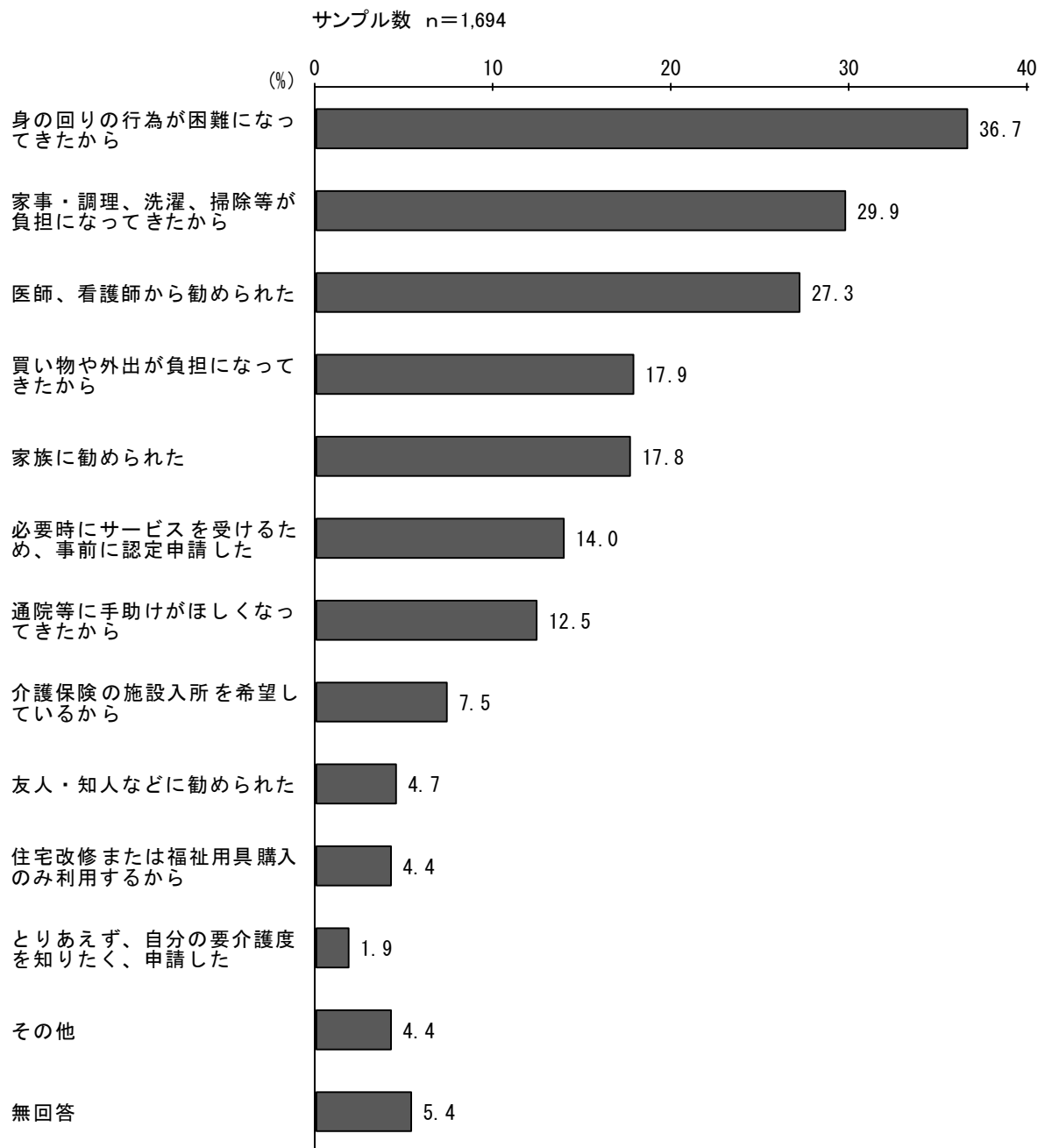
	脳血管疾患	ひざや腰などの関節の痛み	認知症	骨折粗しょう症、骨	心疾患	高血圧症	アルツハイマー病	老衰	パーキンソン病	糖尿病	呼吸器疾患
全体(n=1,694)	15.5	13.2	11.9	11.2	5.5	4.7	4.0	3.8	3.8	2.8	2.2
要支援1(n=48)	2.1	16.7	10.4	14.6	8.3	14.6	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0
要支援2(n=65)	16.9	15.4	6.2	20.0	3.1	4.6	3.1	3.1	4.6	3.1	1.5
要介護1(n=311)	9.0	22.5	10.6	11.9	7.7	5.1	3.2	2.6	3.5	2.6	3.5
要介護2(n=443)	14.0	14.4	9.5	12.0	6.8	5.9	2.0	4.3	2.9	4.3	2.5
要介護3(n=357)	21.8	8.7	16.0	9.0	3.9	4.2	4.5	5.0	3.9	1.7	2.0
要介護4(n=239)	20.9	10.0	15.5	10.5	2.5	2.1	7.5	4.2	5.0	3.3	1.7
要介護5(n=121)	19.8	3.3	14.9	9.1	6.6	2.5	8.3	1.7	9.1	2.5	2.5

(%)

	胃腸疾患	腎疾患	眼科疾患	肝疾患	泌尿器の疾患	脂質異常症(高コレステロール血症・中性脂肪など)	神経痛	歯科・口腔疾患	その他	無回答
全体(n=1,694)	1.6	1.4	1.4	1.0	1.0	0.4	0.2	0.2	9.5	4.8
要支援1(n=48)	0.0	0.0	4.2	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	6.3	16.7
要支援2(n=65)	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7
要介護1(n=311)	1.6	1.6	1.3	0.6	0.6	0.0	0.6	0.0	10.6	0.6
要介護2(n=443)	2.3	2.0	2.0	1.4	1.4	0.5	0.2	0.0	9.7	2.0
要介護3(n=357)	1.4	0.8	0.8	1.4	0.6	0.3	0.0	0.3	11.2	2.5
要介護4(n=239)	2.1	2.1	0.4	0.8	0.4	0.4	0.0	0.4	8.4	1.7
要介護5(n=121)	0.8	0.0	0.8	0.8	1.7	0.8	0.0	0.8	9.9	4.1

## <カ 要介護認定申請の理由> 【複数回答】

要介護認定申請の理由は、「身の回りの行為が困難になってきたから」が36.7%で最も高く、以下「家事・調理、洗濯、掃除等が負担になってきたから」が29.9%、「医師、看護師から勧められた」が27.3%の順となっている。

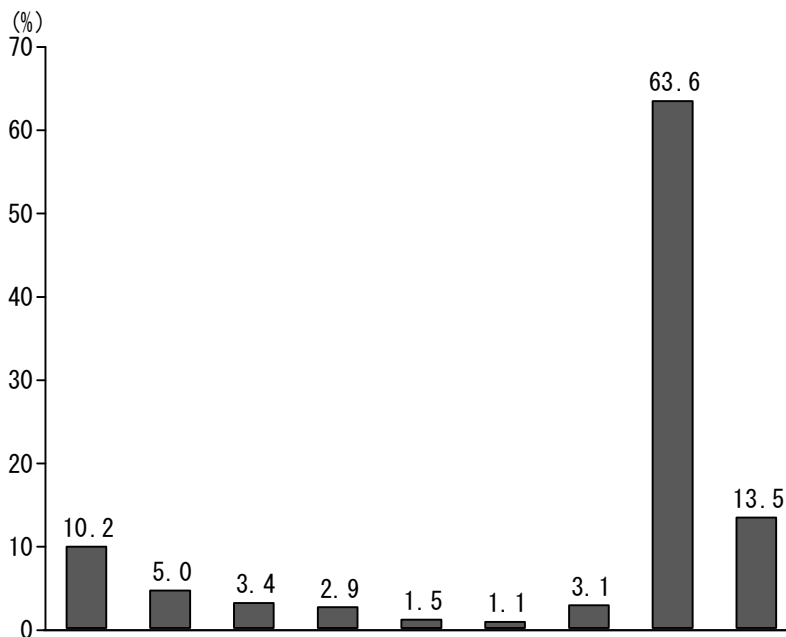




<キ 施設への入所（入院）の申込状況> 【複数回答】

施設への入所（入院）の申し込み状況について要介護度別にみると、いずれの要介護度においても「施設への入所(入院)意向はない」の割合が最も高く半数以上を占める。

サンプル数 n=1,694

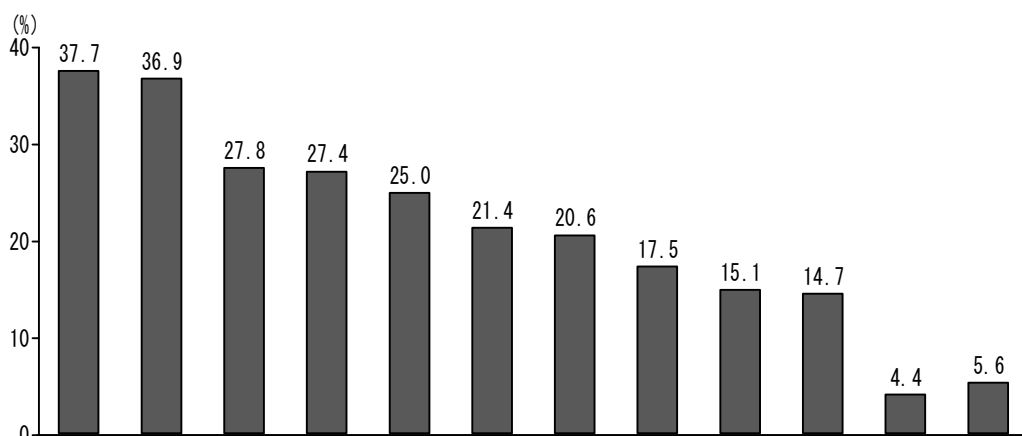


	特別養護老人ホーム	老人保健施設	有料老人ホーム	一般の病院(医療保険での入院)	認知症対応型高齢者グループホーム	療養病床	その他	施設への入所(入院)意向はない	無回答
全体(n=1,694)	10.2	5.0	3.4	2.9	1.5	1.1	3.1	63.6	13.5
要支援1(n=48)	4.2	0.0	6.3	2.1	0.0	0.0	4.2	62.5	20.8
要支援2(n=65)	7.7	7.7	3.1	6.2	0.0	1.5	4.6	52.3	20.0
要介護1(n=311)	4.5	4.8	3.5	1.9	0.6	1.6	3.2	71.7	12.5
要介護2(n=443)	6.8	6.1	2.3	3.2	1.8	0.5	1.8	71.1	11.3
要介護3(n=357)	14.3	3.4	3.1	1.7	2.0	0.6	2.8	61.1	14.0
要介護4(n=239)	16.3	5.4	6.3	3.8	2.1	1.7	4.2	54.4	10.9
要介護5(n=121)	19.0	6.6	3.3	5.0	0.8	2.5	5.8	54.5	9.1

<ク 施設入所（入院）への申込理由>【複数回答】

施設入所（入院）を希望している理由について要介護度別にみると、「家族が精神的に疲れているため」「家族が身体的に疲れているため」の割合が高い傾向にあり、特に要介護4、5で高くなっている。

サンプル数 n=252

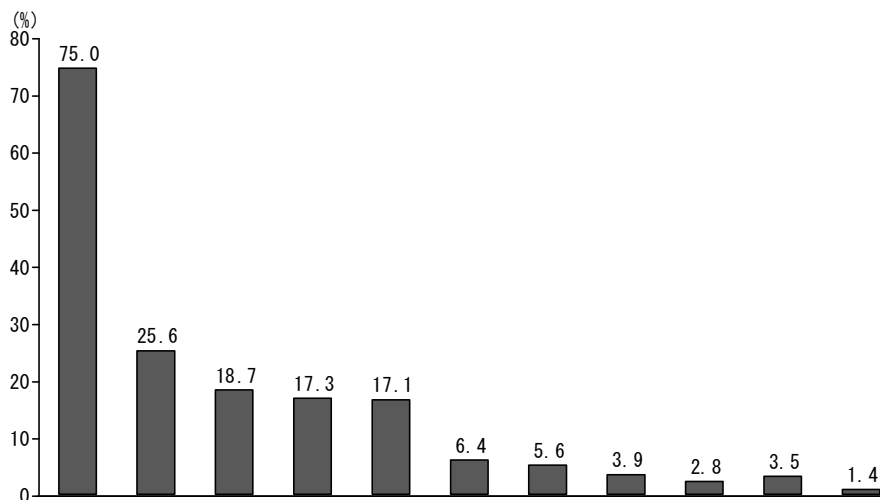


	家族が精神的に疲れているため	家族が身体的に疲れているため	ひとり暮らしや高齢者世帯で在宅生活に不安を感じるから	家族が働いているため、在宅で介護を十分受けられない	家族が働いているため、在宅で介護を十分受けられない	早めに入所（入院）を申し込む必要があるから	リハビリ等が必要で、医師等に入所をすすめられたから	家族の健康状態が悪く、在宅で介護を十分受けられない	自己負担が少なくてすむから	現在の住居が介護に適していないから	介護者がいない等の理由で、在宅介護を受けられない	その他	無回答
全体(n=252)	37.7	36.9	27.8	27.4	25.0	21.4	20.6	17.5	15.1	14.7	4.4	5.6	
要支援1(n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
要支援2(n=10)	20.0	20.0	20.0	10.0	40.0	20.0	20.0	40.0	10.0	10.0	0.0	20.0	
要介護1(n=26)	15.4	19.2	42.3	23.1	26.9	7.7	7.7	19.2	11.5	34.6	3.8	11.5	
要介護2(n=53)	41.5	41.5	26.4	28.3	28.3	34.0	22.6	24.5	15.1	9.4	7.5	1.9	
要介護3(n=66)	33.3	36.4	31.8	25.8	19.7	19.7	22.7	12.1	13.6	12.1	6.1	1.5	
要介護4(n=52)	48.1	44.2	23.1	34.6	21.2	23.1	25.0	17.3	23.1	19.2	3.8	5.8	
要介護5(n=28)	53.6	46.4	32.1	25.0	32.1	25.0	17.9	7.1	14.3	10.7	0.0	0.0	

## <ケ 施設入所（入院）を希望しない理由> 【複数回答】

施設への入所（入院）を希望しない理由について要介護度別にみると、どの要介護度においても「できるかぎり自宅で過ごしたいから」の割合が最も高い。要介護3以上では、「家族介護で十分生活できるから」「家族とのつながりを保ちたいから」の割合も高い傾向にある。

サンプル数 n=1,077

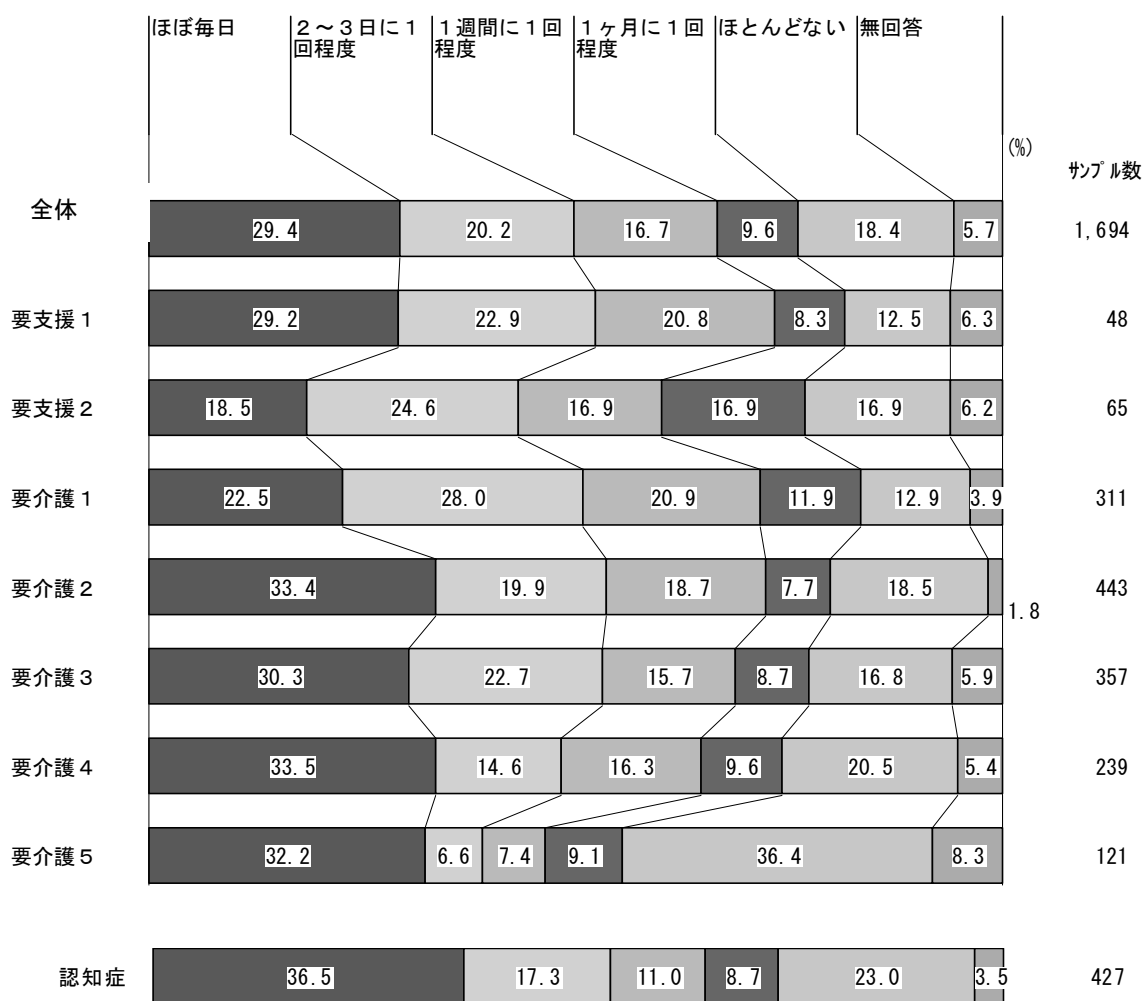


	できるかぎり自宅で過ごしたいから	自分の身の回りのことはできるだけ自分でしたいから	家族介護で十分生活できるから	家族とのつながりを保ちたいから	入院・入所で費用がかかるから	施設での生活は自由がきかないと思うから	健康状態が良好だから	友人・知人とのつきあいを続けたいから	隣近所とのつきあいを続けたいから	その他	無回答
全体(n=1,077)	75.0	25.6	18.7	17.3	17.1	6.4	5.6	3.9	2.8	3.5	1.4
要支援1(n=30)	80.0	50.0	6.7	16.7	3.3	6.7	10.0	6.7	6.7	0.0	6.7
要支援2(n=34)	73.5	23.5	2.9	8.8	17.6	2.9	8.8	2.9	8.8	8.8	5.9
要介護1(n=223)	78.9	37.7	11.2	11.2	14.3	8.1	4.0	7.6	4.9	1.8	1.8
要介護2(n=315)	71.1	28.3	22.2	15.6	18.7	6.3	7.0	3.5	3.2	2.5	1.0
要介護3(n=218)	75.7	20.6	23.9	21.6	21.1	4.6	6.0	2.3	0.5	4.1	0.0
要介護4(n=130)	78.5	11.5	24.6	18.5	15.4	6.9	2.3	2.3	0.8	5.4	1.5
要介護5(n=66)	78.8	0.0	16.7	34.8	18.2	6.1	3.0	0.0	0.0	7.6	3.0

## <コ おしゃべりの頻度>

おしゃべりの頻度について要介護度別にみると、「ほぼ毎日」の割合は、要支援1で29.2%、要介護2～5にかけて3割台である。一方、要介護5では、「ほとんどない」が36.4%と他の要介護度よりも高い。

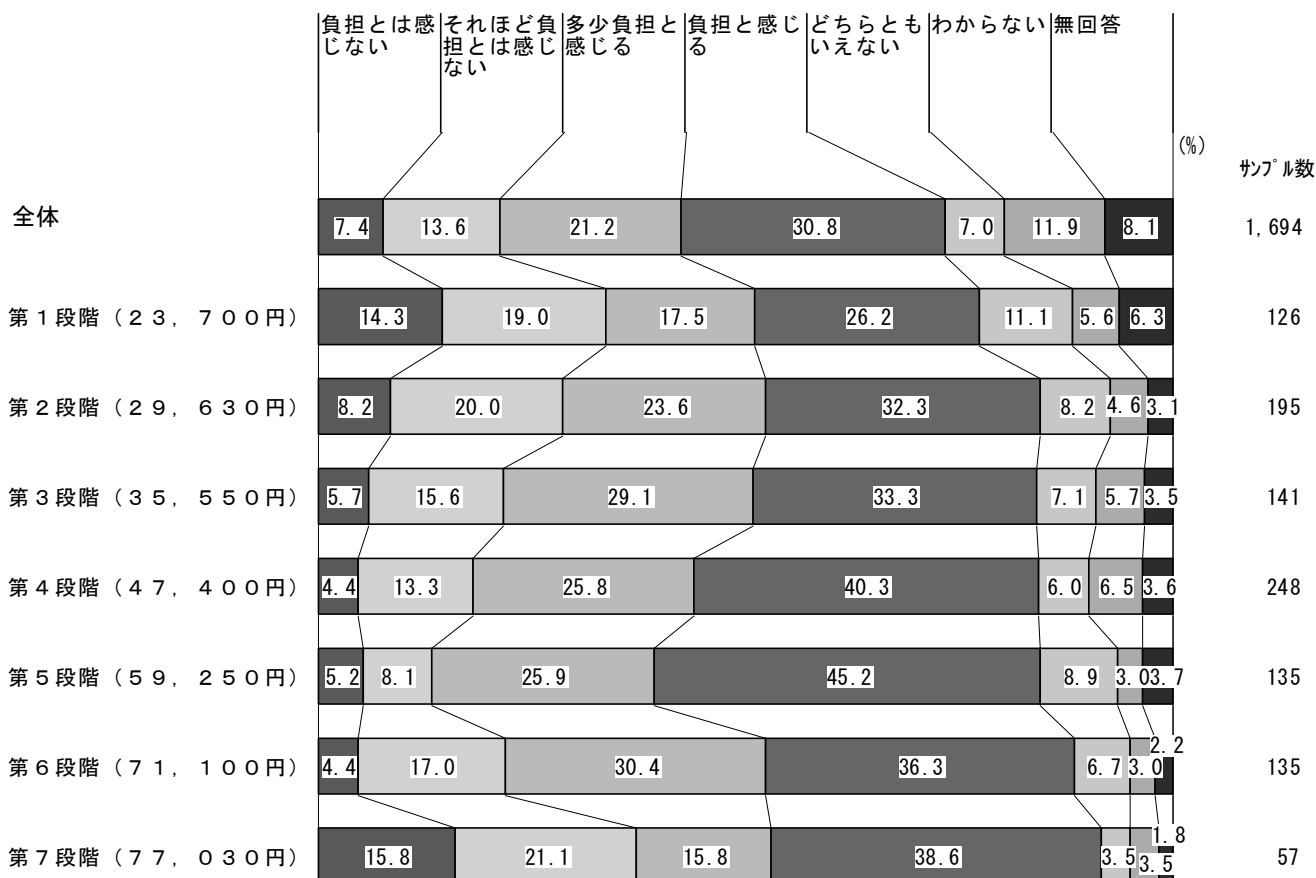
また、「認知症」の要介護者（427人）では、「ほぼ毎日」の割合は36.5%、また「ほとんどない」の割合は23.0%である。



※ 「認知症」の要介護者とは、「現在かかっている病気やけが」の設問において「認知症」と回答した介護サービス利用者427人である。

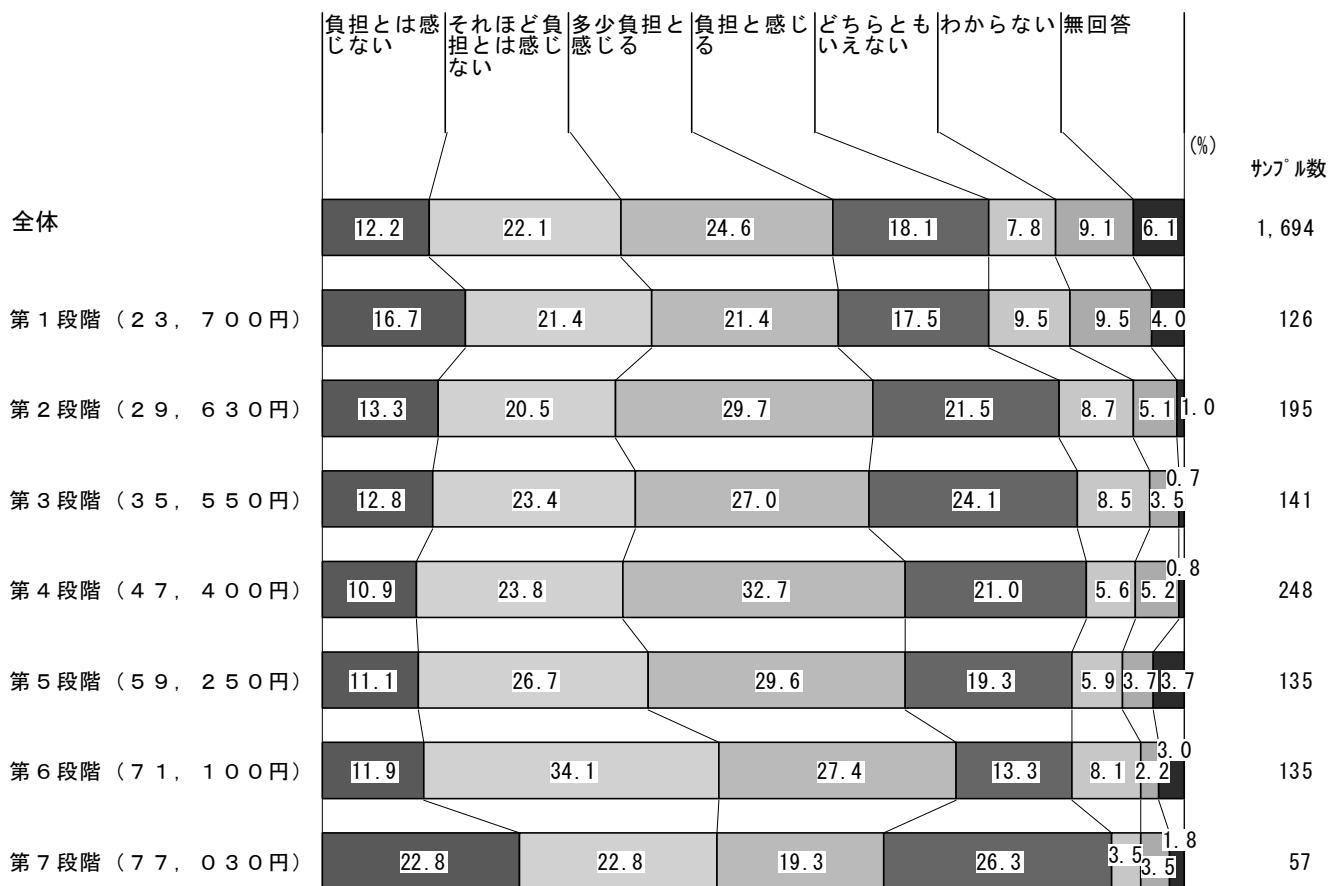
## <サ 介護保険料負担感>

介護保険料の負担感について介護保険料別にみると、第1段階から第5段階までは段階があがるにつれ、負担を感じる割合（「多少負担を感じる」「負担を感じる」の合計）が高くなるが、第6、第7段階では、負担を感じない割合（「負担とは感じない」「それほど負担とは感じない」の合計）が第5段階に比べ、高くなる傾向にある。



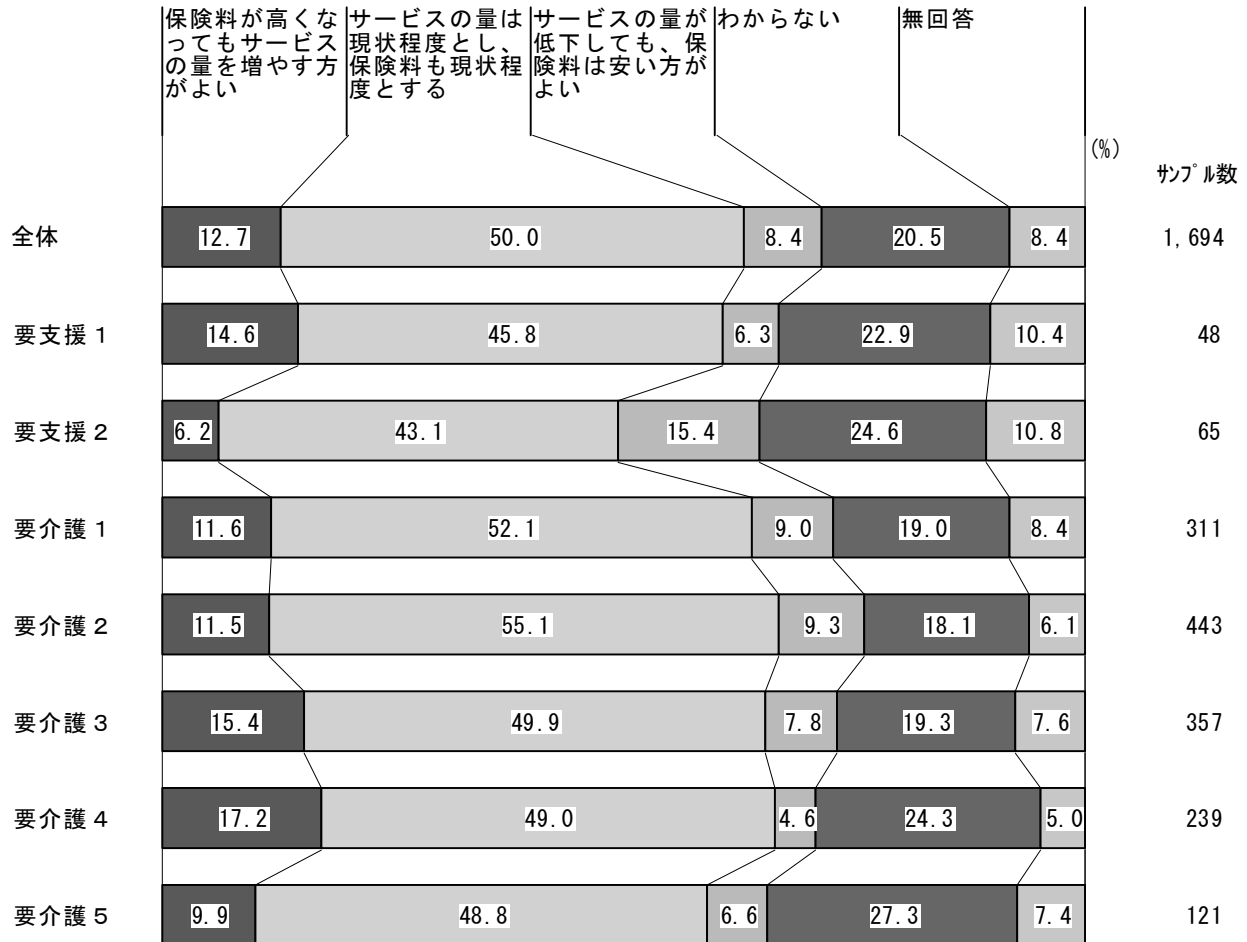
## <シ 介護サービスの利用料1割負担>

介護サービスの利用料1割負担について介護保険料別にみると、第1段階から第5段階までは、負担を感じる割合（「多少負担を感じる」「負担を感じる」の合計）が、負担を感じない割合（「負担とは感じない」「それほど負担とは感じない」の合計）より高い。



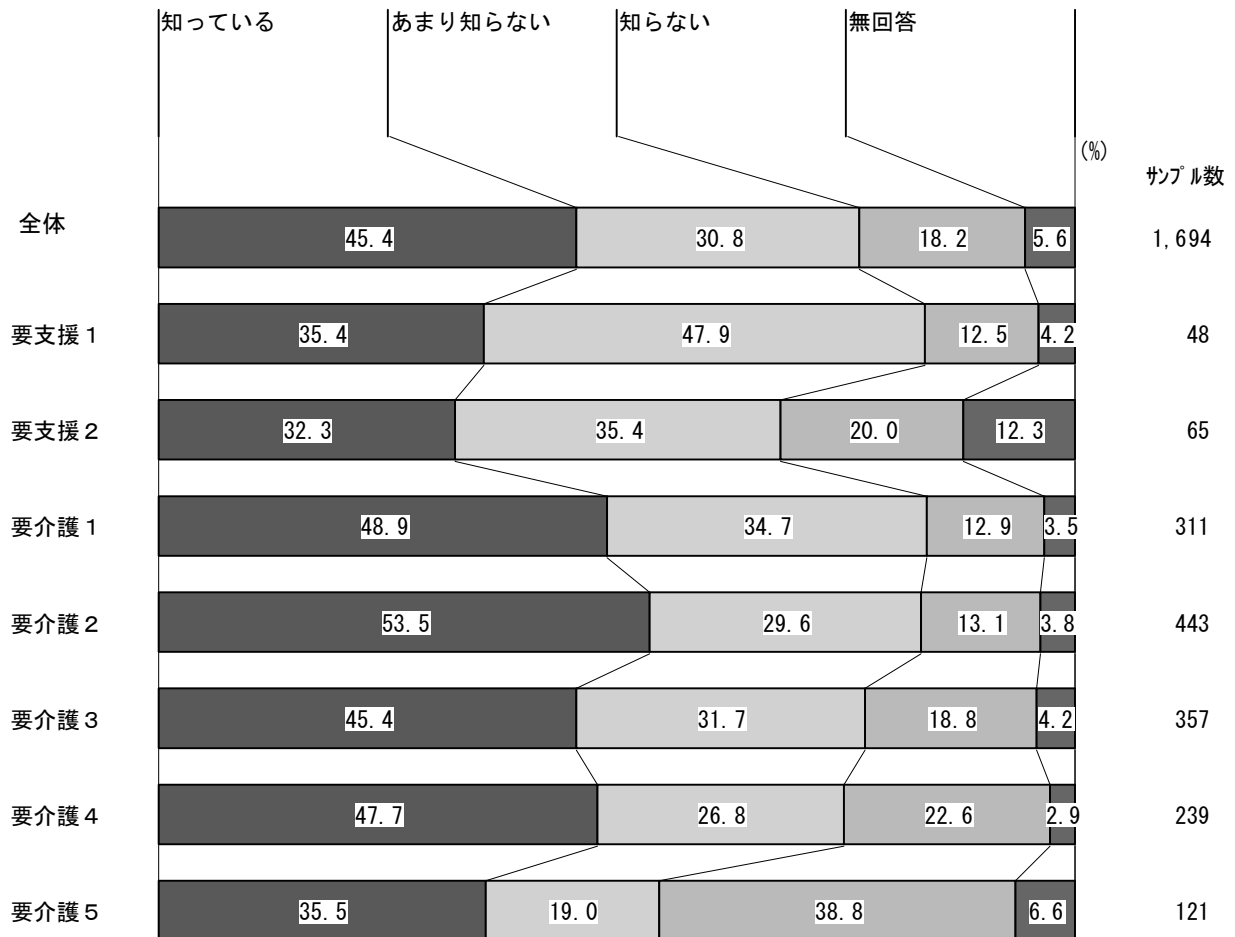
## <ス 介護保険料とサービス関係>

介護保険料とサービスの関係について要介護度別にみると、どの要介護度においても「サービスの量は現状程度とし、保険料も現状程度とする」の割合が最も高い。



## <セ ケアプラン認知状況>

自身のケアプラン認知状況について要介護度別にみると、要介護1、要介護2で「知っている」が48.9%、53.5%と5割前後で、他の要介護度よりも高くなっている。

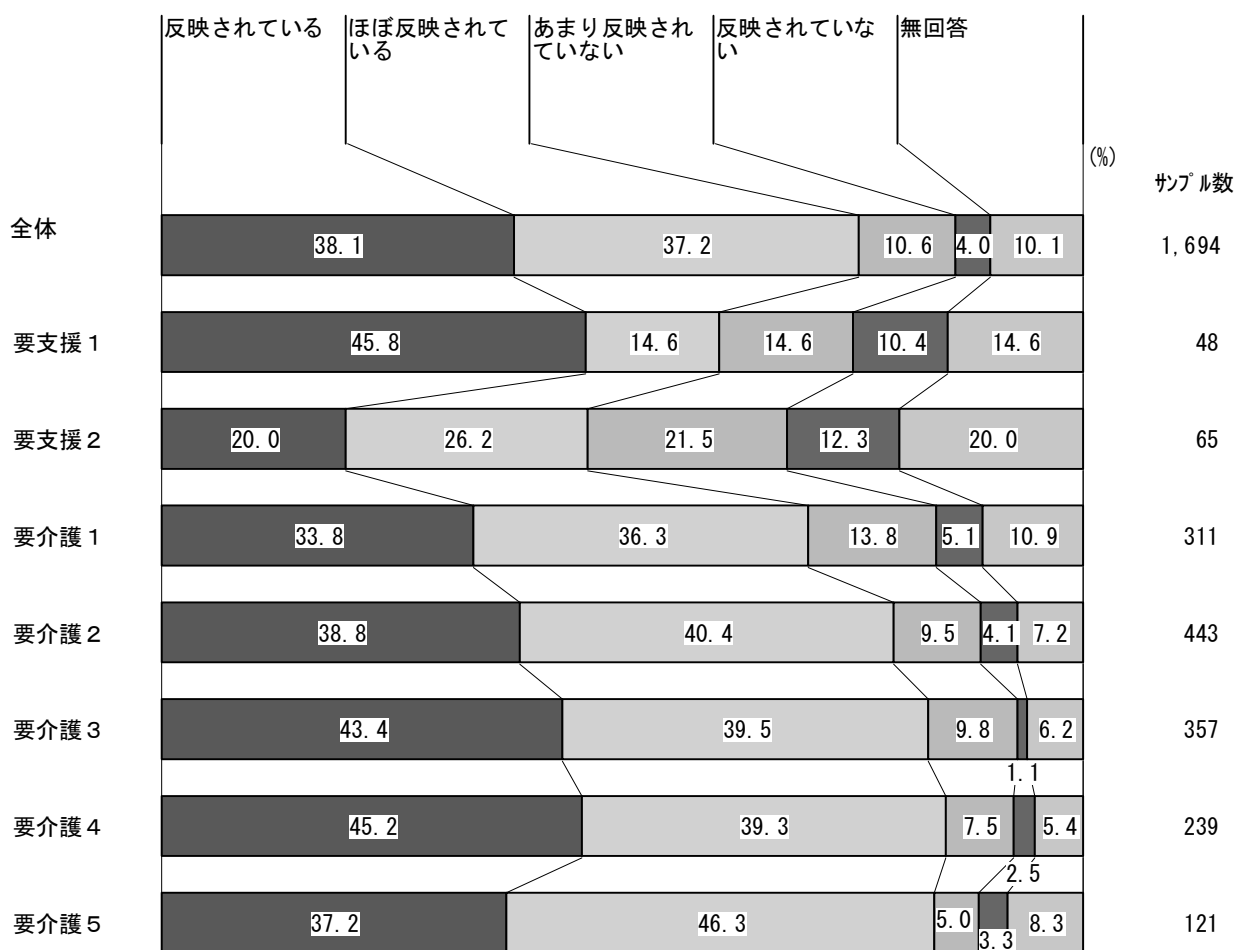




## ＜ソ ケアプランへの家族意見の反映＞

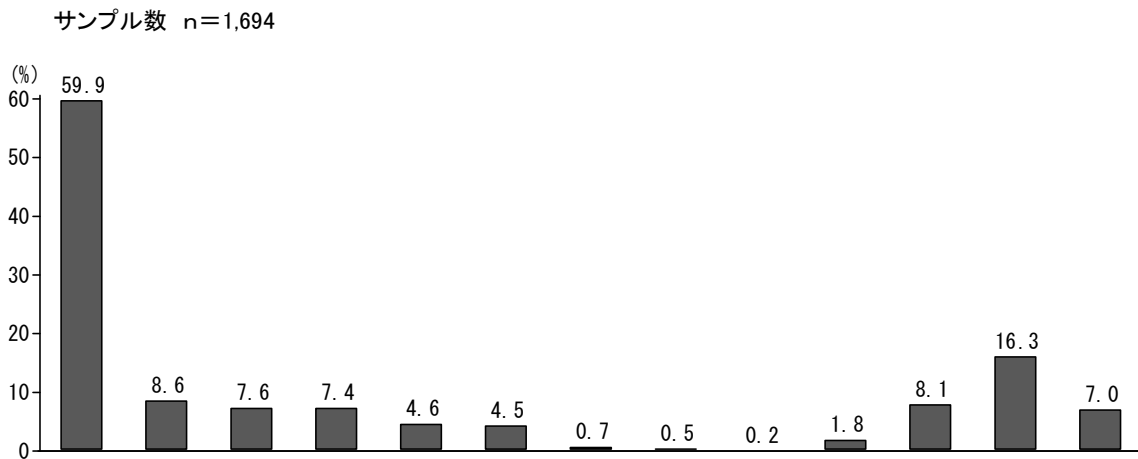
ケアプランへの家族意見の反映状況について要介護度別にみると、要支援1では「反映されている」が45.8%と他の要介護度に比べて最も高い。一方、要支援2では、「反映されている」「ほぼ反映されている」の割合の合計が他の要介護度に比べて最も低い。

また、要介護3～5では「反映されている」「ほぼ反映されている」の割合が8割以上と高い傾向にある。



<タ 介護保険に関する相談、苦情先>【複数回答】

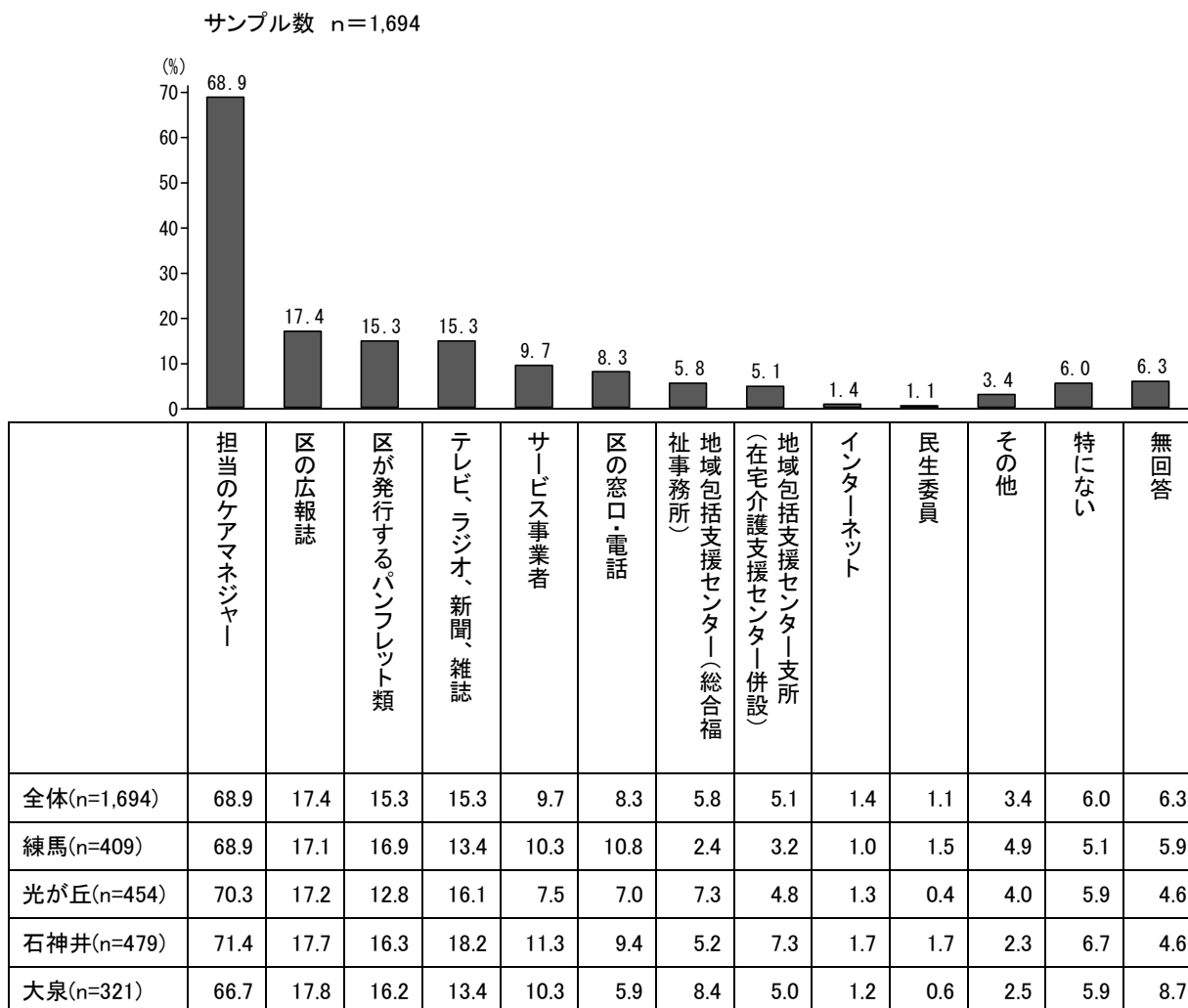
介護保険に関する相談・苦情先について要介護度別にみると、いずれの要介護度においても「担当のケアマネジャー」の割合が最も高い。



	担当のケアマネジャー	区の介護保険課	サービス事業者	医師	地域包括支援センター(総合福祉事務所)	地域包括支援センター(在宅介護支援センター併設)	民生委員	保健福祉サービス苦情調整委員	都の国保連合会	その他	どこにしていかわからない	相談・苦情は特にない	無回答
全体(n=1,694)	59.9	8.6	7.6	7.4	4.6	4.5	0.7	0.5	0.2	1.8	8.1	16.3	7.0
要支援1(n=48)	45.8	8.3	2.1	6.3	0.0	4.2	0.0	2.1	0.0	8.3	4.2	22.9	10.4
要支援2(n=65)	53.8	6.2	4.6	1.5	1.5	3.1	3.1	1.5	1.5	1.5	13.8	15.4	6.2
要介護1(n=311)	57.6	8.4	9.6	8.0	5.1	5.1	1.6	0.3	0.3	0.6	10.0	17.4	5.8
要介護2(n=443)	64.1	7.9	7.0	9.0	4.5	4.7	0.5	0.0	0.0	2.3	8.1	16.3	5.0
要介護3(n=357)	62.5	9.5	6.7	6.7	4.8	5.6	0.6	0.6	0.0	1.4	6.7	17.1	6.2
要介護4(n=239)	59.8	11.7	9.6	7.9	4.6	3.3	0.4	1.3	0.0	2.1	7.5	15.5	5.9
要介護5(n=121)	62.8	5.8	9.1	5.8	6.6	4.1	0.0	0.0	0.0	2.5	7.4	11.6	7.4

<子 情報源> (地区別) 【複数回答】

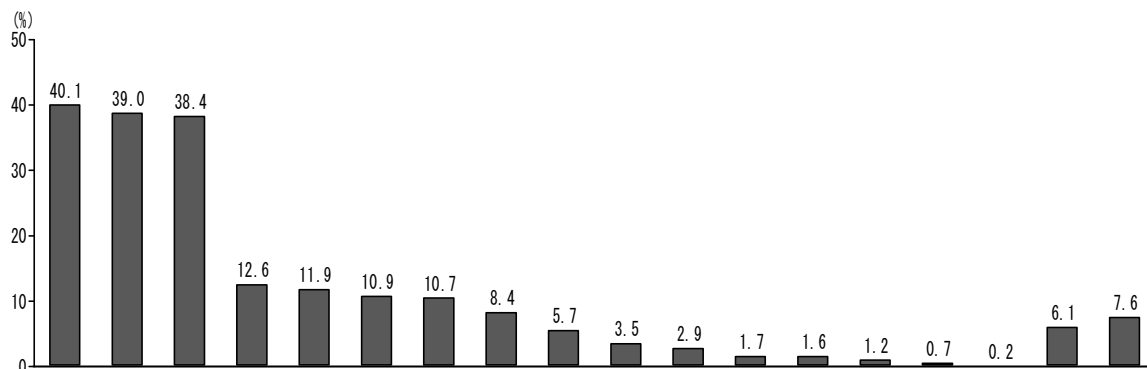
介護保険の制度・サービス事業者等に関する情報について地区別にみると、いずれの地区においても「担当のケアマネジャー」の割合が最も高くなっている。



## ＜ツ 利用したサービス＞【複数回答】

介護サービスのうち、平成19年9月～11月の間に利用したサービスについては、「通所介護」「福祉用具貸与・購入」「訪問介護」の割合が高い。また、要介護5では「訪問看護」の割合が他の要介護度より高くなっている。

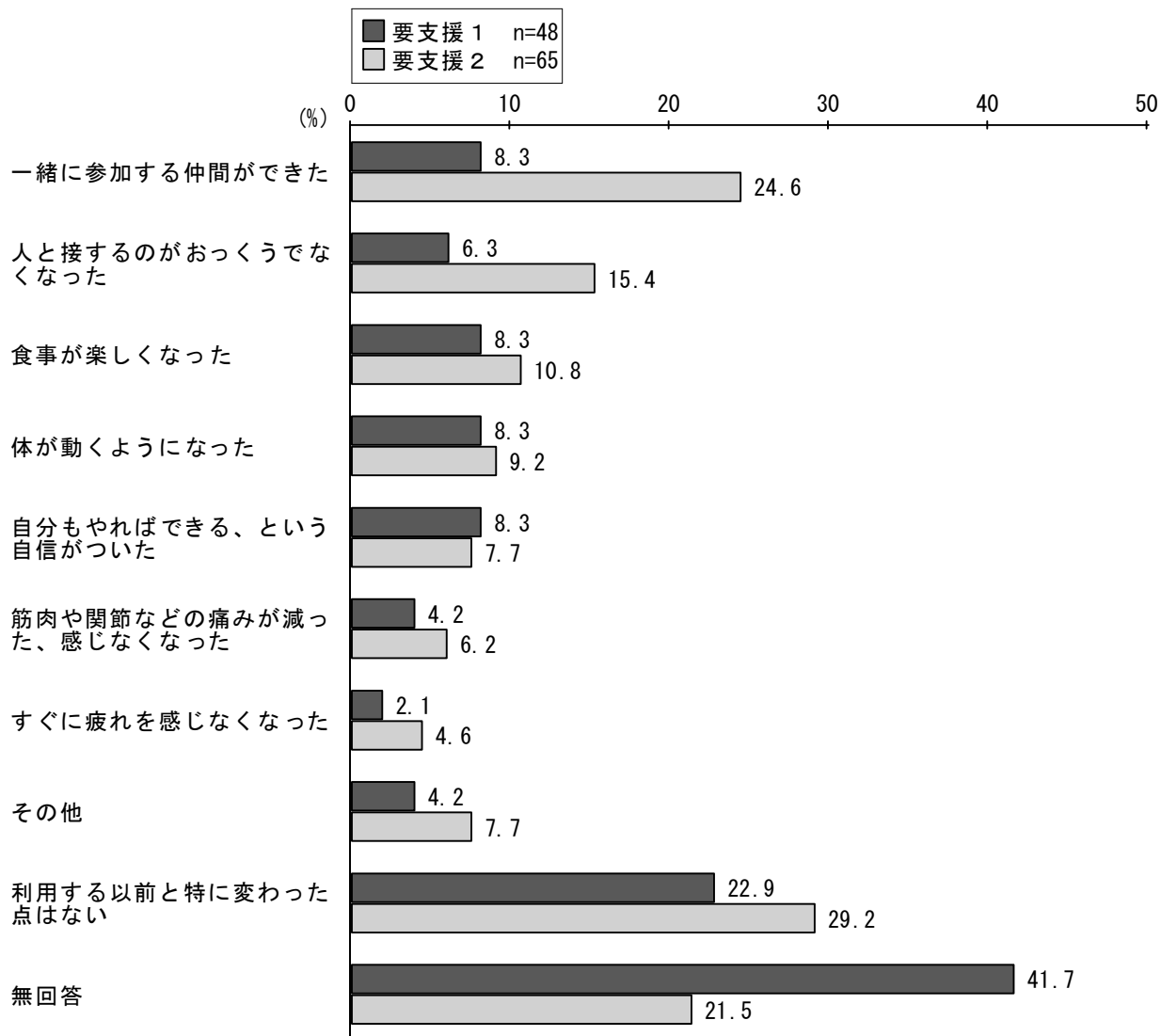
サンプル数 n=1,694



	通所介護(デイサービス)	福祉用具貸与・購入	訪問介護	訪問入浴介護	短期入所生活介護(ショートステイ)	通所リハビリ(デイケア)	訪問看護	訪問リハビリ	住宅改修	居宅療養管理指導	特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム)	短期入所療養介護(ショートステイ)	認知症対応型通所介護	認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	夜間対応型訪問介護	小規模多機能型居宅介護	いずれも利用していない	無回答
全体 (n=1,694)	40.1	39.0	38.4	12.6	11.9	10.9	10.7	8.4	5.7	3.5	2.9	1.7	1.6	1.2	0.7	0.2	6.1	7.6
要支援1 (n=48)	16.7	16.7	37.5	4.2	2.1	0.0	0.0	2.1	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	20.8
要支援2 (n=65)	35.4	24.6	33.8	15.4	7.7	13.8	6.2	7.7	4.6	1.5	1.5	3.1	1.5	1.5	1.5	1.5	12.3	7.7
要介護1 (n=311)	30.5	24.4	41.5	5.5	3.9	8.7	2.6	3.5	2.9	1.3	1.9	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	11.3	8.0
要介護2 (n=443)	45.8	35.0	39.5	7.0	9.3	13.1	6.8	6.1	4.1	2.0	1.4	0.5	0.9	0.5	0.2	0.2	5.0	4.3
要介護3 (n=357)	51.5	48.2	35.0	10.4	17.9	13.2	10.1	11.2	9.5	3.4	2.2	1.7	2.8	2.0	0.6	0.0	2.2	4.8
要介護4 (n=239)	38.9	52.7	37.7	23.8	22.2	13.0	18.4	14.2	7.1	6.3	6.7	2.9	3.3	2.1	0.8	0.0	5.9	6.3
要介護5 (n=121)	32.2	64.5	47.9	38.8	14.9	5.8	41.3	14.9	6.6	14.0	7.4	8.3	2.5	1.7	3.3	0.0	0.8	6.6

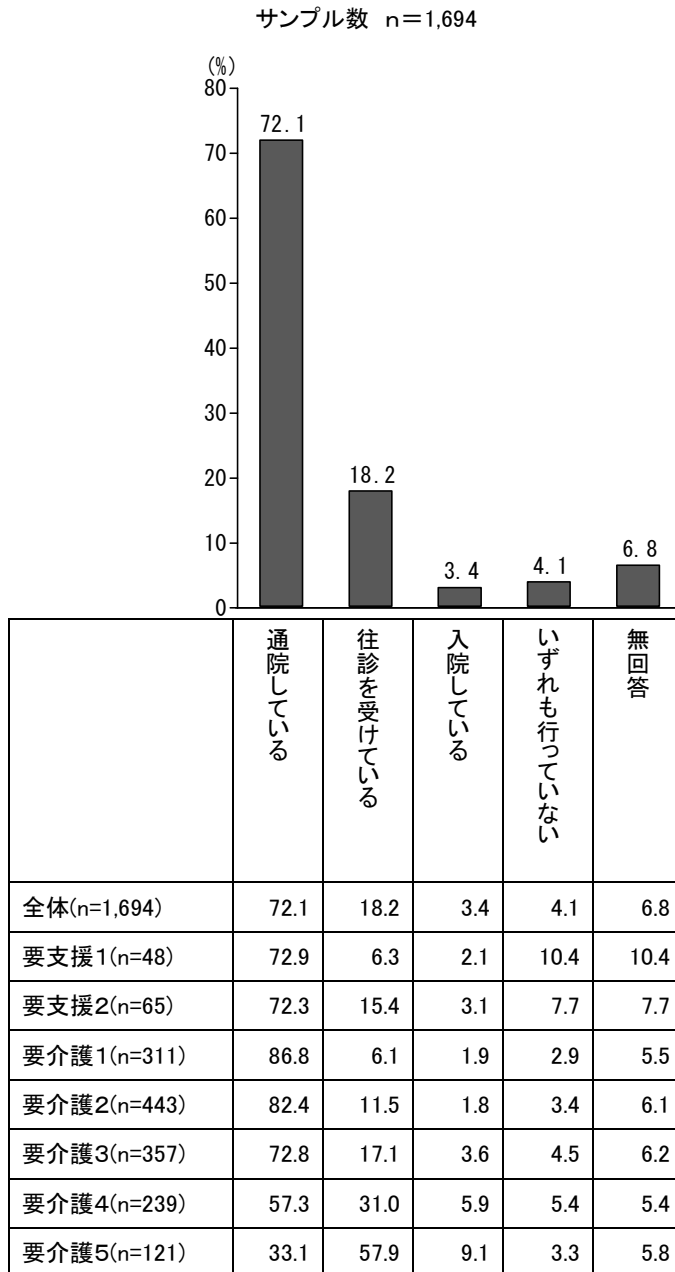
<テ サービス利用後の変化>〔介護予防サービス（予防給付）〕【複数回答】

介護予防サービス（予防給付）を利用するようになって変わったことについてみると、要支援2では「一緒に参加する仲間ができた」が比較的高い割合であるが、「利用する以前と特に変わった点はない」も高い割合となっている。



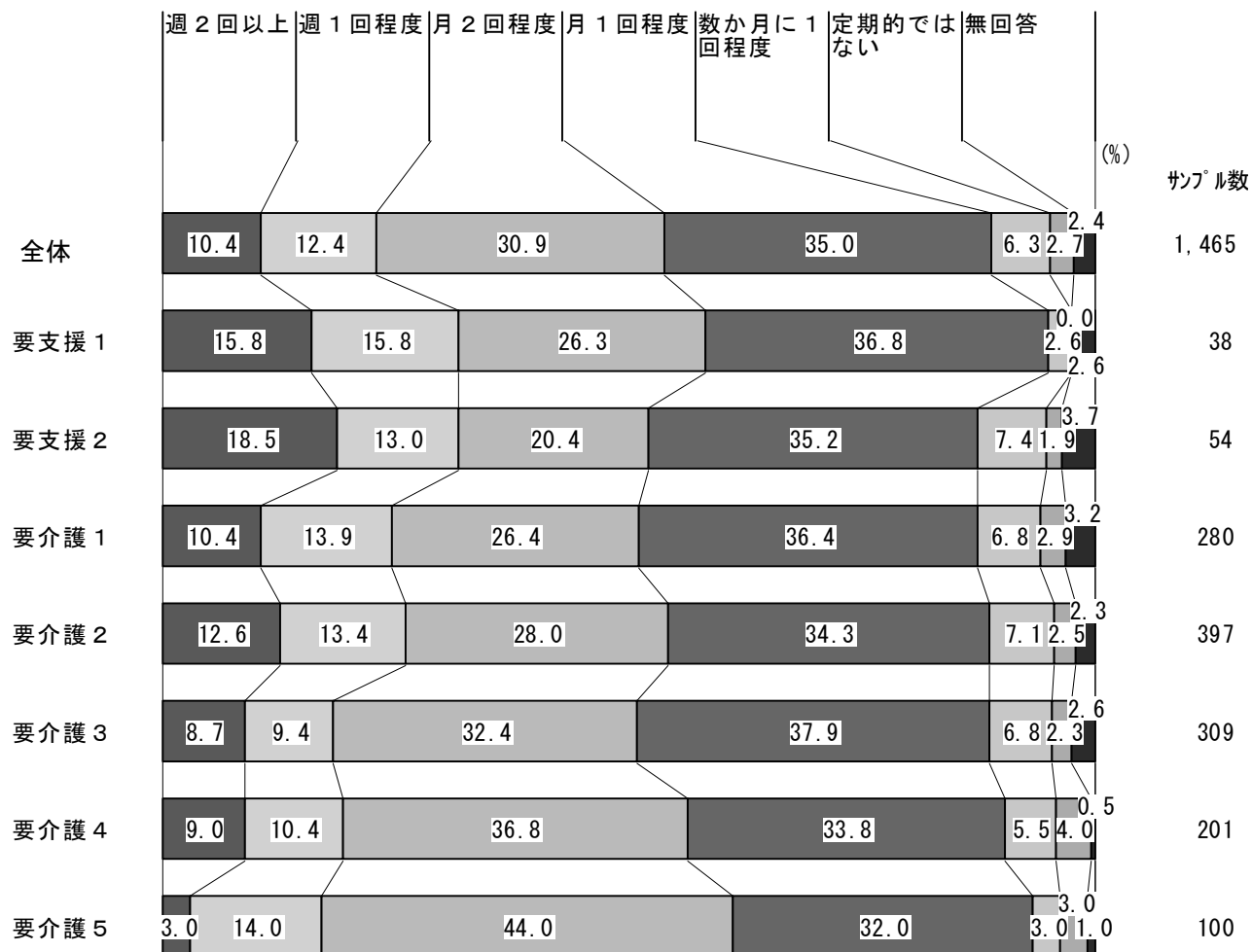
<ト 通院・往診など受療状況> 【複数回答】

通院・往診などの受診状況について、要介護度別にみると、「往診を受けている」の割合は要介護4以上で高くなっている。



## <ナ 通院・往診頻度>

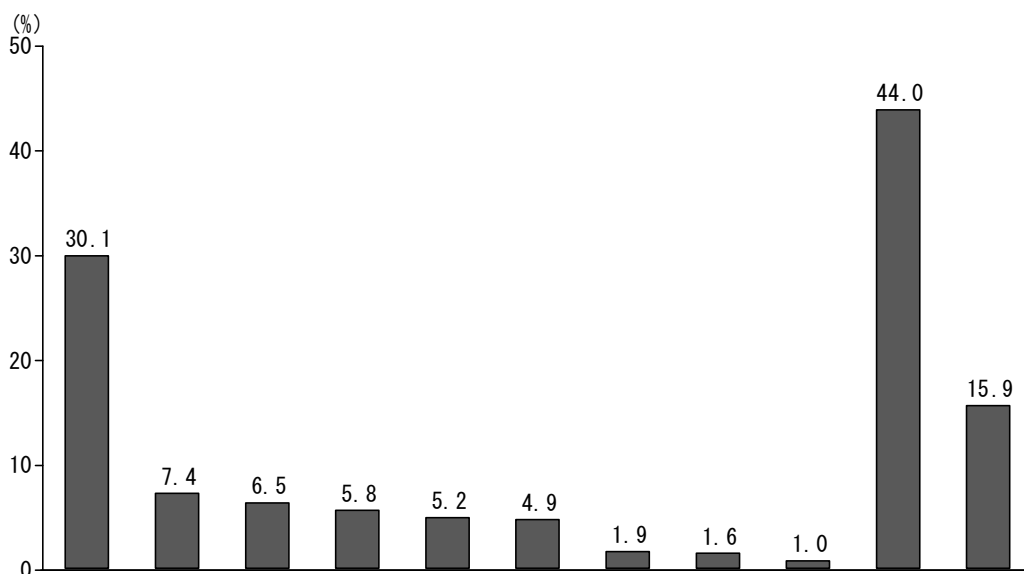
通院・往診の頻度について要介護度別にみると、要支援1から要介護3までは「月1回程度」の割合が最も高く、要介護4以上では「月2回程度」の割合が最も高い。



## <ニ 往診を受けている内容> 【複数回答】

往診を受けている内容については、「痛みに対する管理（注射、湿布、薬等）」の割合が高い。また、要介護5では「じょくそう（床ずれ）の処置」「経管栄養（胃ろうなど）」の割合も高い。

サンプル数 n=309

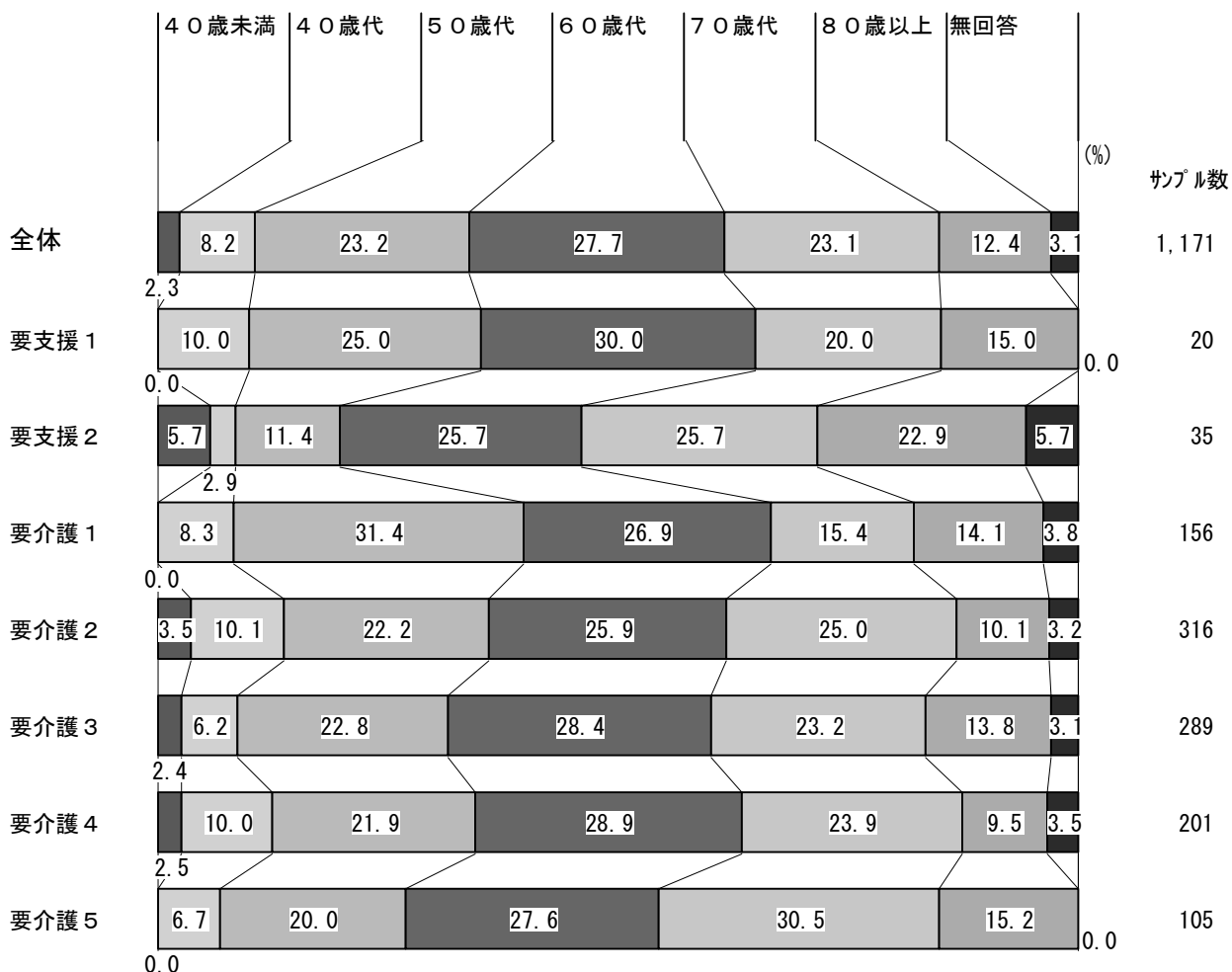


	痛みに対する管理（注射、湿布、薬等）	じょくそう（床ずれ）の処置	経管栄養（胃ろうなど）	酸素療法	導尿の管理（カテーテルなど）	点滴	気管切開の処置	インスリンの自己注射	人工呼吸器	その他	無回答
全体(n=309)	30.1	7.4	6.5	5.8	5.2	4.9	1.9	1.6	1.0	44.0	15.9
要支援1(n=3)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
要支援2(n=10)	40.0	0.0	0.0	10.0	0.0	30.0	10.0	0.0	10.0	20.0	30.0
要介護1(n=19)	31.6	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0	5.3	36.8	31.6
要介護2(n=51)	17.6	3.9	2.0	2.0	2.0	9.8	0.0	3.9	2.0	52.9	21.6
要介護3(n=61)	31.1	1.6	0.0	3.3	4.9	3.3	0.0	1.6	0.0	42.6	18.0
要介護4(n=74)	32.4	9.5	2.7	8.1	6.8	1.4	1.4	0.0	0.0	48.6	12.2
要介護5(n=70)	31.4	18.6	20.0	8.6	10.0	4.3	5.7	2.9	0.0	42.9	5.7



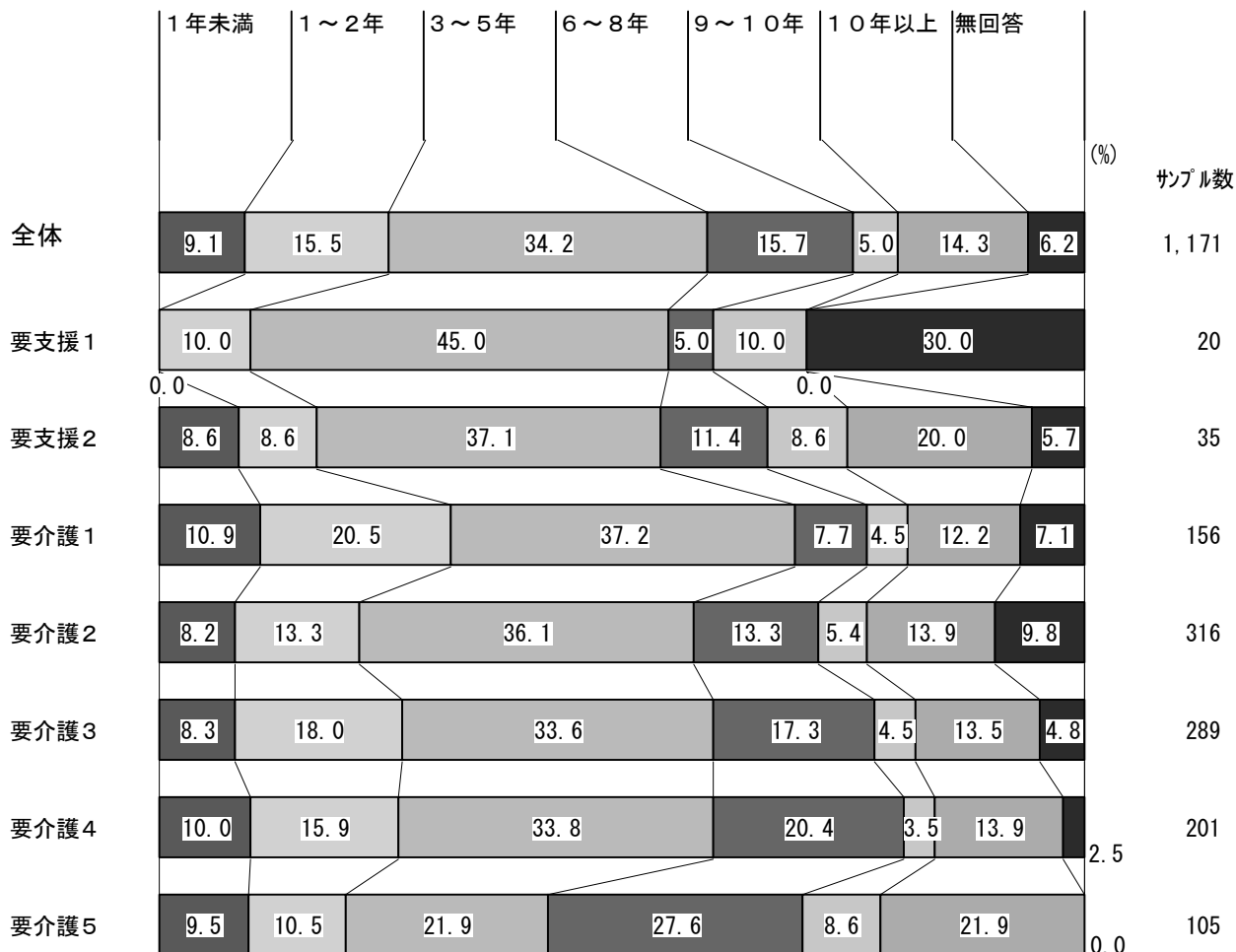
## <又 介護家族の年齢>

家族の介護を受けている人のうち、介護家族の年齢について要介護度別にみると、いずれの要介護度においても60歳以上の割合が5割を超えている。



<ネ 介護年数>

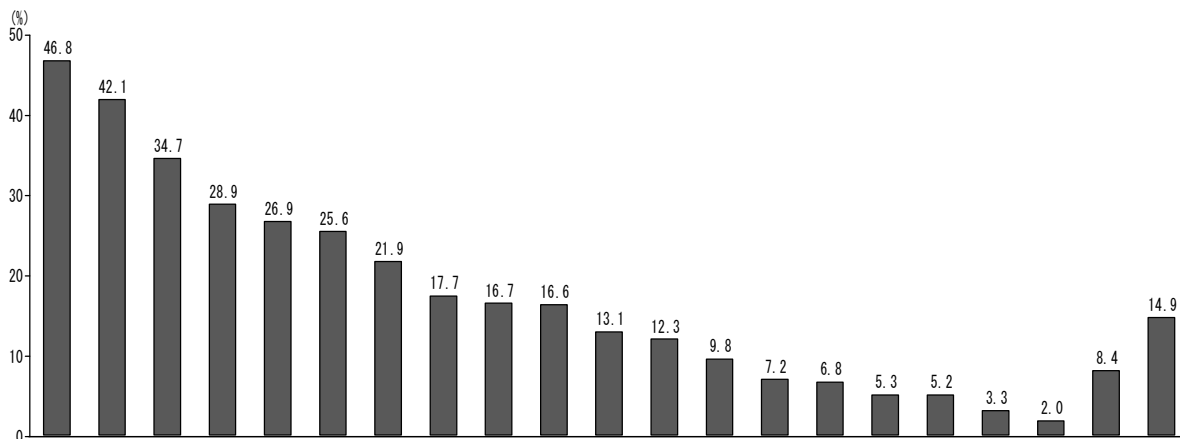
家族の介護年数について、要介護度別にみると、「3～5年」が高い傾向にあるが、要介護5では6年以上の割合が58.1%と他の要介護度に比べて高い。



<ノ 在宅介護で困っている・負担に感じていること>【複数回答】

在宅介護で家族介護者が困っている・負担に感じていることについては、「日中、家を空けるのを不安に感じる」「精神的なストレスがたまっている」の割合が比較的高いが、要介護5の介護者では「自分の自由になる時間が持てない」が最も高い割合を占めている。

サンプル数 n=1,171



	日中、家を空けるのを不安に感じる	精神的なストレスがたまっている	自分の自由になる時間が持てない	自分の用事・都合をすませることができない	身体的につらい(腰痛や肩こりなど)	本人の言動が理解できないことがある	先々のことを考える余裕がない	睡眠時間が不規則になり、健康状態がおもわしくない	本人に正確な症状を伝えるのが難しい	経済的につらいと感じたときがある	来客にも気を遣う	家の構造が介護するのに適していない	家族や親族に介護を協力してもらえない	介護を家族等他の人に任せてよいか、悩むことがある	適切な対応や介護方法がわからない	誰に、何を、どのように相談すればよいか、わからない	本人に受診を勧めても同意してもらえない	サービスを利用したら本人の状態が悪化した	その他	特に困っていることはない	無回答
全体 (n=1,171)	46.8	42.1	34.7	28.9	26.9	25.6	21.9	17.7	16.7	16.6	13.1	12.3	9.8	7.2	6.8	5.3	5.2	3.3	2.0	8.4	14.9
要支援1 (n=20)	25.0	25.0	15.0	15.0	20.0	10.0	15.0	20.0	20.0	15.0	20.0	5.0	5.0	5.0	10.0	5.0	5.0	0.0	10.0	10.0	35.0
要支援2 (n=35)	31.4	25.7	17.1	8.6	20.0	17.1	14.3	5.7	11.4	8.6	2.9	14.3	2.9	2.9	11.4	2.9	5.7	0.0	0.0	11.4	28.6
要介護1 (n=156)	34.6	23.1	17.9	14.1	13.5	20.5	12.8	7.7	15.4	11.5	9.6	12.8	6.4	2.6	7.1	4.5	5.8	1.9	0.0	14.1	21.8
要介護2 (n=316)	44.9	42.1	29.7	28.8	21.2	19.3	17.7	13.0	14.2	13.0	13.0	10.1	10.1	6.6	4.4	4.7	5.4	1.9	2.8	8.2	16.5
要介護3 (n=289)	49.8	46.0	36.3	28.7	27.3	26.3	23.2	19.4	18.3	13.8	12.8	11.1	9.3	8.3	6.9	5.5	5.9	4.2	2.8	8.0	13.8
要介護4 (n=201)	52.7	47.3	43.8	41.3	35.3	31.3	28.9	23.4	17.4	22.9	14.4	15.9	13.9	8.0	8.5	4.5	4.5	4.5	1.5	6.0	11.4
要介護5 (n=105)	56.2	60.0	61.0	40.0	51.4	45.7	32.4	39.0	19.0	31.4	20.0	16.2	11.4	10.5	7.6	5.7	3.8	7.6	1.0	3.8	1.9

#### (4) これから高齢期を迎える方の調査（介護サービス利用者）

##### ①調査結果の概要

《回答者（これから高齢期を迎える方の調査＜介護サービス利用者＞）の状況について》

- ◆ 要介護状態になった原因は、「脳血管疾患」が全体では59.7%（前回59.1%）で、55～59歳で45.5%、60～64歳で66.0%である。

《生活習慣について》

- ◆ 自分の生活習慣についての考え方は、「改善が必要だとは思うが、容易には変えられない」が34.3%、「生活習慣に特に問題はない」が23.2%、「改善が必要だと思い、取り組み・行動を始めている」が19.2%みられる。

《就労・日常生活について》

- ◆ 現在、仕事をしている人は10.1%（前回14.0%）で、「以前」は仕事をしていたが、現在はしていない」が66.7%である。
- ◆ 不安や悩みごとは「健康に自信がない」が47.5%（前回57.0%）で高く、55～59歳で42.3%、60～64歳で53.1%である。

《介護保険について》

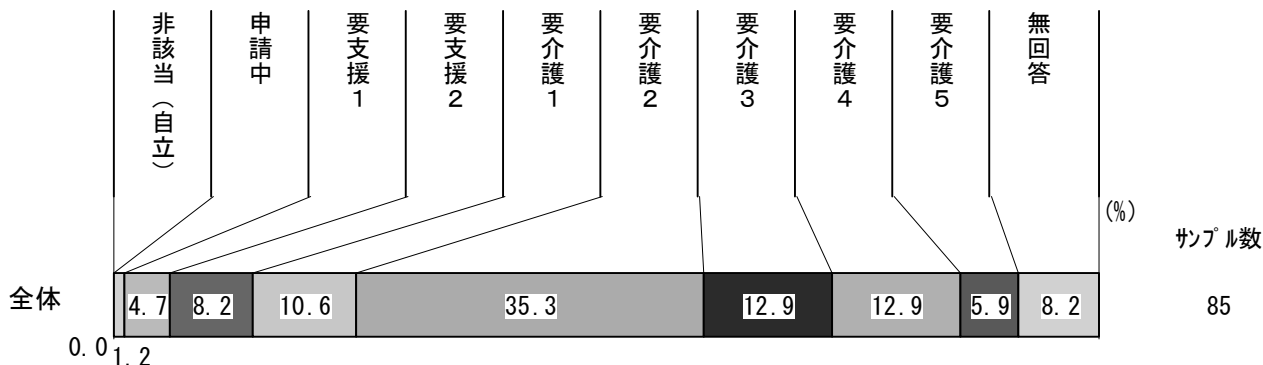
- ◆ 自身の希望する介護は、「自宅で介護保険のサービスを利用しながら暮らしたい」が54.5%で最も高い。
- ◆ 介護保険の相談・苦情先は「担当のケアマネジャー」が45.5%（前回59.1%）で、制度・サービス事業者に関する情報入手先も「担当のケアマネジャー」が55.8%（前回63.4%）である。

## ②調査結果

### ＜ア 要介護度分布＞

55歳～64歳までの、これから高齢期を迎える方で介護サービス利用者について、要介護度分布をみると、要支援1が4.7%、要支援2が8.2%、要介護1が10.6%、要介護2が35.3%、要介護3・4とも12.9%、要介護5が5.9%である。

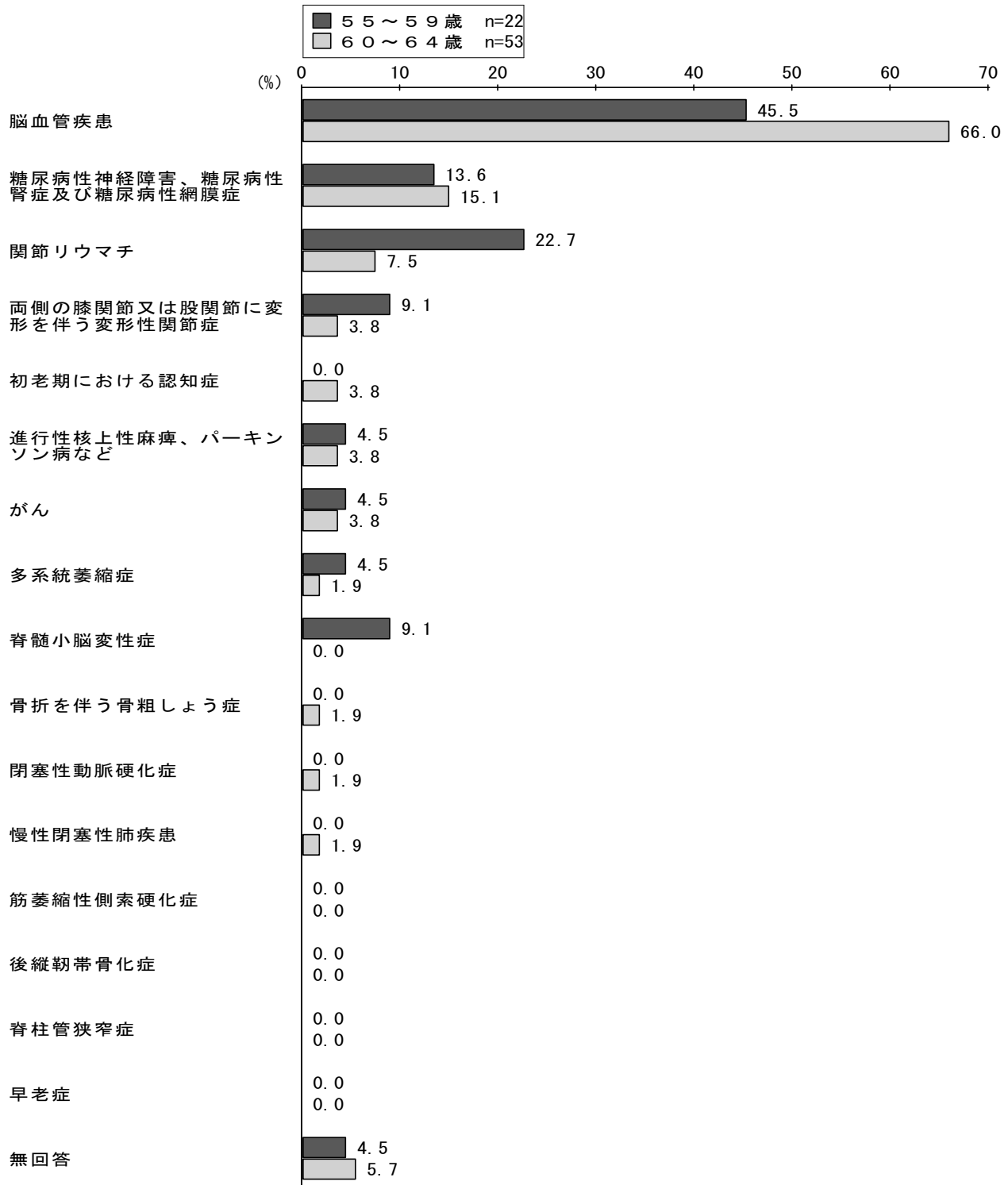
(なお、対象者数全体が少数のため、下表にて回答実数を記載した。)



全体	非該当 (自立)	申請中	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答
人 85	0	1	4	7	9	30	11	11	5	7
% 100.0	0.0	1.2	4.7	8.2	10.6	35.3	12.9	12.9	5.9	8.2

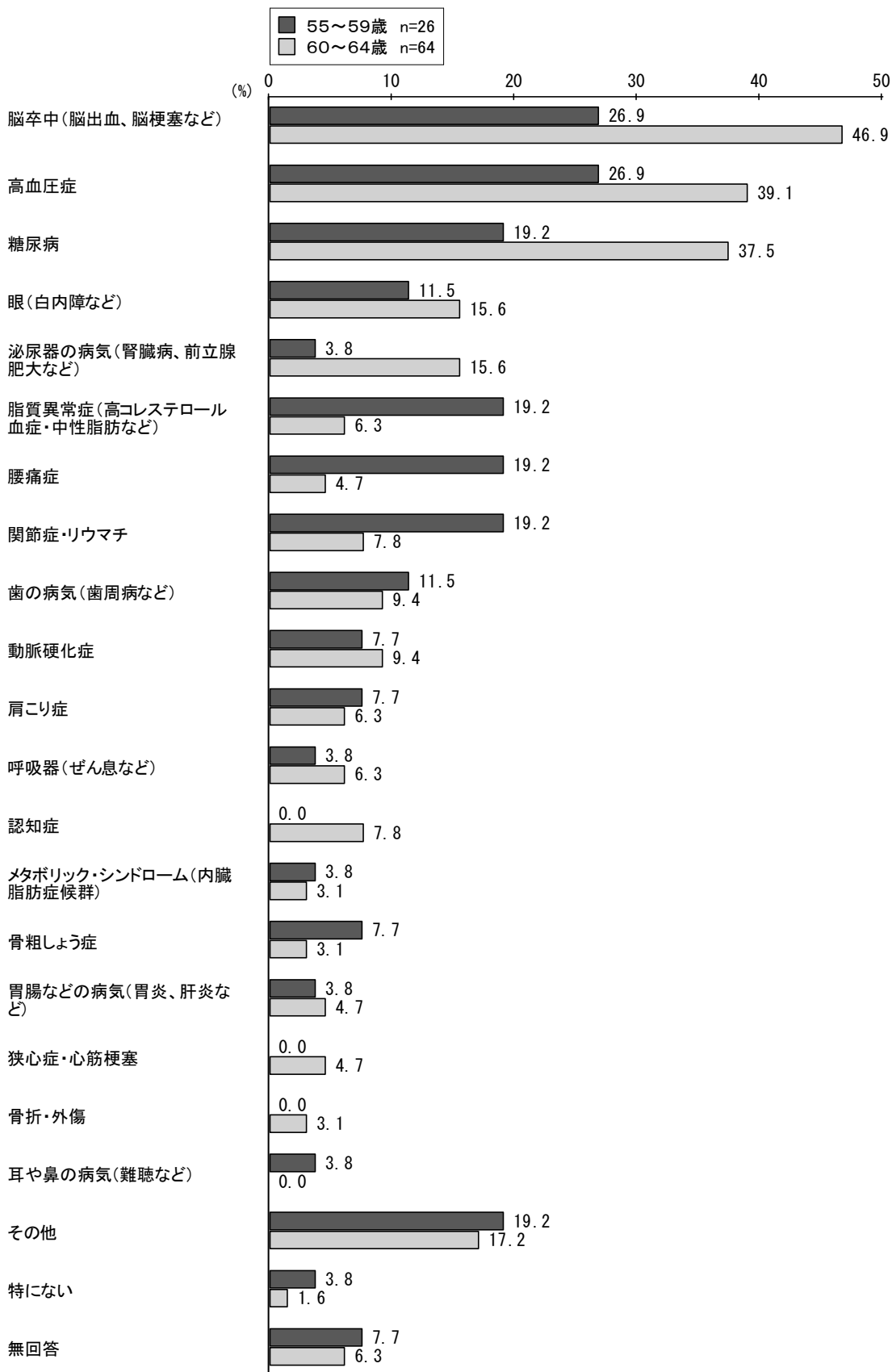
## <イ 要介護状態になった原因>

要介護状態になった原因について、「脳血管疾患」の割合が最も高く、年齢層別にみると、55～59歳で45.5%、60～64歳で66.0%となっている。55～59歳では「関節リウマチ」の割合も22.7%と高い。



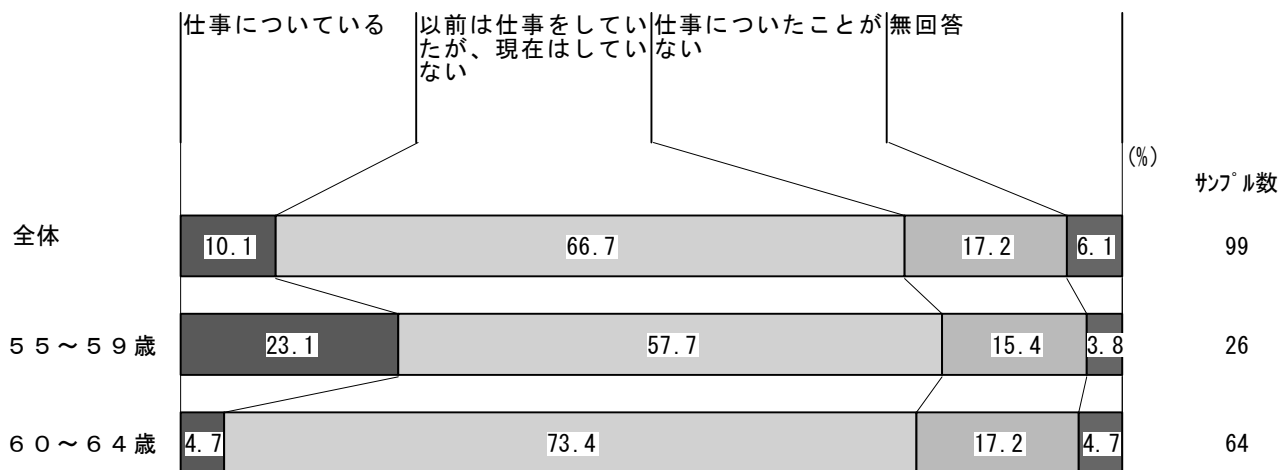
## <ウ 疾病状況>

疾病状況について、年齢層別にみると、どちらの年齢層も「脳卒中（脳出血、脳梗塞など）」、「高血圧症」の割合が高い。



<エ 就労状況>

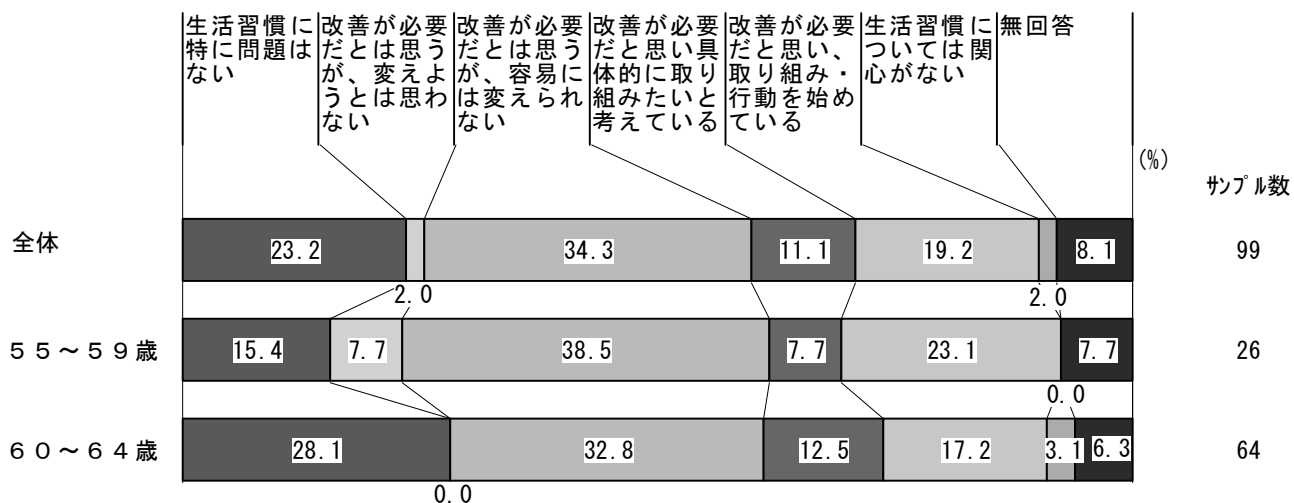
現在の就労状況について、「仕事についている」の割合は55～59歳で23.1%、60～64歳で4.7%である。





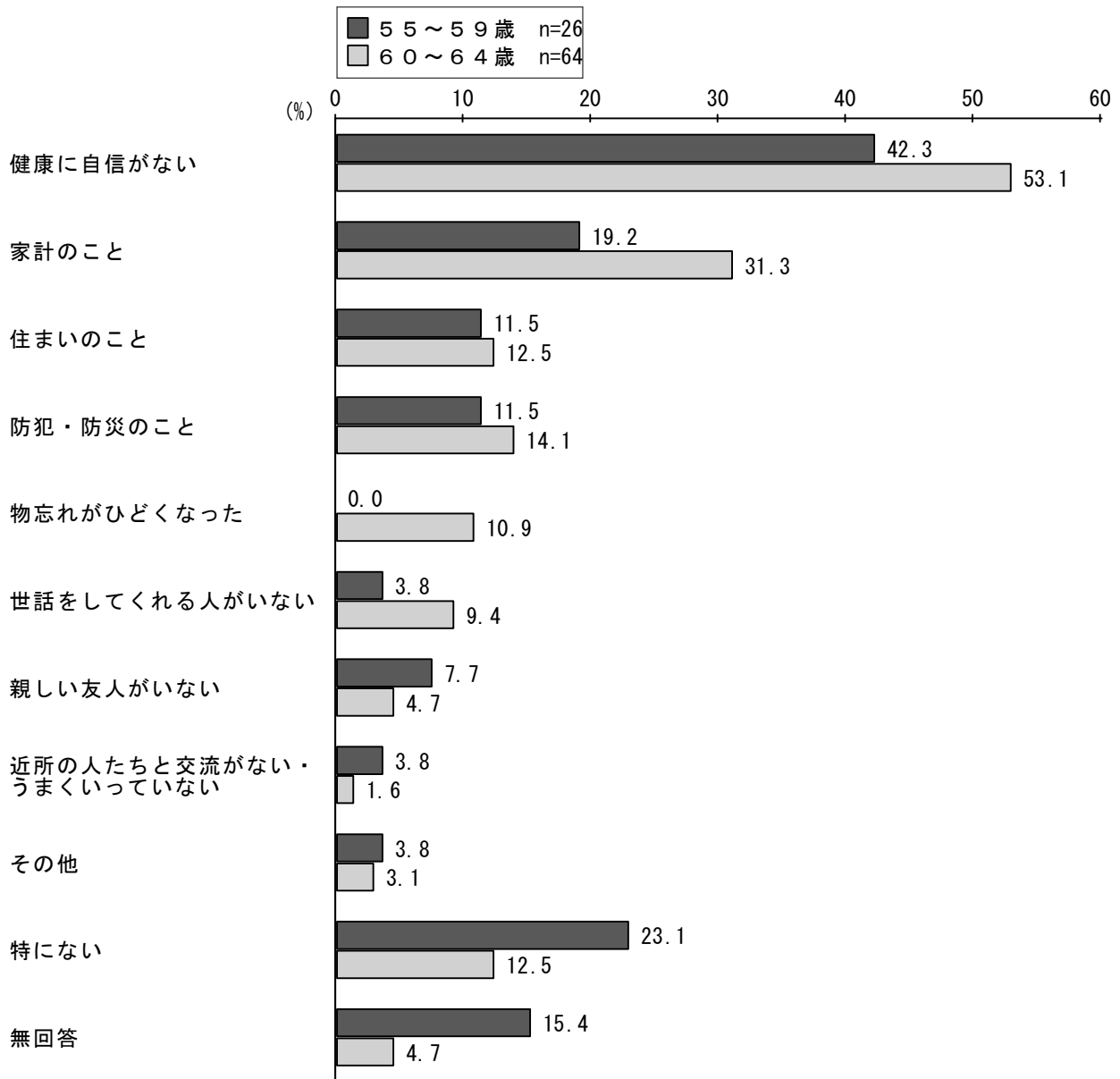
## <オ 生活習慣についての考え方>

生活習慣についての考え方について、年齢層別で見ると、どちらの年齢層も「改善が必要だとは思いますが、容易には変えられない」が最も高い割合を占めている。



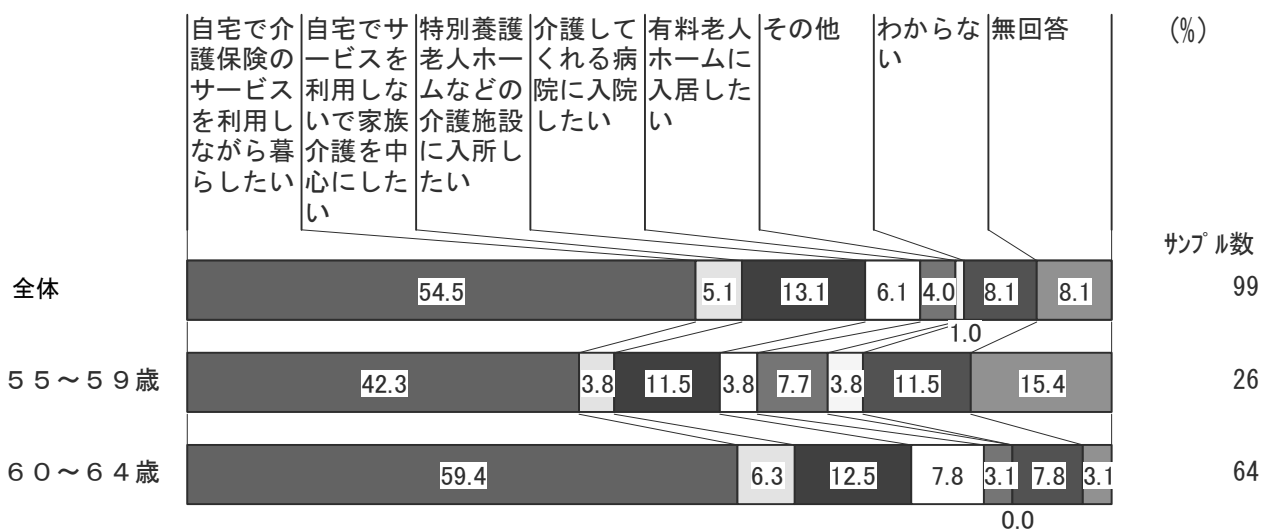
## <カ 日常生活での不安や悩み事>

日常生活での不安や悩み事について、「健康に自信がない」の割合が最も高く、年齢層別にみると55～59歳で42.3%、60～64歳で53.1%となっている。「家計のこと」の割合は60～64歳で31.3%と55～59歳に比べ高い。



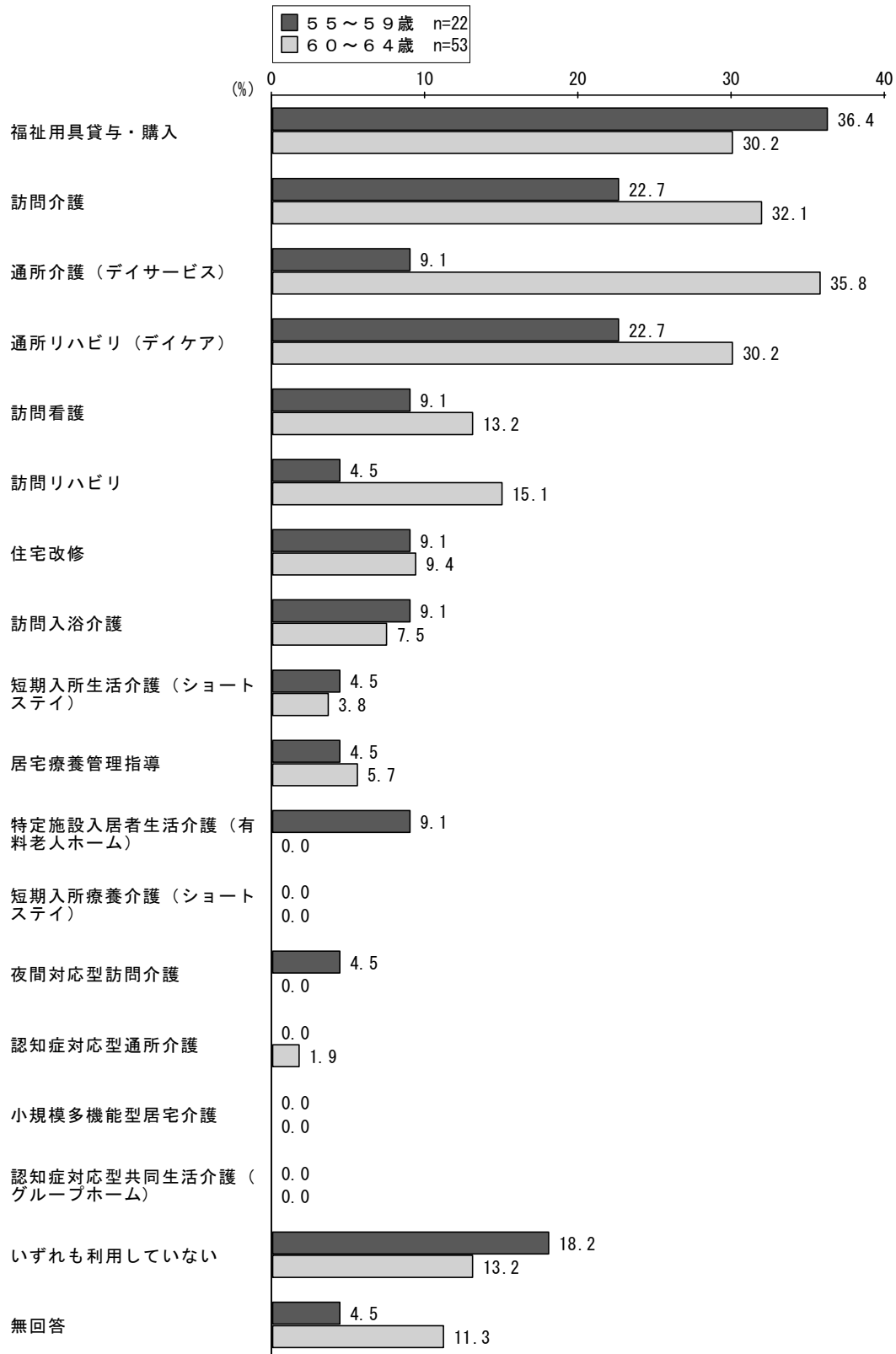
## <キ 自身の希望する介護>

自身の介護が必要となった際に希望する介護について、「自宅で介護保険のサービスを利用しながら暮らしたい」の割合が最も高く、年齢層別にみると、55～59歳で42.3%、60～64歳で59.4%となっている。



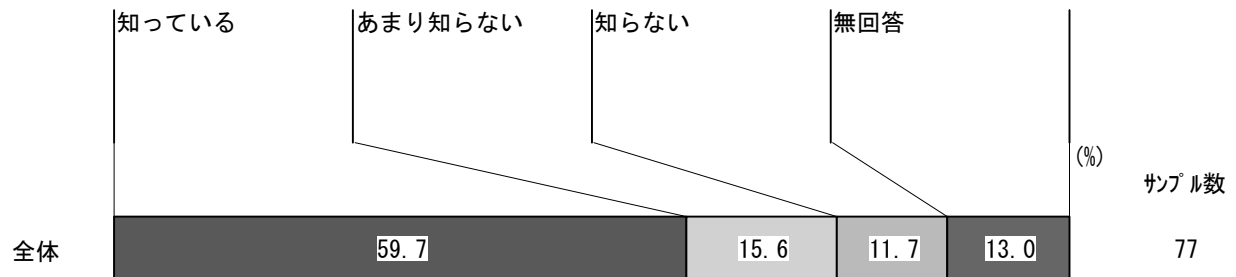
## ＜ク 介護保険サービス利用状況＞

平成19年9月～11月の介護サービスの利用状況について、年齢層別にみると、55～59歳では「福祉用具貸与・購入」の割合が36.4%と最も高く、60～64歳では「通所介護（デイサービス）」の割合が35.8%と最も高い。



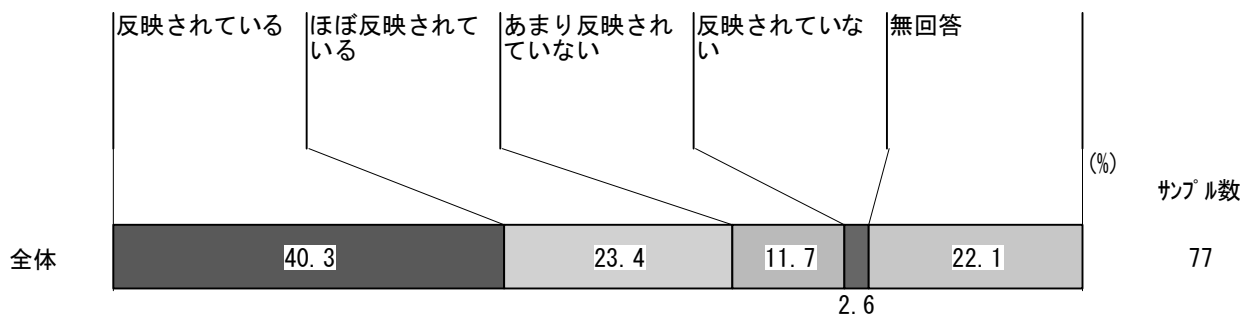
## <ケ 自身のケアプラン認知状況>

自身のケアプランについては、「知っている」は59.7%である。



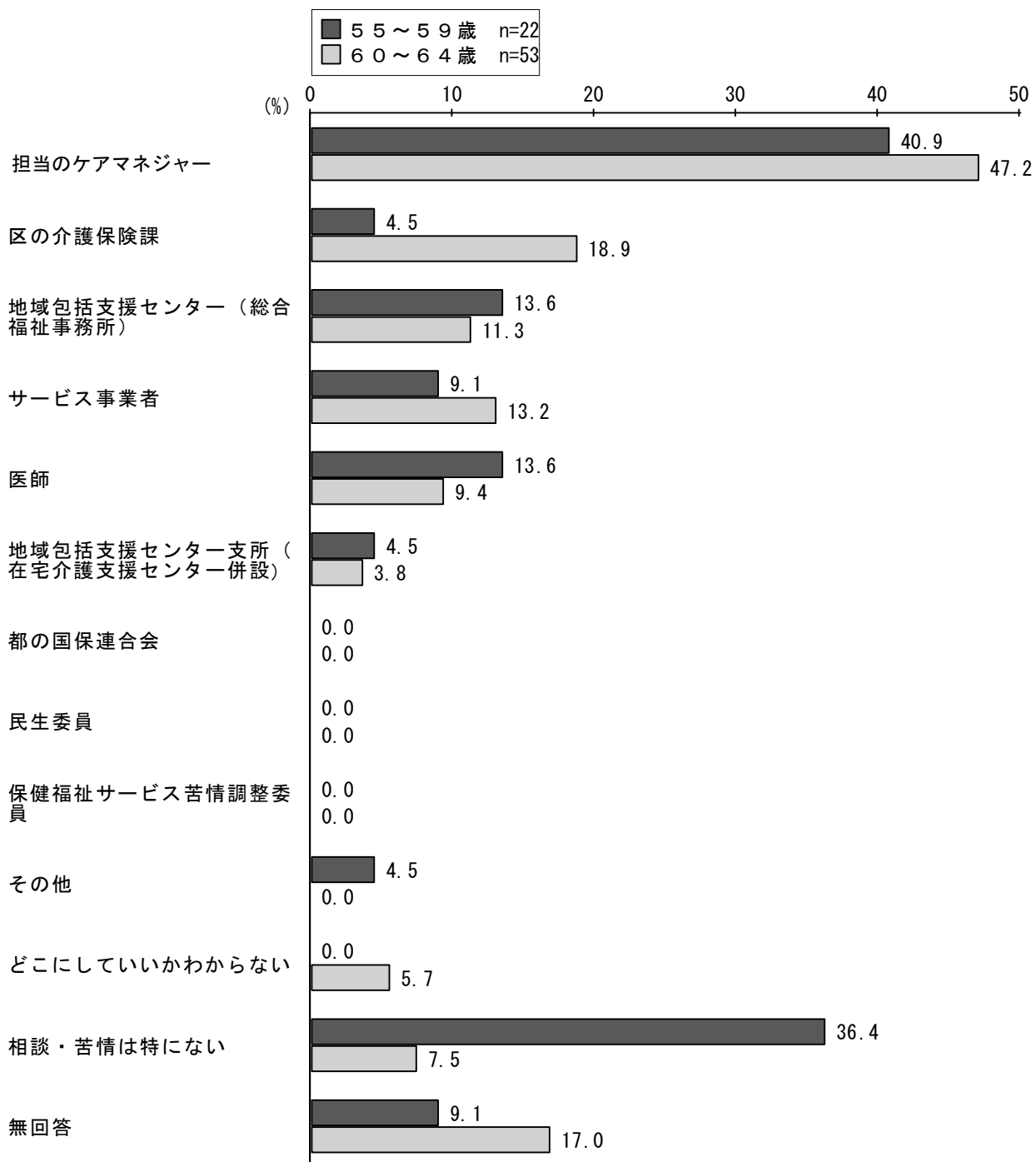
## <コ ケアプランへの家族意見の反映>

ケアプランへの家族意見の反映については、「反映されている」「ほぼ反映されている」を合わせると、63.7%が反映されている、としている。



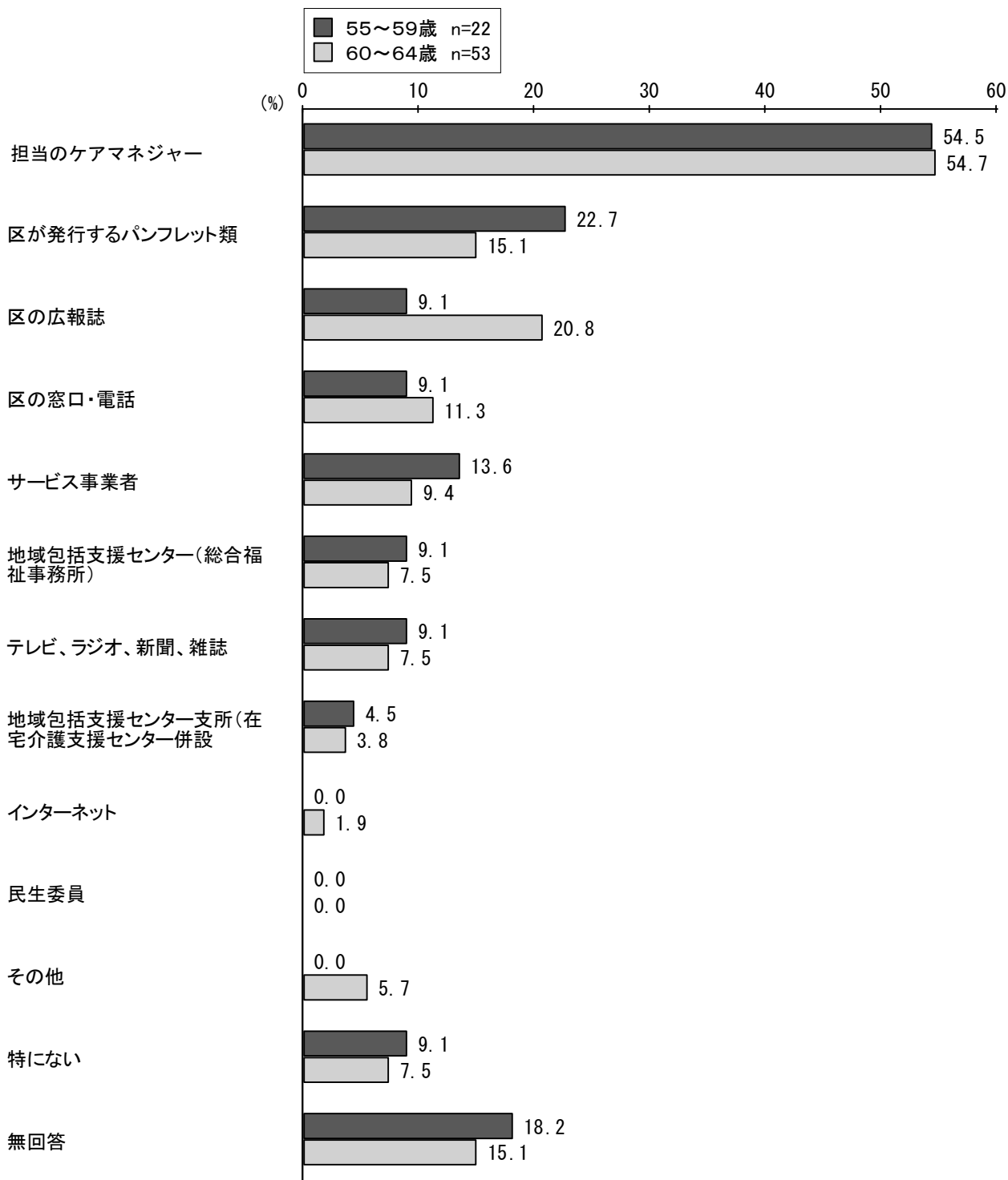
## <サ 介護保険に関する相談・苦情先>

介護保険に関する相談・苦情先について、「担当のケアマネジャー」の割合が最も高い。また、55～59歳では「相談・苦情は特にない」の割合も36.4%と高い。



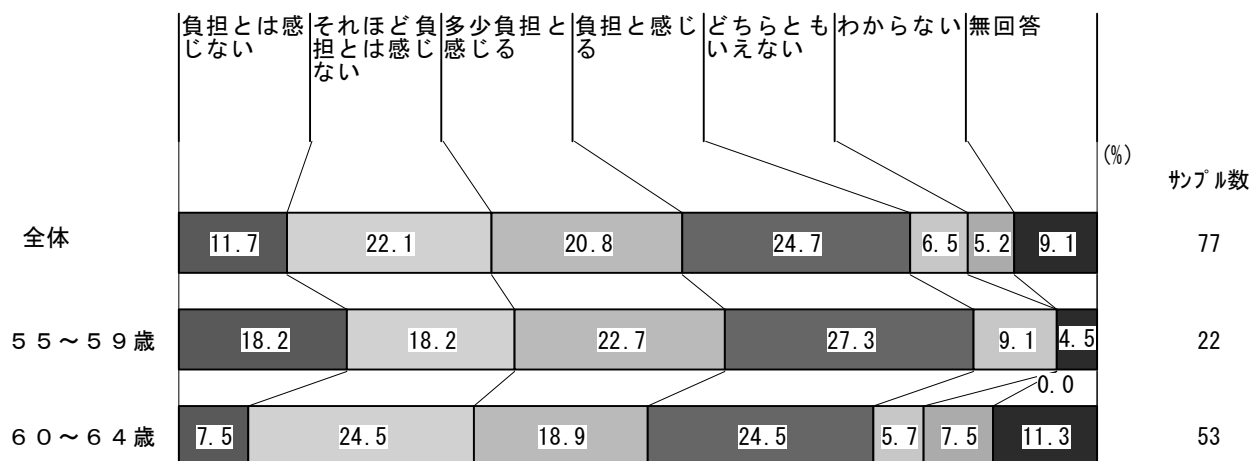
## <シ 介護保険制度やサービス事業者等に関する情報源>

介護保険制度やサービス事業者等に関する情報源について、「担当のケアマネジャー」の割合が最も高い。また、55～59歳では「区が発行するパンフレット類」の割合が22.7%、60～64歳では「区の広報誌」の割合が20.8%となっている。



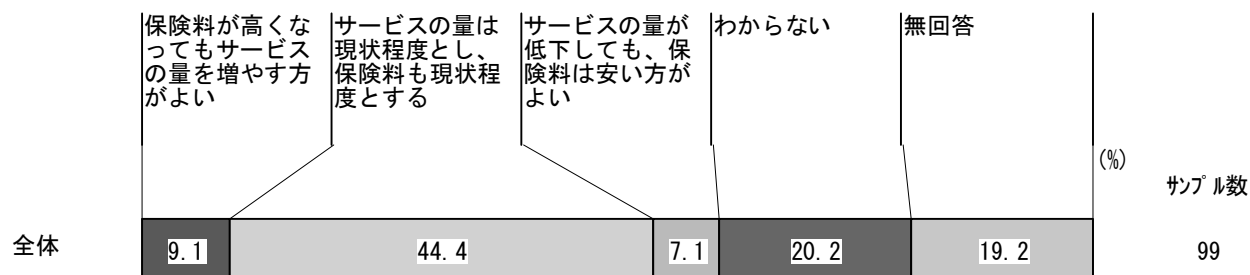
### <ス 介護サービス利用料 1割負担についての負担感>

介護サービス利用料の1割負担についての負担感は、年齢層別にみると、55～59歳で『負担と感じる』（「多少負担と感じる」と「負担と感じる」の合計）の割合が60～64歳より高い。



### <セ 介護保険料とサービス関係>

介護保険料とサービスの関係については、「サービスの量は現状程度とし、保険料も現状程度とする」が44.4%で最も高い。





## (5) 介護サービス未利用者調査（要介護認定者）

### ①調査結果の概要

#### 《回答者（介護サービス未利用者）の状況について》

- ◆ 世帯構成については、単身（ひとりぐらし）世帯が22.5%（前回15.9%）、夫婦のみの世帯は33.4%（前回40.4%）であり、単身（ひとりぐらし）世帯の割合が前回より高い。
- ◆ 単身（ひとりぐらし）世帯で不安なことでは、「健康面」が53.7%で最も高い。

#### 《介護サービス未利用の理由について》

- ◆ 介護サービス未利用の理由は、「自分で身の回りのことをするように努力している」が56.7%で、うち要支援2では73.0%と特に高い。次いで「家族等の介護がある」は31.6%みられ、うち要介護2では53.2%、要介護3では45.7%と高い。一方、「病院や診療所に入院中」は全体では13.2%と低いが、要介護5では91.7%に達する。

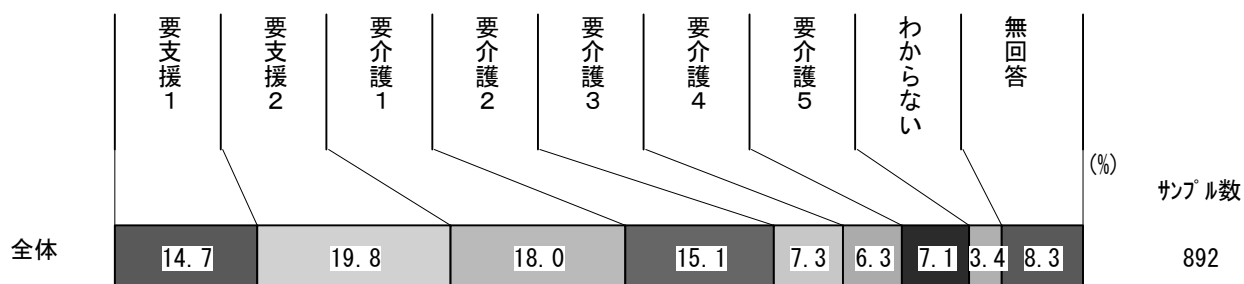
#### 《ふだんの生活での見守りにについて》

- ◆ ふだんの生活での見守りが必要なことでは、「簡単な健康状態のチェックを受ける」が33.4%、「定期的に電話をもらう（安否の確認など）」が19.5%で、単身（ひとりぐらし）世帯の未利用者では「定期的に電話をもらう」が33.3%と高い。

## ②調査結果

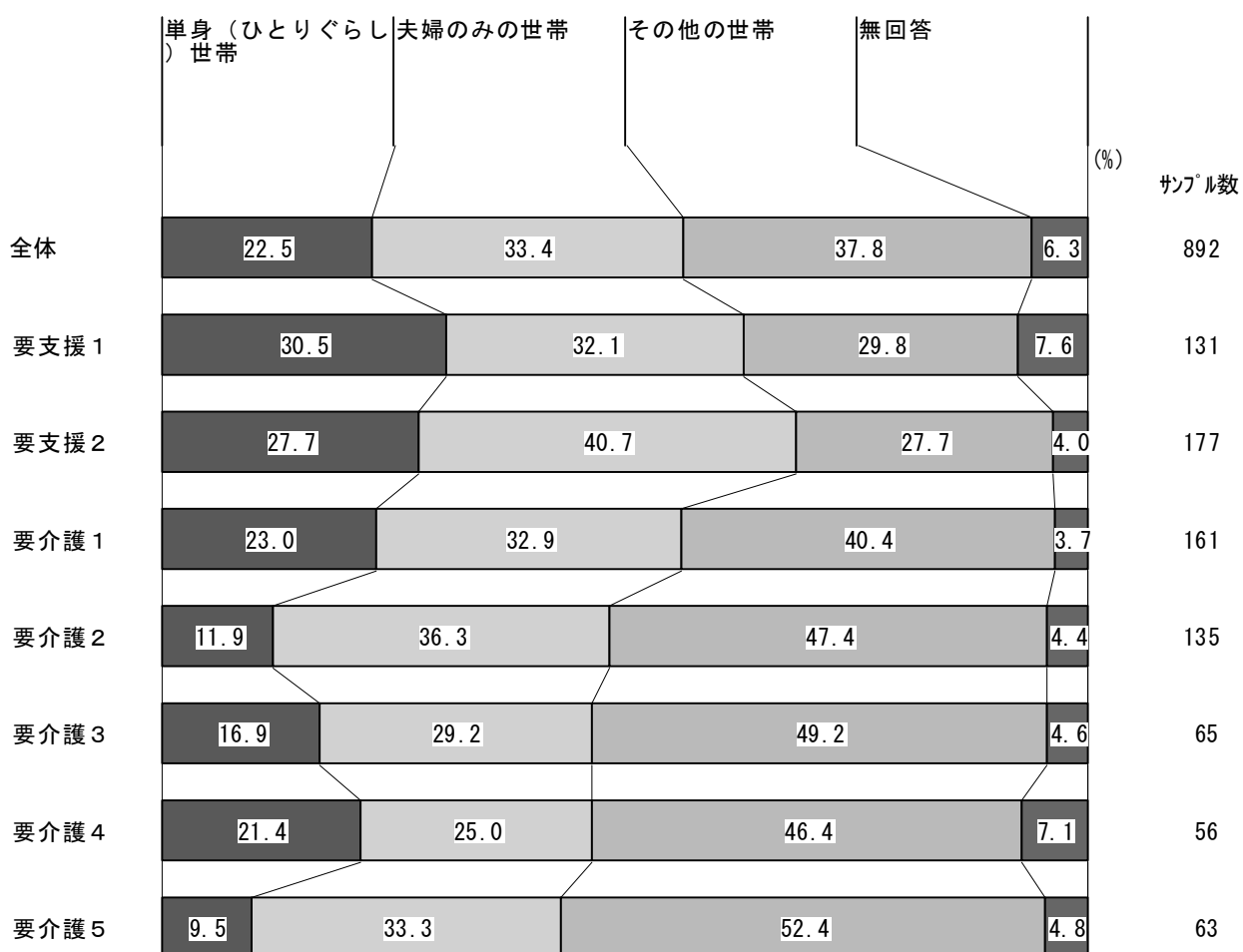
### <ア 要介護度分布>

介護サービス未利用者の要介護度分布をみると、要支援1・2合わせて34.5%を占める。以下、要介護1が18.0%、要介護2が15.1%、要介護3が7.3%、要介護4が6.3%、要介護5が7.1%である。



### <イ 世帯構成>

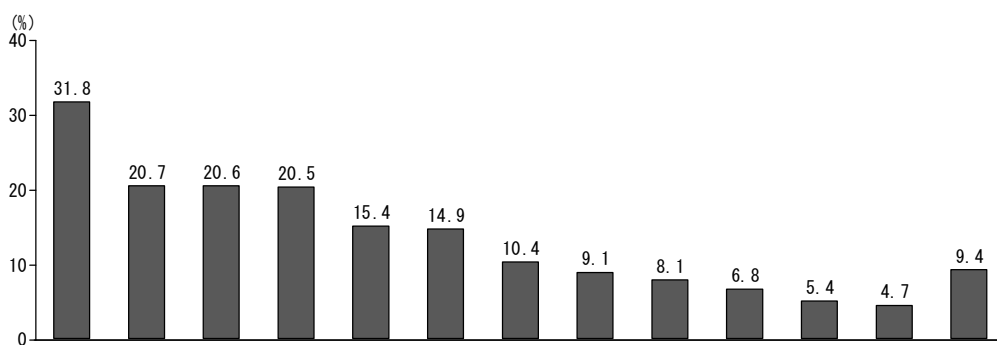
世帯構成について、要介護度別にみると、要介護1以上では「その他の世帯」の割合が最も高く、要支援1、要支援2では「夫婦のみの世帯」の割合が最も高い。



## ＜ウ 要介護認定の申請をした理由＞

要介護認定の申請をした理由について、要介護度別にみると、要介護3以上で「身の回りの行為が困難になってきたから」の割合が高い。要支援1、要支援2では「とりあえず、自分の要介護度を知りたく、申請した」の割合も比較的高い。

サンプル数 n=892

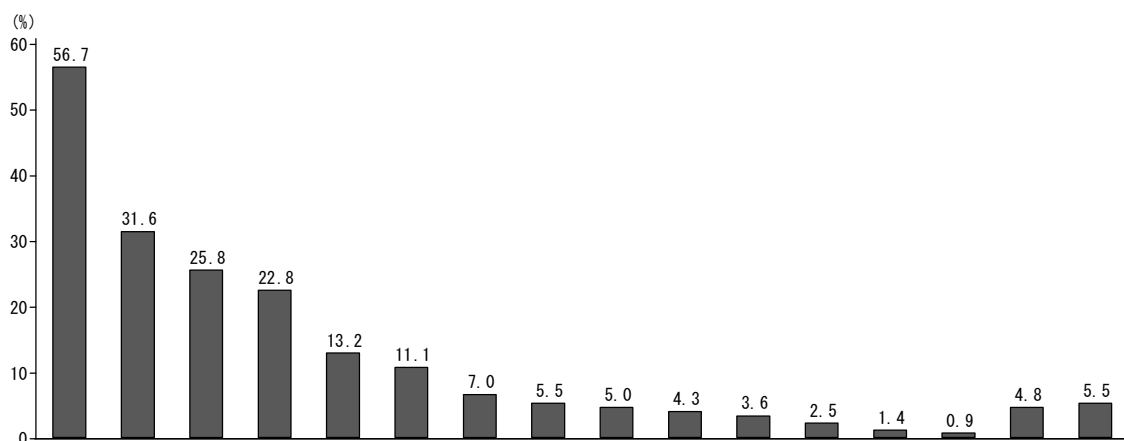


	必要時にサービスを受けるため、事前に認定申請した	家事・調理、洗濯、掃除等が負担になってきたから	身の回りの行為が困難になってきたから	医師、看護師から勧められた	買い物や外出が負担になってきたから	家族に勧められた	とりあえず、自分の要介護度を知りたく、申請した	通院等に手助けがほしくなってきたから	友人・知人などに勧められた	住宅改修または福祉用具購入のみ利用するから	介護保険の施設入所を希望しているから	その他	無回答
全体(n=892)	31.8	20.7	20.6	20.5	15.4	14.9	10.4	9.1	8.1	6.8	5.4	4.7	9.4
要支援1(n=131)	31.3	24.4	13.7	19.1	16.8	13.0	17.6	9.2	9.9	5.3	0.8	4.6	6.1
要支援2(n=177)	35.0	27.1	15.3	14.1	17.5	12.4	14.7	7.9	9.6	8.5	3.4	2.8	6.8
要介護1(n=161)	38.5	24.8	19.9	23.0	24.2	19.3	7.5	11.8	7.5	8.1	3.1	5.0	3.1
要介護2(n=135)	40.0	15.6	18.5	27.4	13.3	22.2	7.4	10.4	6.7	8.1	2.2	5.9	4.4
要介護3(n=65)	33.8	10.8	38.5	20.0	13.8	13.8	3.1	15.4	7.7	10.8	10.8	4.6	7.7
要介護4(n=56)	21.4	21.4	48.2	21.4	10.7	10.7	5.4	10.7	10.7	1.8	12.5	3.6	10.7
要介護5(n=63)	22.2	4.8	33.3	31.7	1.6	6.3	1.6	3.2	6.3	3.2	25.4	9.5	12.7

## <エ 介護サービスを利用しなかった理由>

平成19年9月～11月の間に介護サービスを利用しなかった理由について、要介護度別で見ると、要支援1・2、要介護1～3では「自分で身の回りのことをするように努力している」、「家族等の介護がある」が高い割合を占めている。要介護4以上では「病院や診療所に入院中」の割合が高い。

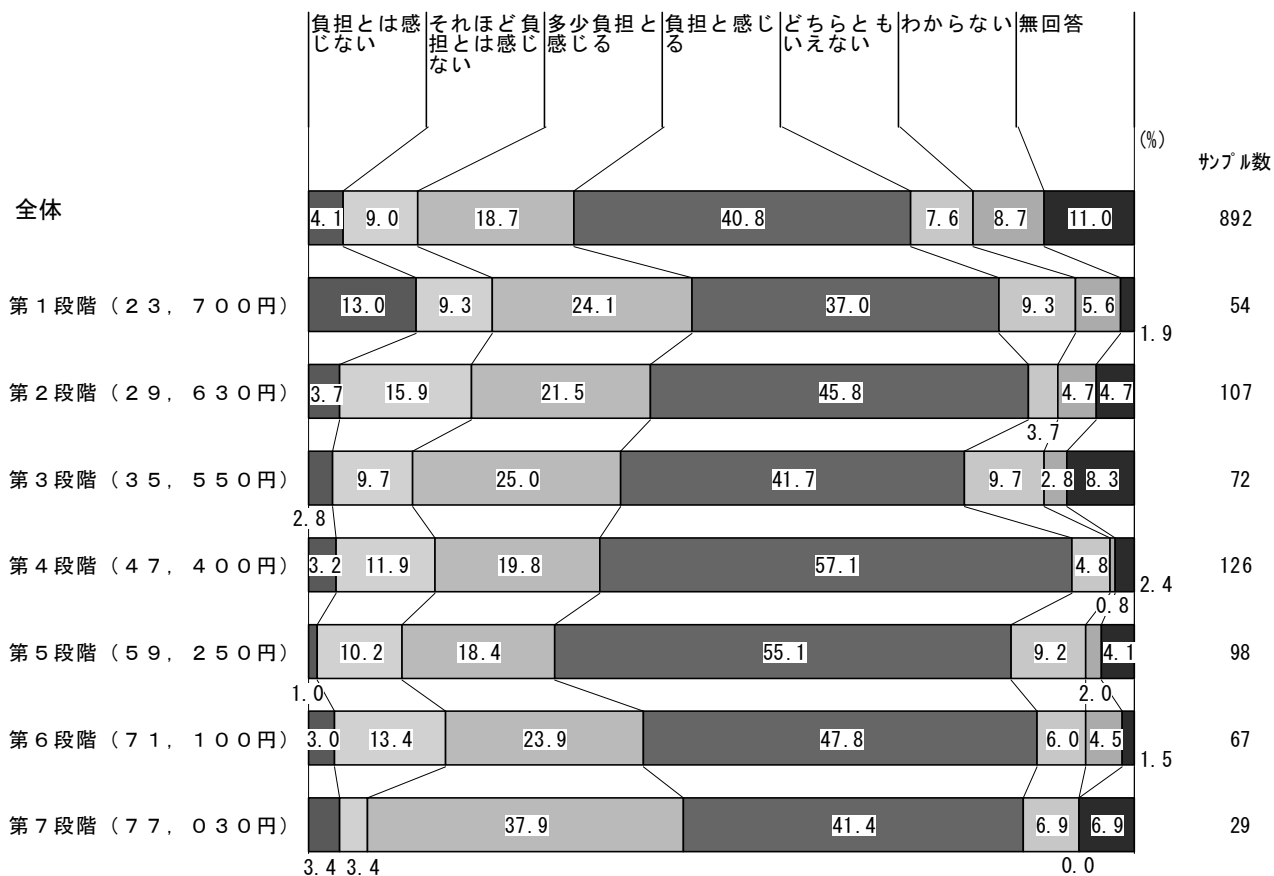
サンプル数 n=561



	自分で身の回りのことをするように努力している	家族等の介護がある	できるだけ他人の世話になりたくない	介護保険サービスを使うほど具合が悪くない	病院や診療所に入院中	他人に家に入られるのに抵抗がある	介護保険サービスの使い方がよくわからない	使いたい介護保険サービスがない	介護保険サービスを使うのに料金が高い	介護保険サービスを使うのに利用しようとしたが、事業者から断られた	介護保険制度に不信感を持っている	介護保険外サービスを使っている	介護保険事業に不満があった	近くに介護保険事業者がない	その他	無回答
全体(n=561)	56.7	31.6	25.8	22.8	13.2	11.1	7.0	5.5	5.0	4.3	3.6	2.5	1.4	0.9	4.8	5.5
要支援1(n=93)	68.8	29.0	26.9	37.6	0.0	6.5	8.6	3.2	3.2	7.5	2.2	3.2	0.0	0.0	4.3	5.4
要支援2(n=122)	73.0	30.3	36.1	23.0	2.5	13.9	9.0	5.7	6.6	4.9	5.7	3.3	1.6	0.8	4.1	2.5
要介護1(n=95)	66.3	35.8	34.7	24.2	5.3	17.9	6.3	4.2	5.3	7.4	4.2	5.3	1.1	1.1	4.2	7.4
要介護2(n=79)	45.6	53.2	20.3	16.5	5.1	7.6	6.3	10.1	5.1	0.0	2.5	0.0	2.5	0.0	6.3	12.7
要介護3(n=35)	40.0	45.7	17.1	8.6	31.4	11.4	2.9	2.9	2.9	2.9	0.0	0.0	2.9	2.9	5.7	2.9
要介護4(n=26)	7.7	26.9	0.0	3.8	50.0	19.2	3.8	11.5	3.8	3.8	7.7	3.8	3.8	0.0	11.5	0.0
要介護5(n=36)	2.8	5.6	2.8	2.8	91.7	2.8	0.0	2.8	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0

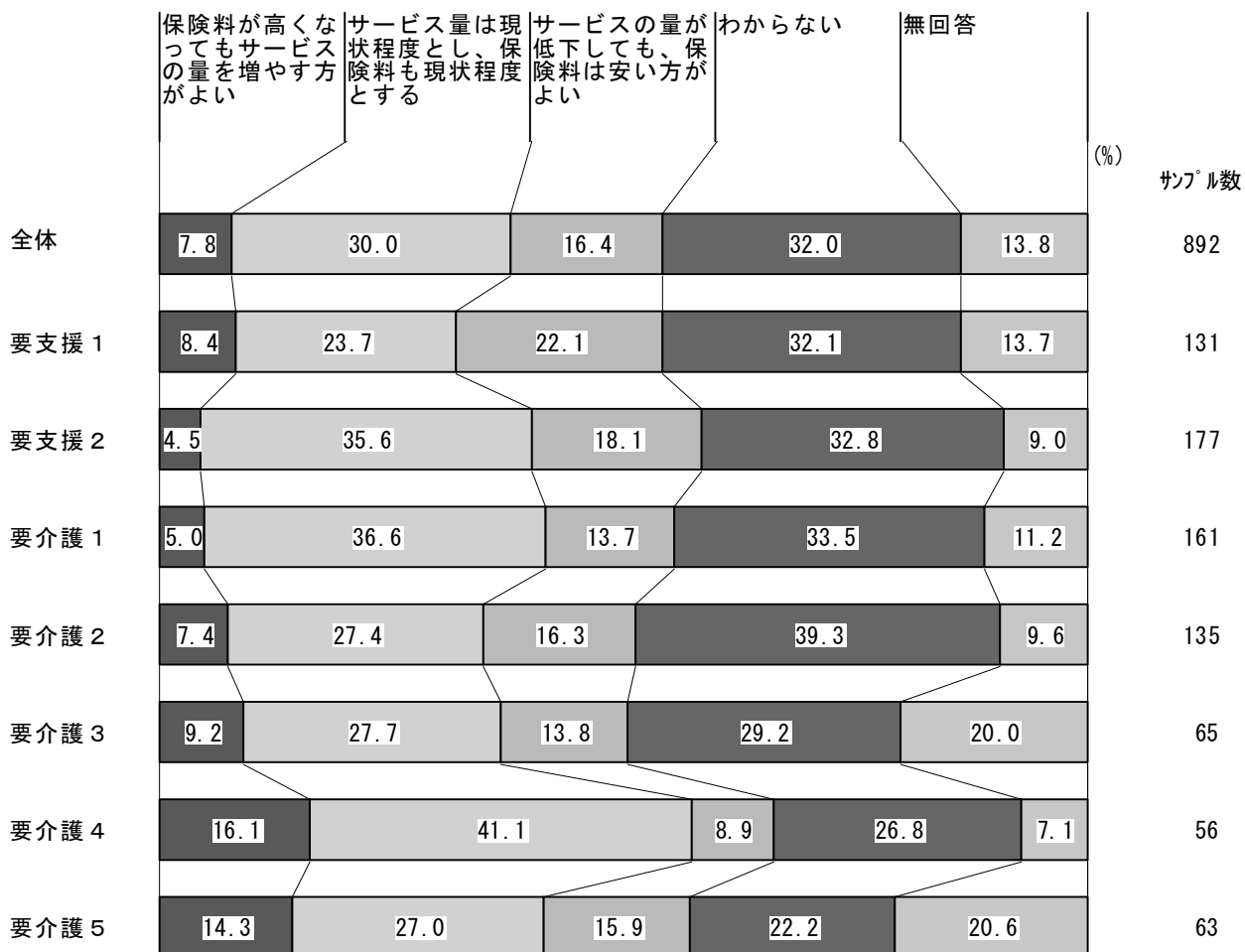
## <オ 介護保険料の負担感>

介護保険料の負担感について、保険料別にみると、どの保険料段階においても『負担を感じる』（「多少負担と感じる」、「負担を感じる」の合計）の割合が高い。



## <カ 介護保険料とサービスの関係>

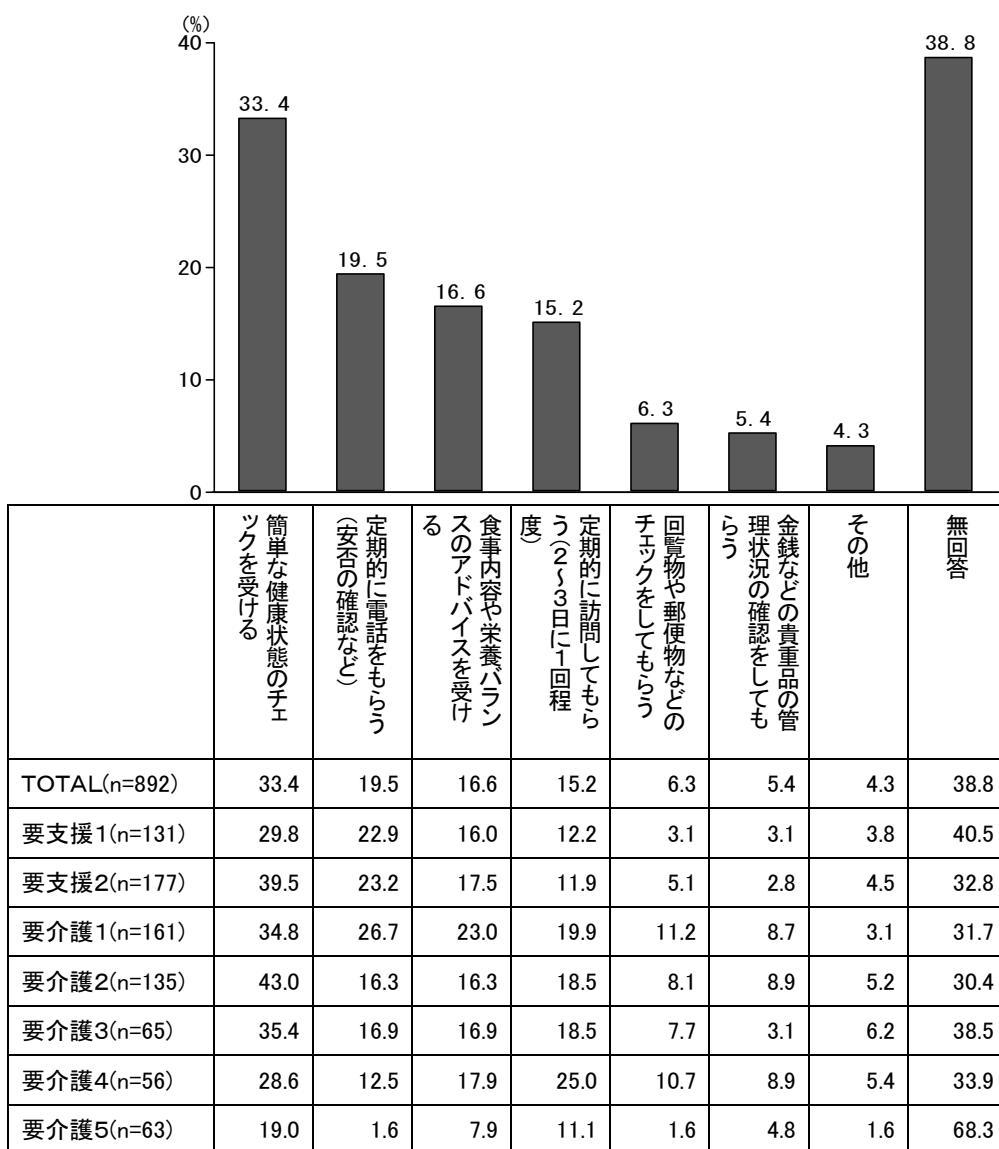
介護保険料とサービスの関係については、「サービス量は現状程度とし、保険料も現状程度とする」が高い割合を占めている一方で、「わからない」も比較的高い。



## <キ ふだんの生活に必要な見守り>

ふだんの生活に必要な見守りについて、要介護度別にみると、要支援2～要介護3では「簡単な健康状態のチェックを受ける」が3～4割である。また、要介護1では、「定期的に電話をもらう（安否の確認など）」が26.7%、「食事内容や栄養バランスのアドバイスを受ける」が23.0%と高い。さらに要介護4では「定期的に訪問してもらう（2～3日に1回程度）」が25.0%と高い。

サンプル数 n=892



## (6) 介護サービス事業所調査

### ①調査結果の概要

《地域密着型サービスについて》：居宅介護支援事業所（136 事業所）が回答

- ◆ 今後更なる整備が必要と思われる地域密着型サービスは、「認知症対応型通所介護」が 37.5%、「夜間対応型訪問介護」が 32.4%の順となっている。

《介護保険施設の入退所の状況について》

- ◆ 入所者の入所期間別の平均人員は、「1 年未満」が 31.3 人、「1～3 年未満」が 17.7 人、「3～5 年未満」が 10.0 人、「5 年以上」が 14.5 人である。
- ◆ 過去 1 年間に介護度の悪化した人数は施設全体で 7.0 人である。内訳では、要介護 4 からの悪化が 2.4 人と最も多い。
- ◆ 介護保険施設、特定施設（入居者生活介護事業所）からの主な退所理由は、「利用者本人の死亡」が 50.0%（20 件）、「他の医療機関に転院」が 40.0%（16 件）である。

《サービス評価について》

- ◆ サービス評価を受審している事業所は 29.5%（81 件）である。
- ◆ 受審している評価方式は、「東京都福祉サービス評価機構」によるものが 85.2%（69 件）である。

《在宅生活継続の条件について》

- ◆ 要介護者が在宅生活を継続する上で必要な条件として、「介護者の身体的負担軽減」が 72.4%で最も高く、以下、「往診可能なかかりつけ医の存在」が 58.2%、「利用者本人の自立生活志向を高める支援」が 52.0%、「地域保健福祉関係機関や人材等の地域資源との連携」が 50.2%と続いている。

《事業運営上の課題について》

- ◆ 今後の事業運営上の課題としては、「介護報酬が低い」が 59.6%で最も高く、以下、「スタッフの確保」（47.3%）、「スタッフの人材育成」（32.4%）、「設備・スタッフ等が不足し量的ニーズに答えられない」（29.5%）と続き、人材の確保と育成についての課題が大きい。

《制度改正の影響について》

- ◆ 平成 18 年 4 月の制度改正以降、利用者からの苦情では「サービス利用時間が短くなった」が 38.2%、「サービスが利用できなくなった」が 36.4%である。
- ◆ 事業所側の改正の影響については、60.0%が「課題が残っている」としており、具体的な課題として「事務作業量の増加」が 66.7%で最も高く、以下、「報酬単価の減少」が 61.8%、「予防と介護の区分の不合理性」が 56.4%となっている。



## ②調査結果

### ＜ア 実施サービス＞

現在実施しているサービスは、「居宅介護支援」が136件(49.5%)で最も多く、次いで「訪問介護」が111件(40.4%)である。

【複数回答】

サンプル数 n=275(事業所)

	実施サービスの種類	実施サービス		主たるサービス	
		件	(%)	件	(%)
1	居宅介護支援	136	49.5	48	17.5
2	介護予防支援	89	32.4	0	0.0
3	訪問介護	111	40.4	75	27.3
4	介護予防訪問介護	92	33.5	1	0.4
5	訪問入浴介護	3	1.1	0	0.0
6	介護予防訪問入浴介護	1	0.4	0	0.0
7	訪問看護	31	11.3	20	7.3
8	介護予防訪問看護	16	5.8	0	0.0
9	訪問リハビリテーション	3	1.1	0	0.0
10	介護予防訪問リハビリテーション	1	0.4	0	0.0
11	居宅療養管理指導	4	1.5	1	0.4
12	介護予防居宅療養管理指導	4	1.5	0	0.0
13	通所介護	66	24.0	33	12.0
14	介護予防通所介護	56	20.4	1	0.4
15	通所リハビリテーション	7	2.5	3	1.1
16	介護予防通所リハビリテーション	6	2.2	0	0.0
17	短期入所生活介護	25	9.1	0	0.0
18	介護予防短期入所生活介護	22	8.0	0	0.0
19	短期入所療養介護	5	1.8	0	0.0
20	介護予防短期入所療養介護	4	1.5	0	0.0
21	福祉用具貸与、介護予防福祉用具貸与	21	7.6	3	1.1
22	特定福祉用具販売、特定介護予防福祉用具販売	14	5.1	0	0.0
23	住宅改修、介護予防住宅改修	10	3.6	2	0.7
24	特定施設入居者生活介護	9	3.3	7	2.5
25	介護予防特定施設入居者生活介護	6	2.2	0	0.0
26	夜間対応型訪問介護	0	0.0	0	0.0
27	認知症対応型通所介護	16	5.8	2	0.7
28	介護予防認知症対応型通所介護	12	4.4	0	0.0
29	小規模多機能型居宅介護	6	2.2	0	0.0
30	介護予防小規模多機能型居宅介護	3	1.1	0	0.0
31	認知症対応型共同生活介護	10	3.6	6	2.2
32	介護予防認知症対応型共同生活介護	5	1.8	0	0.0
33	地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0.0	0	0.0
34	介護老人福祉施設	23	8.4	14	5.1
35	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0.0	0	0.0
36	介護老人保健施設	6	2.2	5	1.8
37	介護療養型医療施設	2	0.7	2	0.7
38	無回答	4	1.5	52	18.9

<イ 今後実施予定のサービス> 【複数回答】

今後実施予定のサービスとしては、「居宅介護支援」が13件(4.7%)、「介護予防支援」が7件(2.5%)、「通所介護」が7件(2.5%)である。また、無回答が90.5%である。

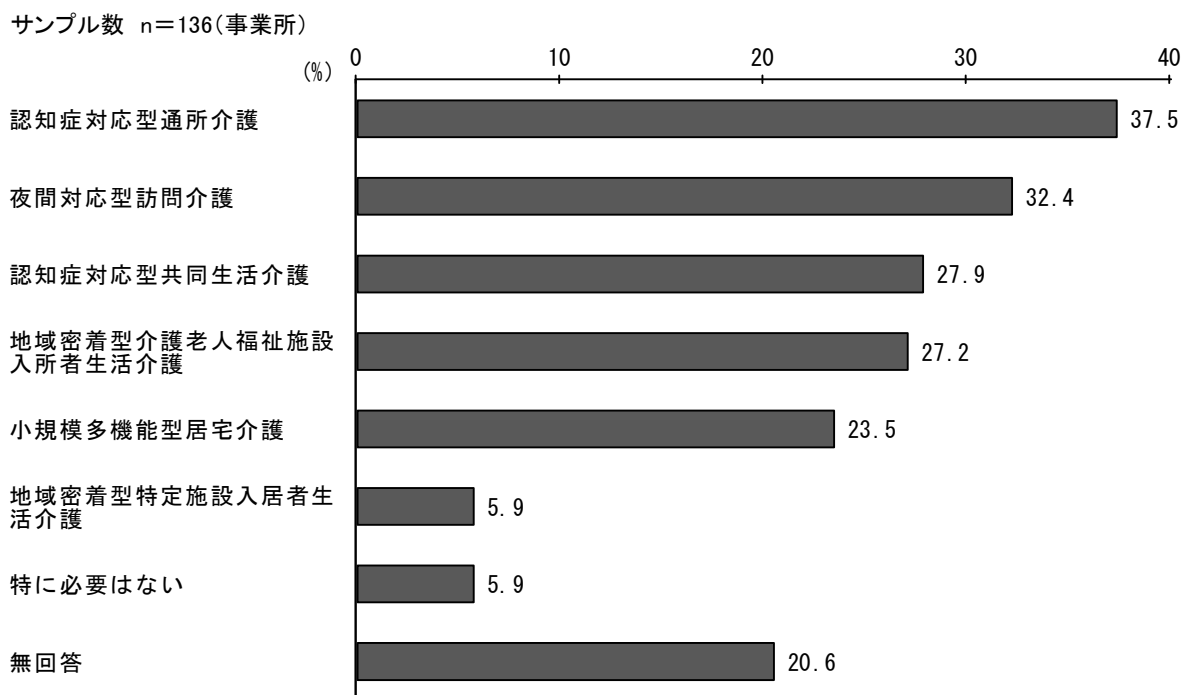
サンプル数 n=275(事業所)

	実施予定サービスの種類	予定サービス	
		件	(%)
1	居宅介護支援	13	4.7
2	介護予防支援	7	2.5
3	訪問介護	2	0.7
4	介護予防訪問介護	2	0.7
5	訪問入浴介護	0	0.0
6	介護予防訪問入浴介護	0	0.0
7	訪問看護	4	1.5
8	介護予防訪問看護	1	0.4
9	訪問リハビリテーション	1	0.4
10	介護予防訪問リハビリテーション	1	0.4
11	居宅療養管理指導	0	0.0
12	介護予防居宅療養管理指導	0	0.0
13	通所介護	7	2.5
14	介護予防通所介護	4	1.5
15	通所リハビリテーション	0	0.0
16	介護予防通所リハビリテーション	0	0.0
17	短期入所生活介護	2	0.7
18	介護予防短期入所生活介護	1	0.4
19	短期入所療養介護	0	0.0
20	介護予防短期入所療養介護	0	0.0
21	福祉用具貸与、介護予防福祉用具貸与	1	0.4
22	特定福祉用具販売、特定介護予防福祉用具販売	0	0.0
23	住宅改修、介護予防住宅改修	1	0.4
24	特定施設入居者生活介護	0	0.0
25	介護予防特定施設入居者生活介護	0	0.0
26	夜間対応型訪問介護	0	0.0
27	認知症対応型通所介護	2	0.7
28	介護予防認知症対応型通所介護	1	0.4
29	小規模多機能型居宅介護	1	0.4
30	介護予防小規模多機能型居宅介護	0	0.0
31	認知症対応型共同生活介護	0	0.0
32	介護予防認知症対応型共同生活介護	1	0.4
33	地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0.0
34	介護老人福祉施設	1	0.4
35	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0.0
36	介護老人保健施設	0	0.0
37	介護療養型医療施設	0	0.0
38	無回答	249	90.5

＜ウ 整備の必要な地域密着型サービス＞【複数回答】

今後さらに整備が必要と思われる地域密着型サービスでは、「認知症対応型通所介護」が 51 件 (37.5%)、次いで「夜間対応型訪問介護」44 件 (32.4%) である。

(居宅介護支援事業所からの回答)



<エ 施設定員、入所者、入居者、区民の数（平均値）>

回答のあった介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設（以下、「4施設」と称する。）それぞれについて、施設定員、入所者・入居者、区民の入居状況をみると、施設定員では介護老人福祉施設 72.7 人、介護老人保健施設 109.6 人、介護療養型医療施設 39.0 人、特定施設 64.7 人である。また、入所者・入居者に対する区民の割合は、介護老人福祉施設 98.6%、介護老人保健施設 61.4%、介護療養型医療施設 44.9%、特定施設 67.5%であり、介護老人福祉施設では、要介護度別でもほとんどが区民である。

4施設合計	全体	平均値	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他
施設定員	25	75.4人	-	-	-	-	-	-	-	-
入所者・入居者総数	26	67.8人	0.2	0.5	2.6	7.9	13.7	21.3	17.9	3.8
入所者・入居者の区民の実人数	25	57.4人	0.2	0.2	1.5	6.2	11.6	19.0	15.6	3.2
<b>34:介護老人福祉施設</b>	全体	平均値	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他
施設定員	12	72.7人	-	-	-	-	-	-	-	-
入所者・入居者総数	13	71.3人	0.0	0.0	1.4	6.0	11.6	25.6	26.7	0.0
入所者・入居者の区民の実人数	13	70.3人	0.0	0.0	1.4	5.9	11.5	25.4	26.2	0.0
区民の入居率	-	98.6%	-	-	100.0%	98.7%	98.7%	99.1%	98.0%	-
<b>36:介護老人保健施設</b>	全体	平均値	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他
施設定員	5	109.6人	-	-	-	-	-	-	-	-
入所者・入居者総数	5	88.6人	0.0	0.0	4.8	16.4	30.4	26.4	10.6	0.0
入所者・入居者の区民の実人数	4	68.0人	0.0	0.0	1.5	12.0	26.0	22.3	6.3	0.0
区民の入居率	-	61.4%	-	-	25.0%	58.5%	68.4%	67.4%	47.2%	-
<b>37:介護療養型医療施設</b>	全体	平均値	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他
施設定員	2	39.0人	-	-	-	-	-	-	-	-
入所者・入居者総数	2	34.5人	0.0	0.0	1.0	2.5	3.5	13.0	14.5	0.0
入所者・入居者の区民の実人数	2	15.5人	0.0	0.0	1.0	1.0	1.5	7.5	4.5	0.0
区民の入居率	-	44.9%	-	-	100.0%	40.0%	42.9%	57.7%	31.0%	-
<b>24:特定施設入居者生活介護</b>	全体	平均値	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他
施設定員	6	64.7人	-	-	-	-	-	-	-	-
入所者・入居者総数	6	53.8人	0.8	2.0	3.8	6.7	7.8	10.3	6.0	16.3
入所者・入居者の区民の実人数	6	36.3人	0.7	1.0	1.8	4.5	5.7	6.8	2.5	13.3
区民の入居率	-	67.5%	80.0%	50.0%	47.8%	67.5%	72.3%	66.1%	41.7%	81.6%

<オ 入所・入居期間>

4施設の入所・入居者の平均入所期間をみると、介護老人保健施設が「1年未満」が94.0人で、うち、要介護3が26.6人、要介護4が22.8人である。また、介護老人福祉施設では「5年以上」が17.7人である。

4施設合計	全体	平均値	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他
1年未満	26	31.3人	0.0	0.0	1.1	3.3	7.6	9.3	6.5	3.6
1～3年未満	26	17.7人	0.2	0.3	0.7	1.6	3.2	5.7	4.9	1.0
3～5年未満	26	10.0人	0.0	0.0	0.2	1.5	1.7	3.2	2.9	0.4
5年以上	26	14.5人	0.0	0.2	0.5	1.5	2.2	3.7	4.0	2.3
計	26	73.5人	0.2	0.5	2.6	8.0	14.7	21.9	18.3	7.3
34:介護老人福祉施設	全体	平均値	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他
1年未満	13	20.2人	-	-	0.2	0.5	3.9	8.3	7.2	-
1～3年未満	13	19.5人	-	-	0.4	1.3	2.9	7.1	7.8	-
3～5年未満	13	13.8人	-	-	0.4	2.1	1.9	4.4	5.0	-
5年以上	13	17.7人	-	-	0.4	2.2	2.8	5.6	6.7	-
計	13	71.2人	-	-	1.4	6.1	11.6	25.4	26.7	-
36:介護老人保健施設	全体	平均値	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他
1年未満	5	94.0人	-	-	4.0	14.0	26.6	22.8	10.4	16.2
1～3年未満	5	19.2人	-	-	0.6	3.2	6.8	4.8	1.8	2.0
3～5年未満	5	4.6人	-	-	0.0	0.4	1.4	2.2	0.4	0.2
5年以上	5	0.8人	-	-	0.0	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0
計	5	118.6人	-	-	4.6	17.6	35.2	30.2	12.6	18.4
37:介護療養型医療施設	全体	平均値	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他
1年未満	2	16.0人	-	-	1.0	1.5	1.5	5.0	7.0	-
1～3年未満	2	7.5人	-	-	0.0	0.0	0.0	4.0	3.5	-
3～5年未満	2	6.5人	-	-	0.0	1.0	1.0	2.5	2.0	-
5年以上	2	4.5人	-	-	0.0	0.0	1.0	1.5	2.0	-
計	2	34.5人	-	-	1.0	2.5	3.5	13.0	14.5	-
24:特定施設入居者生活介護	全体	平均値	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他
1年未満	6	8.3人	0.0	0.2	0.7	1.0	1.7	1.5	1.3	2.0
1～3年未満	6	16.0人	0.8	1.2	1.8	1.5	1.8	4.2	1.8	2.8
3～5年未満	6	7.3人	0.0	0.0	0.0	1.5	1.8	1.5	0.8	1.7
5年以上	6	22.2人	0.0	0.7	1.5	2.0	2.7	3.2	2.3	9.8
計	6	53.8人	0.8	2.0	4.0	6.0	8.0	10.3	6.3	16.3

<カ 介護度悪化の状況（平均値）>

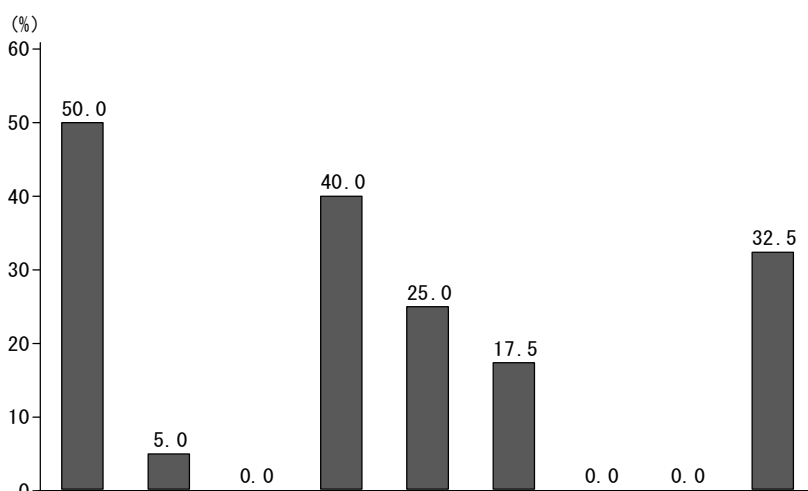
入所中の方のうち、この1年間で介護度が悪化した人数の平均は7.0人である。内訳をみると「要介護4から」悪化が最も多く、平均2.4人となっている。

	全体	平均値	要支援1から	要支援2から	要介護1から	要介護2から	要介護3から	要介護4から
全体	22	7.0人	0.2	0.2	1.3	1.3	1.7	2.4
介護老人福祉施設	11	5.6人	0.0	0.0	0.6	0.7	1.3	3.0
介護老人保健施設	4	12.3人	0.3	0.0	2.0	3.8	4.0	2.3
介護療養型医療施設	1	4.0人	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.0
特定施設入居者生活介護	6	6.2人	0.5	0.8	1.5	0.8	1.3	1.2

<キ 主な退所（居）理由> 【複数回答】

昨年1年間の主な退所（居）理由は、「利用者本人の死亡」が20件（50.0%）と最も多く、次いで「他の医療機関に転院した」が16件（40.0%）である。4施設別にみると、介護老人福祉施設では「利用者本人の死亡」が23件中12件、介護老人保健施設では「他の医療機関に転院した」「他の介護保険施設に移った」が6件中ともに5件、介護療養型医療施設では、「他の介護保険施設に移った」「他の施設（医療機関・介護保険施設を除く）に移った」が2件（全件）、特定施設入居者生活介護では、「利用者本人の死亡」が9件中7件である。

サンプル数 n=40(事業所)

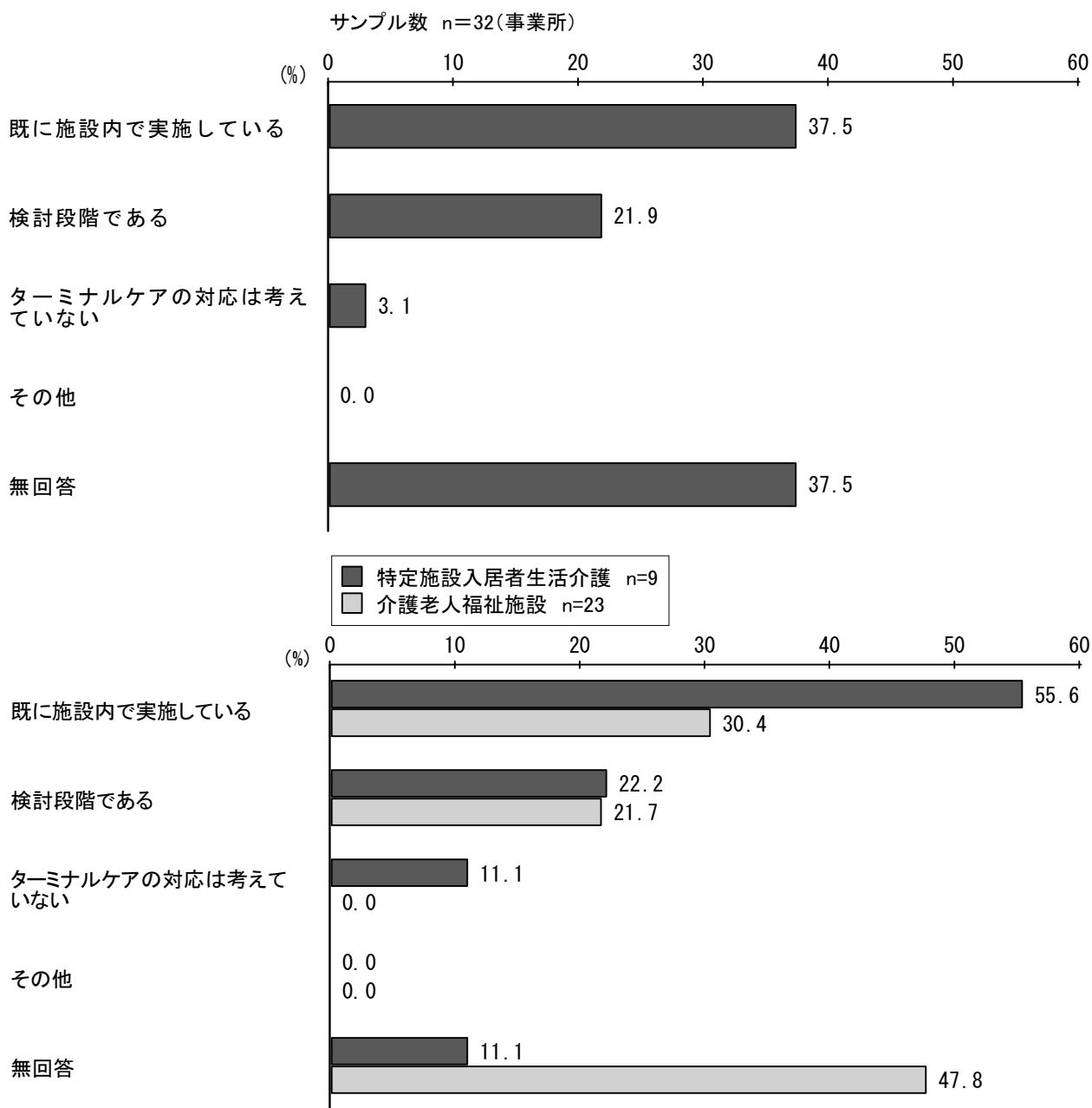


	利用者本人の死亡	自宅での生活が可能になった	本人・家族がサービス内容に不満をもった	他の医療機関に転院した	他の介護保険施設に移った	その他	把握していない、不明	無回答
全体	20 50.0	2 5.0	0 —	16 40.0	10 25.0	7 17.5	0 —	13 32.5
介護老人福祉施設	12	0	0	8	1	2	0	10
介護老人保健施設	0	1	0	5	5	1	0	1
介護療養型医療施設	1	0	0	0	2	2	0	0
特定施設入居者生活介護	7	1	0	3	2	2	0	2

<ク ターミナルケアへの対応>

ターミナルケアについては、「既に施設内で実施している」が12件(37.5%)を占める。「検討段階である」事業所は7件(21.9%)である。

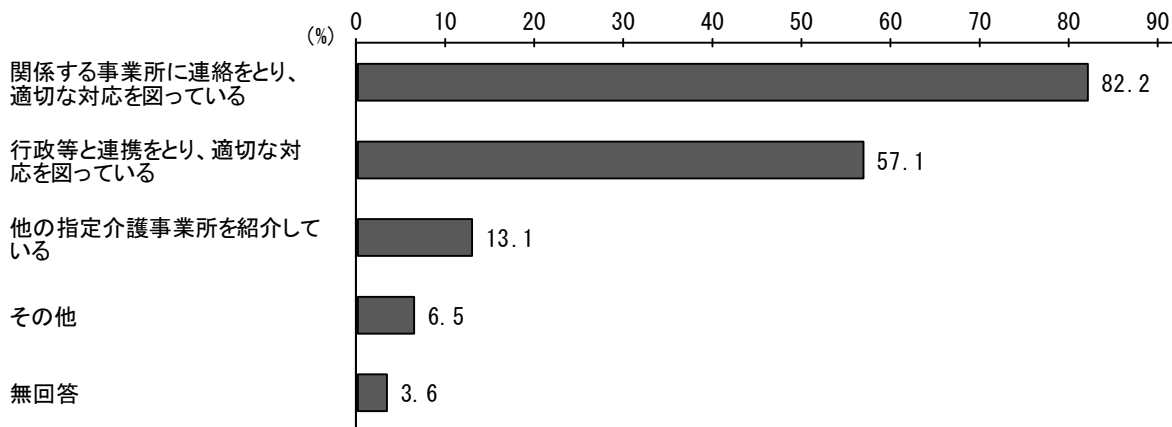
ターミナルケアへの対応を介護老人福祉施設、特定施設入居者生活介護それぞれについてみると、介護老人福祉施設では「既に施設内で実施している」は7件(30.4%)、特定施設入居者生活介護では「既に施設内で実施している」は5件(55.6%)である。



## <ケ サービス提供困難時の対応>【複数回答】

サービス提供困難時の対応としては、「関係する事業所に連絡をとり、適切な対応を図っている」事業所が 226 件 (82.2%)、「行政等と連携をとり、適切な対応を図っている」事業所が 157 件 (57.1%)である。

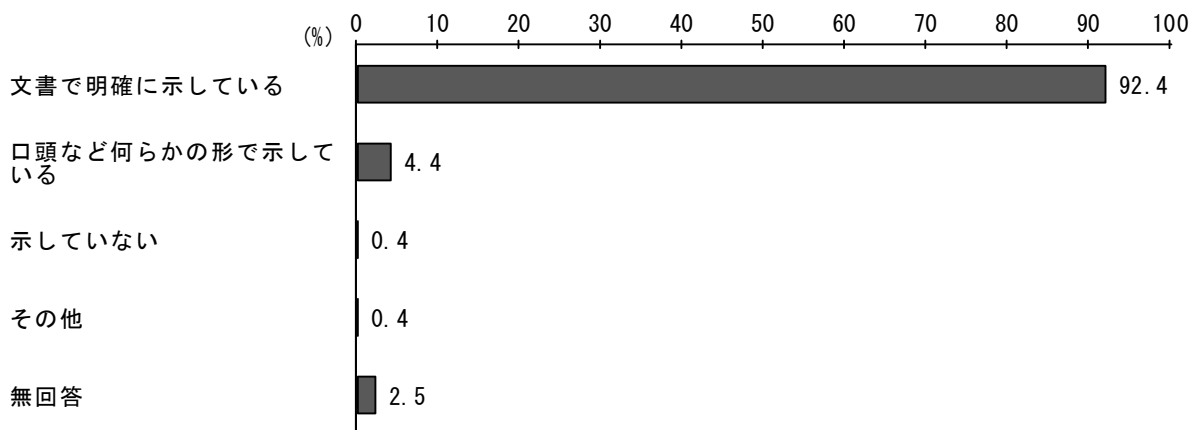
サンプル数 n=275(事業所)



## <コ 苦情処理窓口の提示>

利用者に対して、苦情処理窓口を「文書で明確に示している」事業所が 254 件 (92.4%)を占める。

サンプル数 n=275(事業所)

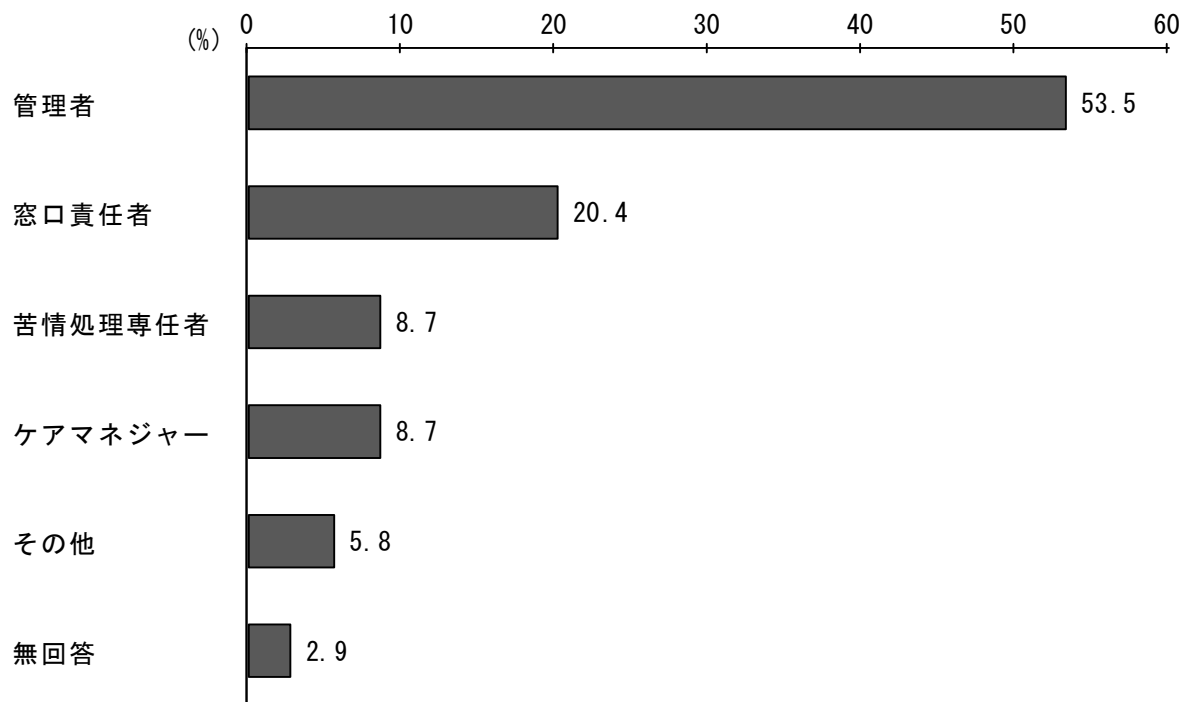




### <サ 苦情対応担当者> 【複数回答】

苦情対応の担当は、「管理者」が147件(53.5%)で最も多く、次いで「窓口責任者」が56件(20.4%)である。「苦情処理専任者」を設置し対応している事業所は24件(8.7%)である。

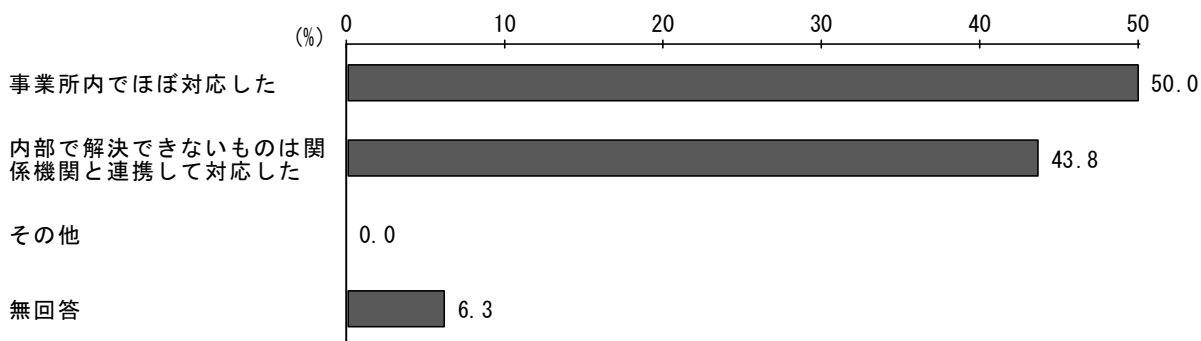
サンプル数 n=275(事業所)



### <シ 苦情処理>

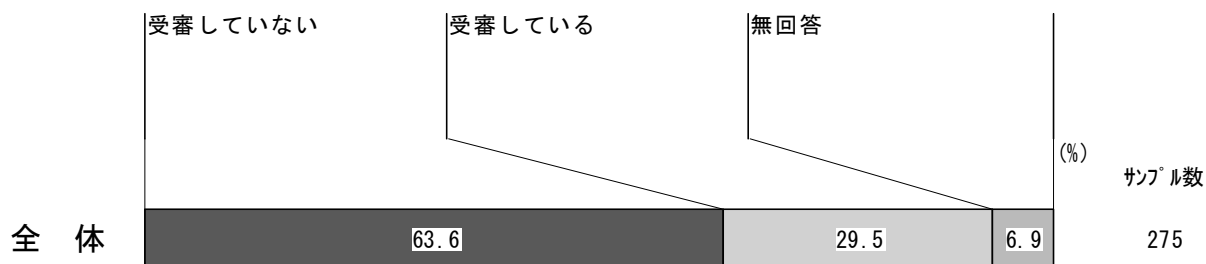
居宅介護支援事業所に寄せられた苦情に関しては、「事業所内でほぼ対応した」が24件(50.0%)で、「内部で解決できないものは関係機関と連携して対応した」が21件(43.8%)である。

サンプル数 n=48(居宅介護支援事業所)



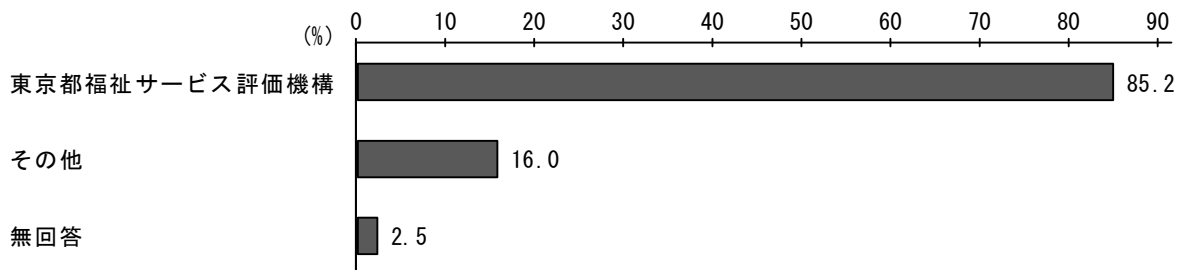
<ス 第三者評価受審状況、受審の方式>

サービス評価を「受審している」事業所は 81 件 (29.5%) であり、「受審していない」は 175 件 (63.6%) である。



受診している評価方式は「東京都福祉サービス評価機構」が 69 件 (85.2%) である。

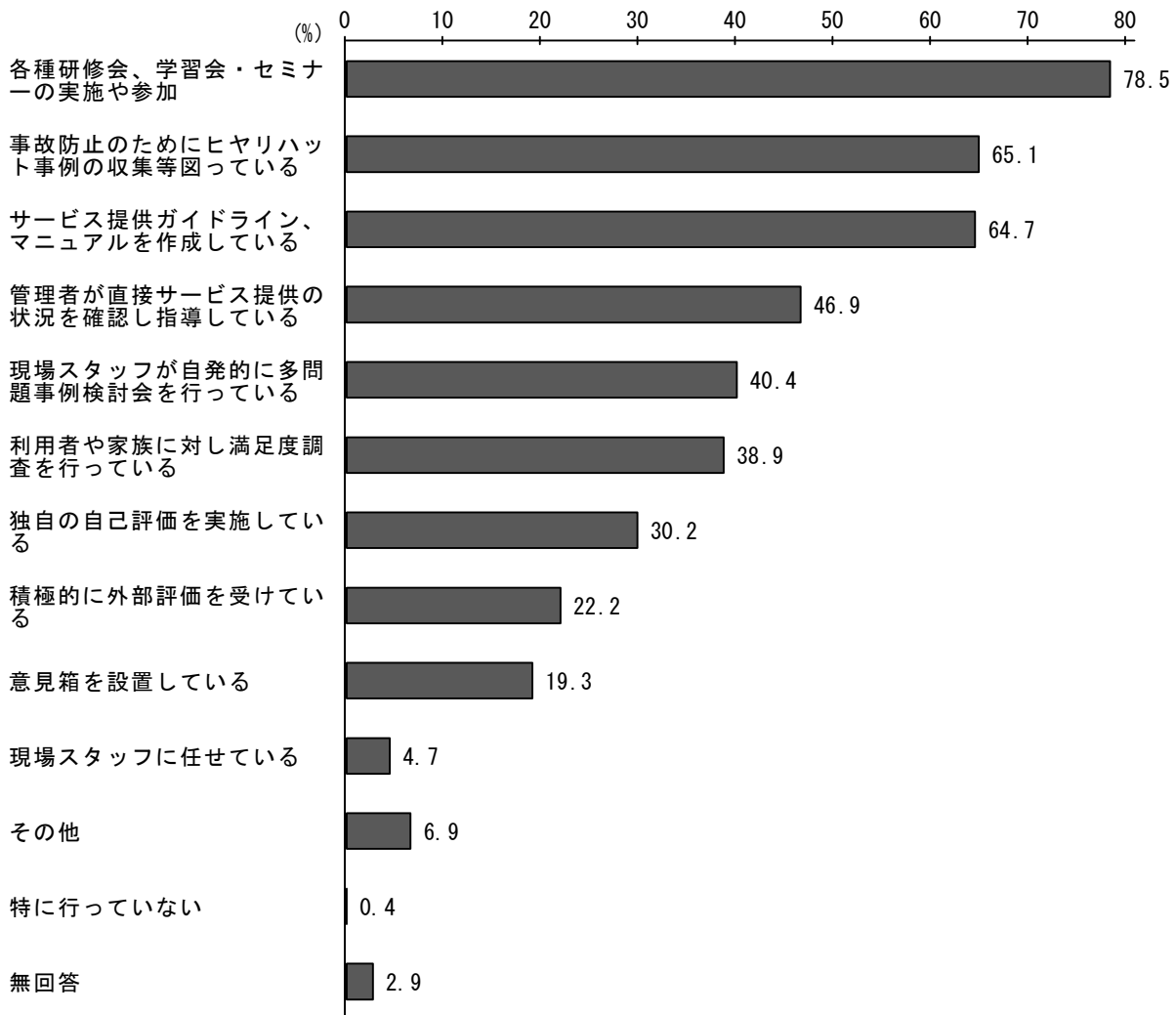
サンプル数 n=81(事業所) 【複数回答】



## <セ サービスの質の向上の取り組み> 【複数回答】

サービスの質の向上のための取り組みでは、「各種研修会、学習会・セミナーの実施や参加」が216件(78.5%)、次いで「事故防止のためにヒヤリハット事例の収集・共有を図っている」が179件(65.1%)である。

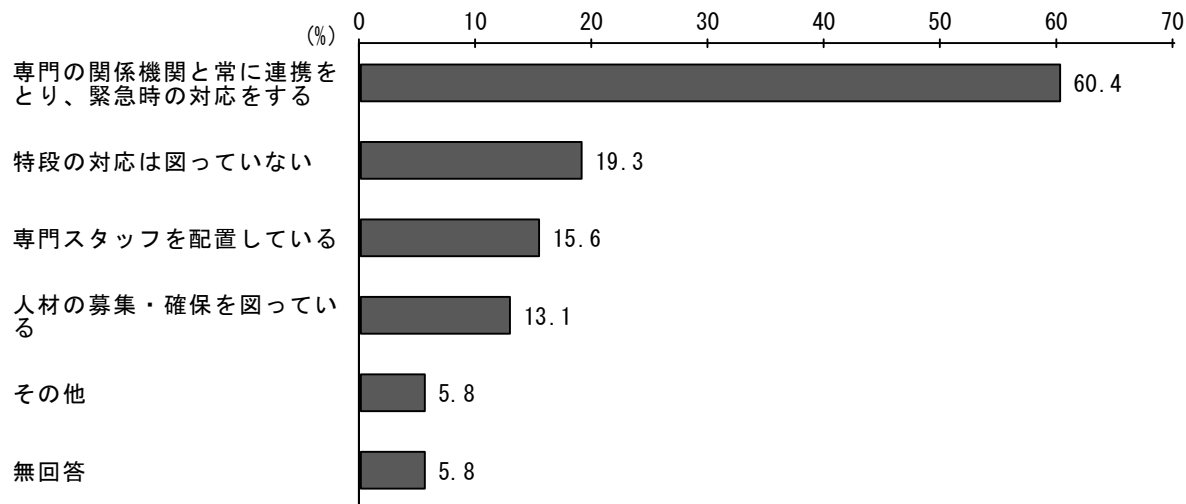
サンプル数 n=275(事業所)



### <ソ 要医療、認知症等利用者への対応>【複数回答】

要医療、認知症、障害等を有する利用者に対しては、「専門の関係機関と常に連携をとり、緊急時の対応ができるようにしている」事業所が166件(60.4%)で6割を占める。一方、「特段の対応は図っていない」事業所は53件(19.3%)である。

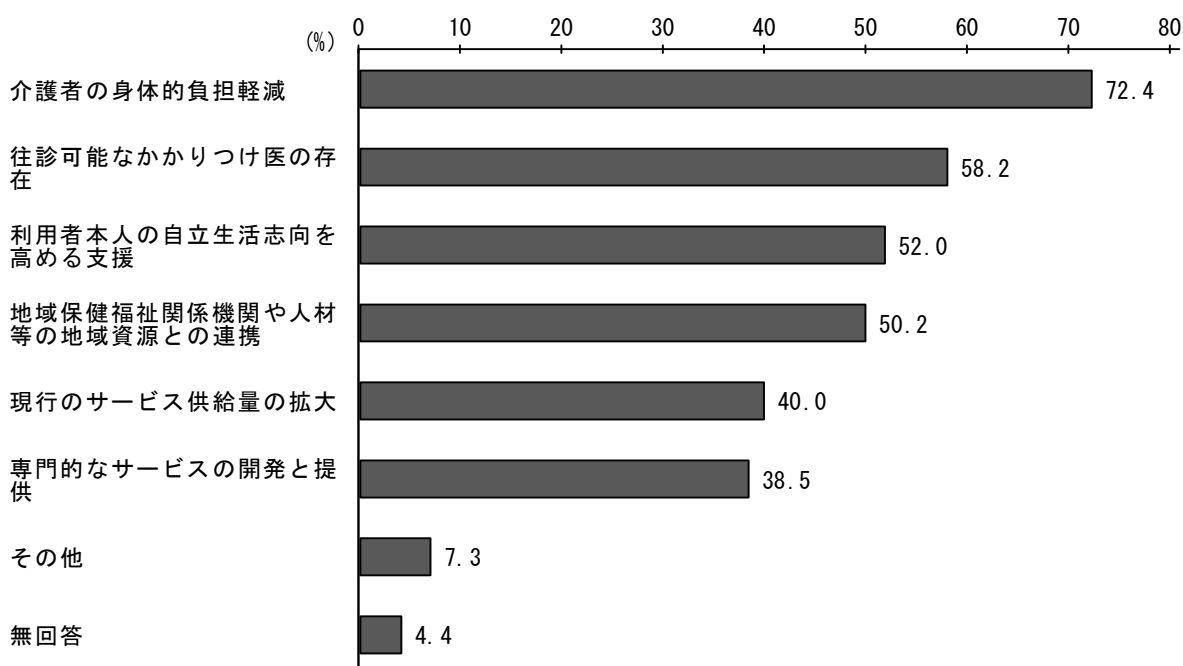
サンプル数 n=275(事業所)



### <タ 在宅生活継続に必要な条件>【複数回答】

在宅生活を継続するために必要な条件としては、「介護者の身体的負担軽減」を199件(72.4%)の事業所があげている。次いで「往診可能なかかりつけ医の存在」が160件(58.2%)である。

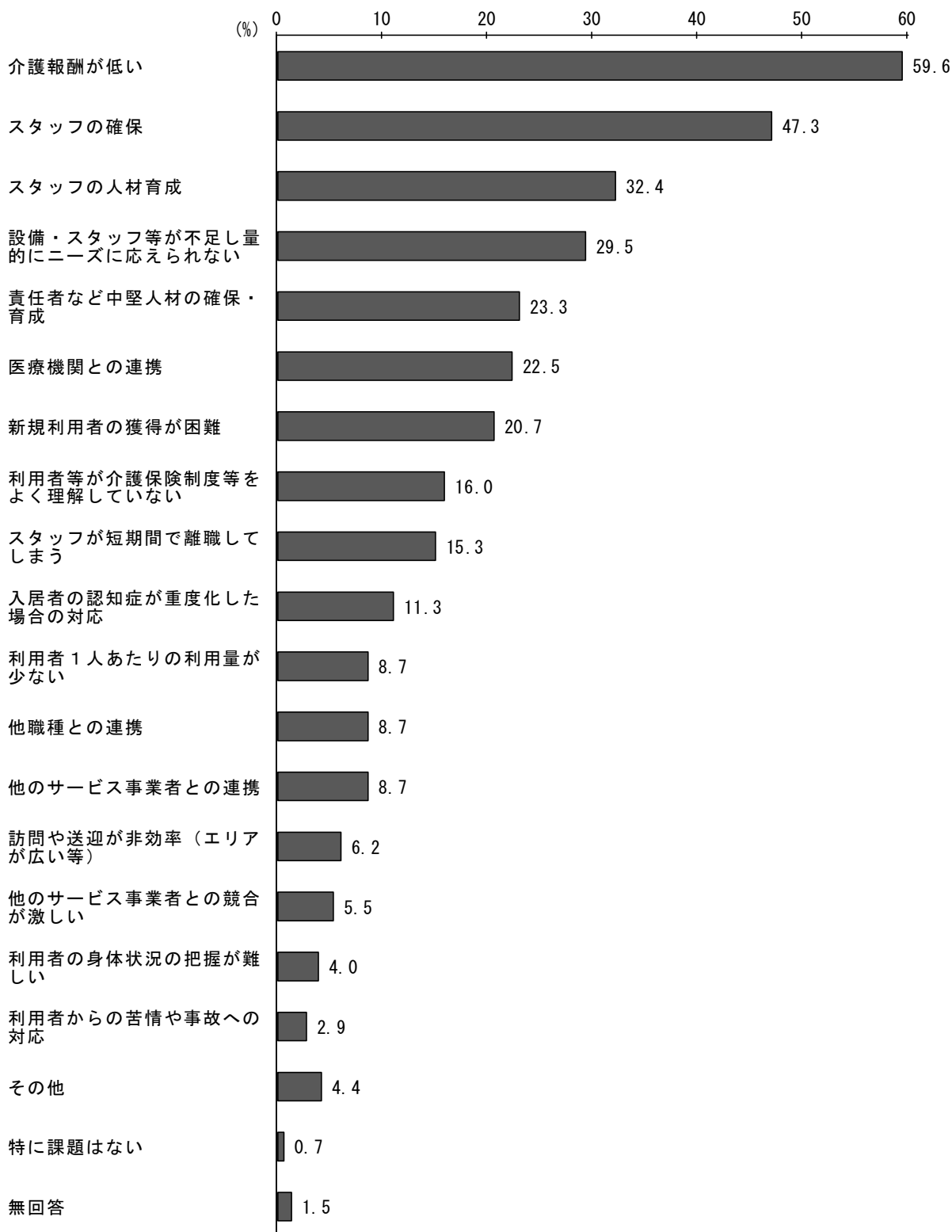
サンプル数 n=275(事業所)



< 事業運営上の課題 > 【複数回答】

事業運営上の課題としては、「介護報酬が低い」が 164 件 (59.6%) と最も多く、次いで「スタッフの確保」が 130 件 (47.3%) である。

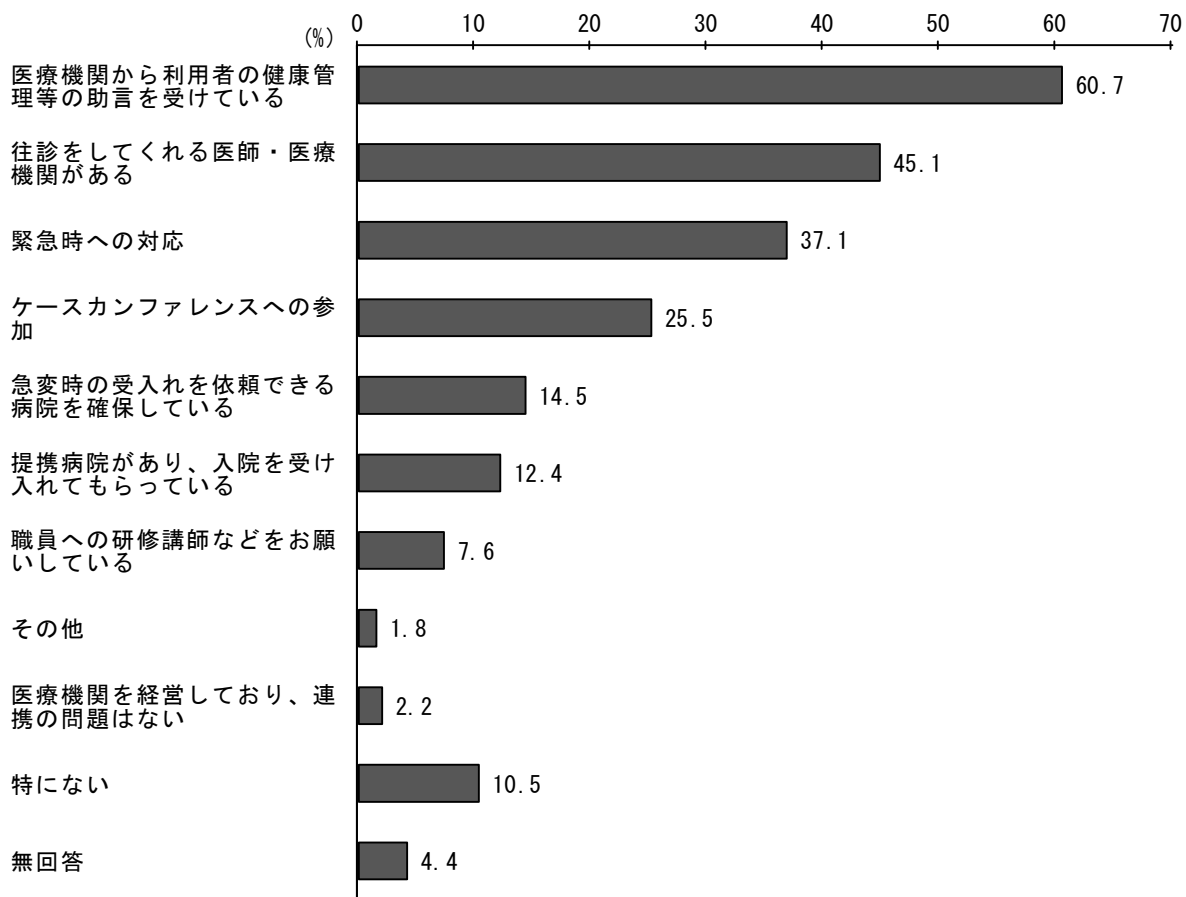
サンプル数 n=275(事業所)



## <ツ 医療機関との連携> 【複数回答】

医療機関との連携について、「医療機関から利用者の健康管理等の助言を受けている」事業所が167件(60.7%)、次いで「往診をしてくれる医師・医療機関がある」が124件(45.1%)である。

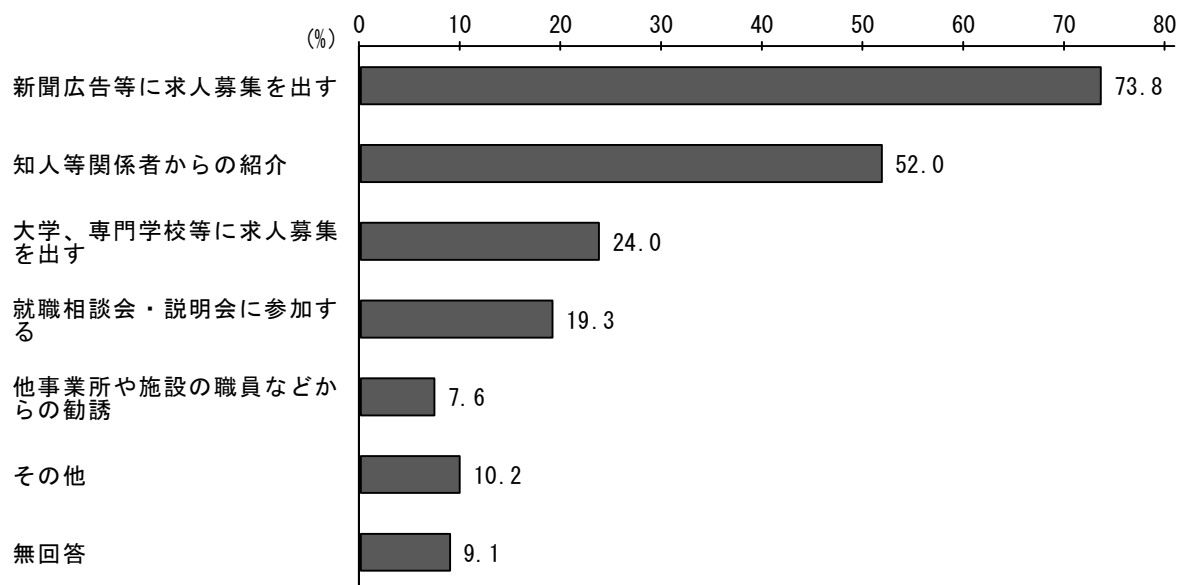
サンプル数 n=275(事業所)



<テ 介護人材確保の取り組み> 【複数回答】

介護人材の確保については、「新聞広告等に求人募集を出す」事業所が203件(73.8%)と最も多く、次いで「知人等関係者からの紹介」が143件(52.0%)である。

サンプル数 n=275(事業所)



<ト 確保困難な人材> 【複数回答】

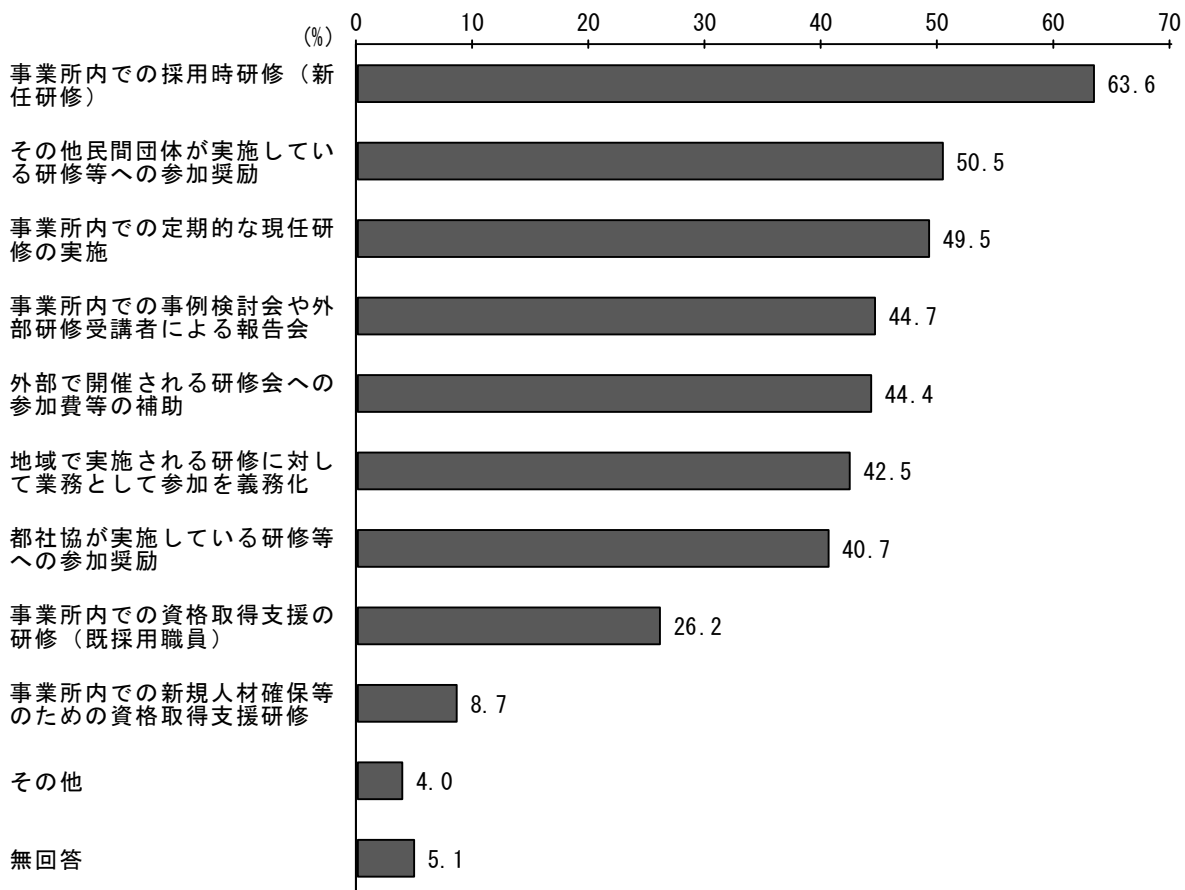
確保が困難な人材の職種については、下表のとおりである。

(主たるサービス別) サンプル数 n=275(事業所)	全体	介護支援専門員	ヘルパー1級	ヘルパー2級	ヘルパー3級	保健師	看護師	准看護師	社会福祉士	介護福祉士	理学療法士	作業療法士	管理栄養士	事務職員	相談員	医師	介護職	栄養士	機能訓練指導員	薬剤師	その他	無回答
全体	275	55	40	93	2	10	86	23	11	86	21	10	2	1	13	4	40	3	5	2	7	47
居宅介護支援	48	13	2	3	0	7	6	3	4	3	1	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	21
訪問介護	75	22	27	54	0	0	5	0	2	50	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	4
介護予防訪問介護	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
訪問看護	20	1	0	0	0	1	18	1	0	0	8	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
居宅療養管理指導	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
通所介護	33	3	1	6	0	1	20	8	1	2	5	1	1	0	6	0	11	1	3	0	0	2
介護予防通所介護	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
通所リハビリテーション	3	0	1	1	1	0	2	1	0	1	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
福祉用具貸与/介護予防福祉用具貸与	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
住宅改修介護予防住宅改修	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
特定施設入居者生活介護	7	0	2	3	0	0	6	0	1	3	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
認知症対応型通所介護	2	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症対応型共同生活介護	6	3	2	2	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
介護老人福祉施設	14	5	0	5	0	0	9	4	0	7	1	0	0	0	1	0	11	0	0	0	0	0
介護老人保健施設	5	0	0	3	0	1	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0
介護療養型医療施設	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
無回答	52	7	5	15	1	0	14	2	2	14	2	2	0	1	6	2	10	1	0	0	1	13

## <ナ 研修、資格取得支援の状況> 【複数回答】

事業所における研修や資格取得支援としては、「事業所内での採用時研修(新任研修)」が 175 件(63.6%)と最も多く、次いで、「その他民間団体が実施している研修等への参加奨励」が 139 件(50.5%)である。

サンプル数 n=275(事業所)

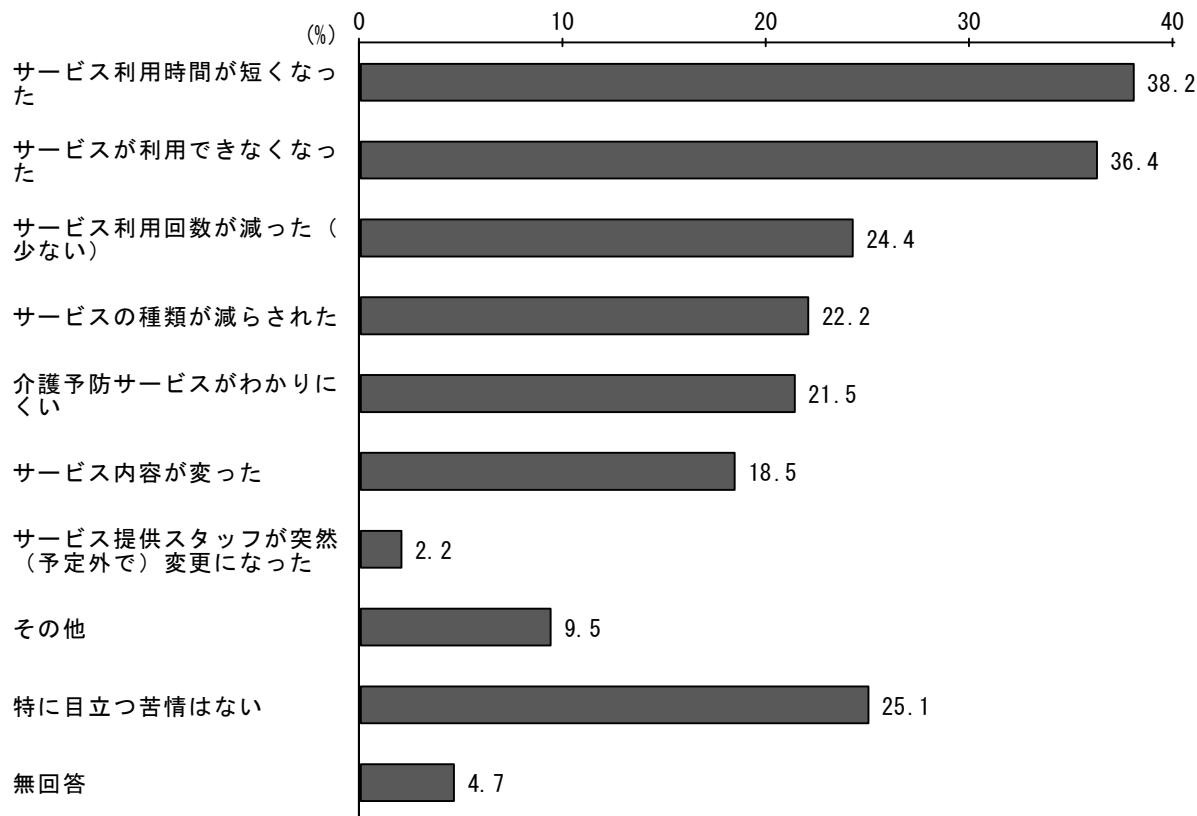




## <ニ 制度改正後の苦情> 【複数回答】

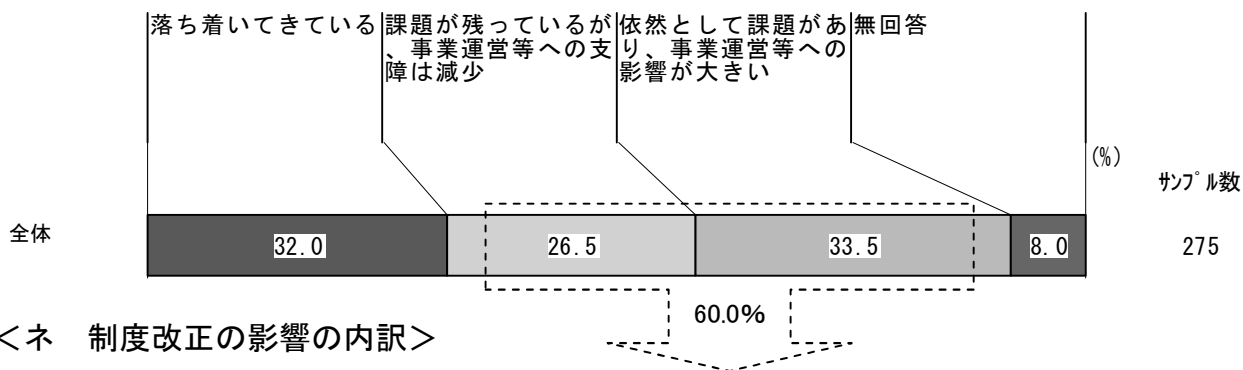
平成18年4月の制度改正以降、利用者から受けた苦情としては、「サービス利用時間が短くなった」が105件(38.2%)と最も多く、次いで「サービスが利用できなくなった」が100件(36.4%)である。

サンプル数 n=275(事業所)



<ヌ 制度改正の影響>

制度改正による影響については、「依然として課題があり、事業運営等への影響が大きい」事業所が 92 件 (33.5%)、「課題が残っているが、事業運営等への支障は減少」が 73 件 (26.5%) である。



<ネ 制度改正の影響の内訳>

制度改正の影響としては、「事務作業量の増加」が 110 件 (66.7%) と最も多く、次いで「報酬単価の減少」が 102 件 (61.8%)、「予防と介護の区分の不合理性」が 93 件 (56.4%) である。

サンプル数 n=165(事業所) 【複数回答】

